

別紙 C 厚生労働省令和元年度

主任保育士研修等の実施及び普及・啓発一式業務報告書

令和元年度 主任保育士研修等 業務報告書

令和 2 年 3 月 19 日

株式会社ポピンズ

目次

- 1 本事業の概要
 - 1.1 本事業の目的
 - 1.2 研修会の実施
 - 1.3 本事業の施設種別の対象
 - 1.4 研修会開催の広報
 - 1.5 研修受講者の管理
 - 1.6 受講者への事前課題
 - 1.7 受講者への事後課題
 - 1.8 受講者による研修内容の評価のためのアンケート調査
 - 1.9 修了証の発行
- 2 開催実績
 - 2.1 主任保育士研修
 - 2.1.1 初任主任保育士研修会
 - 2.1.1.1 主催
 - 2.1.1.2 本事業の基本コンセプト及び研修のねらい
 - 2.1.1.3 対象
 - 2.1.1.4 経費
 - 2.1.1.5 研修期間及び場所
 - 2.1.1.6 タイムスケジュール
 - 2.1.1.7 研修プログラム
 - 2.1.1.8 配布資料
 - 2.1.1.9 定員・申込者数・受講者数・修了者数
 - 2.1.1.10 受講者プロフィール
 - 2.1.1.10.1 受講者個人について
 - 2.1.1.10.2 受講者所属施設について
 - 2.1.1.10.3 研修参加の現状と要望について
 - 2.1.2 中堅主任保育士研修会
 - 2.1.2.1 主催
 - 2.1.2.2 本事業の基本コンセプト及び研修のねらい
 - 2.1.2.3 対象
 - 2.1.2.4 経費
 - 2.1.2.5 研修期間及び場所
 - 2.1.2.6 タイムスケジュール

- 2.1.2.7 研修プログラム
- 2.1.2.8 配布資料
- 2.1.2.9 定員・申込者数・受講者数・修了者数
- 2.1.2.10 受講者プロフィール
 - 2.1.2.10.1 受講者個人について
 - 2.1.2.10.2 受講者所属施設について
 - 2.1.2.10.3 研修参加の現状と要望について

2.2 保育所等実習指導研修

2.2.1 保育所等実習指導研修会

- 2.2.1.1 主催
- 2.2.1.2 本事業の基本コンセプト及び研修のねらい
- 2.2.1.3 対象
- 2.2.1.4 経費
- 2.2.1.5 研修期間及び場所
- 2.2.1.6 タイムスケジュール
- 2.2.1.7 研修プログラム
- 2.2.1.8 配布資料
- 2.2.1.9 定員・申込者数・受講者数・修了者数
- 2.2.1.10 受講者プロフィール
 - 2.2.1.10.1 受講者個人について
 - 2.2.1.10.2 受講者所属施設について
 - 2.2.1.10.3 研修参加の現状と要望について

3 事前・事後課題の集計結果

3.1 事前課題について

- 3.1.1 目的
- 3.1.2 回収方法
- 3.1.3 結果と考察

3.2 事後課題について

- 3.2.1 目的
- 3.2.2 回収方法
- 3.2.3 結果と考察

3.3 内容の理解について

- 3.3.1 主任保育士研修
 - 3.3.1.1 初任主任保育士研修会

- 3.3.1.2 中堅主任保育士研修会
- 3.3.2 保育所等実習指導研修
 - 3.3.2.1 保育士等実習指導研修会

4 振り返りと課題感、対応策について

1 本事業の概要

1.1 本事業の目的(仕様書より)

「子育て安心プラン」に基づき、待機児童の解消を図るため、保育の受け皿の拡大や、保育の受け皿拡大を支える保育人材確保等の支援策に取り組んでいる中、同時に保育人材の質を確保しなければならない。

そのため、本事業の実施により、保育所、幼保連携型認定こども園、地域型保育事業(以下、「保育所等」という。)の主任保育士及び実習指導を行う保育士を対象に、最新の保育施策の動向や関係法令、保育所等の運営における課題への対応を学ぶための研修を実施するとともに、研修により得られた知見を広く公表し、保育所等の運営に係る課題や解決策等について周知・広報を図る。

1.2 研修会の実施

主任保育士や実習指導者などを対象に以下の研修を実施した。

- (1) 初任主任保育士研修会(東京開催 1 回、大阪開催 1 回の計 2 回)
- (2) 中堅主任保育士研修会(東京開催 1 回、大阪開催 1 回の計 2 回)
- (3) 保育所等実習指導研修会(東京開催 1 回の計 1 回)

1.3 本事業の施設種別の対象

対象の詳細は、各研修会の実施要領に別途記載している。

1.4 研修会開催の広報

- (1) 都道府県・政令市・中核市の保育関係担当部署宛に実施要領を送付し、管下の市区町村・保育所等へ周知を依頼した。
- (2) 専用 WEB ページを作成し、広報・周知した。

1.5 研修受講者の管理

本事業の遂行にあたり、以下の場合に必要な研修受講者の情報については、当社の「個人情報保護方針」に基づいて、使用及び管理した。WEB による申込受付、受講票送付、事前課題の取りまとめ・集計、受講費の入金管理、研修当日の受付・受講状況の確認、事後課題の取りまとめ・集計、修了証の発行等。

1.6 受講者への事前課題

受講者に対しては、各研修内容に即した選択項目ならびに担当講師に

による記述式課題を課した。参加する研修内容の事前知識と経験を把握するとともに、研修会の受講にあたり相応しい準備・研修効果を上げることを目的としている。研修参加の意図やニーズを把握するため事前課題を社内で分析し報告書にも結果を記載した。

1.7 受講者への事後課題

受講者に対しては、各研修内容に即した選択項目ならびに記述式課題を課した。研修後の理解度を把握し研修効果の測定とその向上を図ることを目的としている。さらに得られた知見や学びを定着させ、今後の保育現場にこれを活用し意識や行動の改革につながる一助となることを意図している。

1.8 受講者による研修内容の評価のためのアンケート調査

研修のねらいに対して、受講者の達成度を計測するために、受講者の属性と以下のアンケート項目（選択肢形式）を収集・集計した。選択肢形式において定量的に分析・比較し、より具体的な内容や運営・企画の際に見落としていた視点についてエビデンスを基にして分析した。

- ① 研修前の受講者が研修内容に対してどれくらい知識があるか《事前知識》
- ② 各研修で各々のねらいに対し、どの程度講義内容を理解できたか《達成度》

※上記 2 項目は 4 段階の尺度で評価をする。

1.9 修了証の発行

3 日間の研修をすべて受講し、さらに事前・事後課題を指定通りに提出した者に発行する。受講状況については、研修ごとに受講票及び身分証明書の提示を求め、事前・事後課題の提出状況は WEB システムを利用して、出席及び提出確認を管理している。発行については、研修会終了から約1～2か月後を目途に、申込書に記載された園（組織）、または個人宛に発送している。

2 開催実績

2.1 主任保育士研修

2.1.1 初任主任保育士研修会

2.1.1.1 主催

厚生労働省

受託先 株式会社ポピンズ

2.1.1.2 本事業の基本コンセプト及び研修のねらい

(研修のねらい)

- ・主任保育士等の多様な役割を理解する。
- ・リーダー的な立場として、求められる専門性の向上を図る。
- ・保育に関する最新のトピックや他園の実践から、保育の質の向上への手立てを学ぶ。

(研修内容)

厚生労働省から委託されているということを踏まえ、各ガイドラインや保育所保育指針に沿ったものとした上で、社会一般的に通説として認識されている標準的な内容とした。

2.1.1.3 対象

現職の経験年数 4 年未満の保育所等の主任保育士、幼児連携型認定こども園の主幹保育教諭、指導保育教諭及びこれらに準ずる保育士又は保育教諭

2.1.1.4 経費

研修会受講費1,500円

2.1.1.5 研修期間及び場所

初任主任保育士研修会 東京開催

日 程:令和元年 11 月 20 日(水)～22 日(金)

場 所:ベルサール新宿住友スカイルーム(47F)

(東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル)

初任主任保育士研修会 大阪開催

日 程:令和 2 年 2 月 19 日(月)～21 日(水)

場 所:TKP ガーデンシティ梅田(15F)

(大阪府大阪市福島区福島5丁目4-21TKP ゲートタワービル)

2.1.1.6 タイムスケジュール

1日目	
受付	11:40-12:40
開会式	12:40-13:00
研修①	13:00-14:00
休憩	15分
研修②	14:15-17:15
案内	17:15-17:25

2日目	
受付	8:30-9:00
研修③	9:00-12:00
昼休憩	1時間
研修④	13:00-16:00
案内	16:00-16:10

3日目	
受付	8:30-9:00
研修⑤-前	9:00-12:00
昼休憩	1時間
研修⑤-後	13:00-15:00
閉会式	15:00-15:10

2.1.1.7 研修プログラム

日程	研修No	研修科目	研修内容	方法・時間	東京 11/20～11/22 @ベルサール新宿住友 スカイルーム 講師候補名	大阪 2/19～2/21 @TKP 梅田 講師候補名
1日目	①	保育制度の動向 及び関係法令等	・保育制度の動向 ・関係法令等 (保育所保育指針に関する内容含む) ・各種ガイドライン	講義 1時間	厚生労働省 子ども家庭局保育課	
	②	保育所等における 主任保育士の役割	・保育所等における主任保育士の役割と責務 ・保育現場における課題への対応	ワーク ショップ 3時間	流通経済大学 社会学部 准教授 米原 立将	大阪総合保育大学 学長 大方 美香
2日目	③	子どもの 発達と保育	・子どもの発達を踏まえた保育実践 ・保育の質の向上を図るための組織的な対応	講義 3時間	東京大学大学院 教育学研究科 教授 遠藤 利彦	大妻女子大学名誉教授 大阪総合保育大学大学院 特任教授 阿部 和子
	④	保護者支援・ 子育て支援	・保育所等における保護者支援・子育て支援 ・保育相談支援の実践	講義・ グループ討議 3時間	梅花女子大学 こども学科 准教授 鎮 朋子	
3日目	⑤	保育所等における 人材育成	・保育現場におけるリーダーシップ ・職員の資質向上 ・職場における研修の企画立案・実施	講義・ グループ討議 5時間	東京成徳短期大学 幼児教育科 教授 寺田 清美	元東京家政大学 教授 網野 武博

2.1.1.8 配布資料

- (i) 研修テキスト
- (ii) 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- (iii) 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン
- (iv) 保育所における食事の提供ガイドライン
- (v) 保育所における感染症対策ガイドライン
- (vi) 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
- (vii) 保育の場において血液を介して感染する病気を防止するためのガイドライン
- (viii) 保育所における自己評価ガイドライン
- (ix) 上記の他、各講義等で必要な資料上記の他、各講義等で必要な資料

2.1.1.9 定員・申込者数・受講者数・修了者数

開催地	定員(名)	申込者数 (名)	受講者数 (名)	修了者数 (名)	受講者/定員
大阪	300	99	91	91	30%
東京	300	160	133	127	44%
合計	600	259	224	218	37%

2.1.1.10 受講者プロフィール

2.1.1.10.1 受講者個人について

・性別について

東京・大阪ともに、9割以上が女性であった。

・年齢について

東京会場では30代前半が22%と最も多く、次いで40代後半が19%であったが、大阪会場では40代後半が29%と最も多く、40代前半が27%であった。

・保育士資格の取得方法

東京・大阪ともに、専門(専修)学校・短期大学で取得した割合が8割弱を占めた。

・現職(現在の役職)

東京会場では73%が、大阪会場では82%が主任保育士であった。

・保育士就業年数(通算)

東京会場では10-29年が42%と最も多く、大阪会場では20年以上が59%を占めていた。これは、受講者の年齢が大阪会場の方が相対的に高かったことが反映されているものと思われる。

・現職の経験年数

1-3年が東京会場では75%、大阪会場では71%と最も多かった。

2.1.1.10.2 受講者所属施設について

・就業施設の運営主体

東京会場では「民設・民営」が63%を占めた一方で、大阪会場では「公設・公営」が54%を占めた。

・施設種別

「認可保育所」が最も多く(東京会場84%、大阪会場68%)、また大阪会場では次いで16%が「認定こども園(幼保)」であった。

・園所在の都道府県

受講者所属園の所在地は、東京会場では東京、千葉、埼玉の順(3都道県で81%を占める)であり、大阪会場では様々な都道府県からの受講者がみられ最も多い大阪でも

13%程度であった。

・勤務施設の定員数合計

81-90 名定員の施設が最も多かった。

・職員数合計

東京会場では 21-30 名の職員数の施設が最も多く、大阪会場では 11-20 名の職員数の施設が最も多かった。

・クロス集計による施設情報の解析(下記の表参照のこと)

「園所在地と就業施設運営主体」から、公設・公営は愛知、大阪、東京の順で多く、公設・民営は東京、千葉、大阪、兵庫の順で多く、民設・民営は東京、千葉、埼玉の順であった。また本表からは、各都道府県の受講者が、東京と大阪のどちらの会場で参加したかが見て取れるが、北海道・九州・沖縄はどちらの会場でも参加があった。

「園所在地と勤務施設の定員数合計」では、各都道府県受講者の施設規模をみることができる(縦列は都道府県を北から順に並べ、横行は定員数を昇順に並べている。黄色のハイライトの行は東京都と大阪府の結果。縦のオレンジのハイライトは、19, 60, 90, 120)。その結果、東京圏では 30-100 名の規模の園が広く分布しているが、中部・関西地方はそれより比較的大きな規模の施設からの受講者が多かった。

表 2.1.1.10.2_1 園所在地と就業施設運営主体

行ラベル	公設・公営	公設・民営	民設・民営	総計
北海道	1	3		4
初任主任大阪	1	1		2
初任主任東京			2	2
岩手県	1			1
初任主任東京	1			1
宮城県	2	1		3
初任主任大阪		1		1
初任主任東京	2			2
秋田県	2			2
初任主任東京	2			2
山形県	1			1
初任主任東京	1			1
福島県	1	2	1	4
初任主任東京	1	2	1	4
茨城県	2	1		3
初任主任東京	2	1		3
栃木県	1			1
初任主任東京	1			1
埼玉県	1	3	20	24
初任主任東京	1	3	20	24
千葉県	5	9	14	28
初任主任東京	5	9	14	28
東京都	6	12	49	67
初任主任大阪			1	1
初任主任東京	6	12	48	66
神奈川県			4	4
初任主任東京			4	4
新潟県	1	1		2
初任主任東京	1	1		2
石川県	3			3
初任主任大阪	3			3
福井県	2			2
初任主任大阪	2			2
岐阜県	7			7
初任主任大阪	6			6
初任主任東京	1			1
愛知県	8	1		9
初任主任大阪	8	1		9
三重県	3	1	4	8
初任主任大阪	3	1	4	8
滋賀県	2		1	3
初任主任大阪	2		1	3
京都府	2	1		3
初任主任大阪	2	1		3
大阪府	7	1	4	12
初任主任大阪	7	1	4	12
兵庫県	1	5	2	8
初任主任大阪	1	5	2	8
奈良県	1		3	4
初任主任大阪	1		3	4
和歌山県	5		1	6
初任主任大阪	5		1	6
島根県	2		2	4
初任主任大阪	2		2	4
岡山県	3			3
初任主任大阪	3			3
広島県			4	4
初任主任大阪			4	4
山口県			3	3
初任主任大阪			3	3
香川県	3			3
初任主任大阪	3			3
福岡県	3	2		5
初任主任大阪	2			2
初任主任東京	1	2		3
大分県			1	1
初任主任大阪			1	1
沖縄県		4	3	7
初任主任大阪		3	2	5
初任主任東京		1	1	2
総計	71	45	123	239

表 2.1.1.10.2_2 園所在地と勤務施設の定員数合計

[illegible]

The figure is a 2D plot representing a 256x256 grid. The x-axis is labeled with values from 102 to 256 in increments of 3. The y-axis is labeled with values from 1 to 256 in increments of 3. The plot shows a sparse distribution of 1s (black dots) and 0s (white space). A red ellipse highlights a region of high density of 1s, roughly centered around (150, 150). A vertical orange bar is located at x=114, and two horizontal yellow bars are located at y=28 and y=112. The right edge of the plot is labeled with counts from 4 to 27, which correspond to the values in the rightmost column of the grid.

2.1.1.10.3 研修参加の現状と要望について

・園内研修と園外研修

東京会場では、園内研修も園外研修も 0-20 回/年まで幅広く分布していた。一方大阪会場では、園内研修が 7-10 回/年という施設が 26%であり、園外研修は 7-10 回 23%であった。

・クロス集計による研修回数の解析

園内(縦列)、園外(横行)ともに年間に参加する研修がないと答えた受講者が全体の 2.5% (239 名中 6 名)をであった。また、表において大きい数値(黄色のハイライト)の配置が右下がりの直線状に並ぶことから、全体として、園内研修が少ない園では園外研修も同様に受ける機会が少なく、園内研修が多い園では園外研修を受ける機会も多いということが示唆された。

・習得を希望する知識・技能

東京・大阪会場ともに、安全管理、保護者対応の仕方、特別な支援を必要とする子どもへの接し方について希望する受講者が多かった。大阪会場は、さらに同僚とのコミュニケーションにも関心が高かった。

表 2.1.1.10.3 園内研修数と園外研修数

行ラベル	ない	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7～10回	11～20回	21回以上	総計
⊕ない	6	1	3	6	1		1	1			19
⊕1回	1	3	2	5	2		3	2			18
⊕2回	3	1	3	9	4	4	1	6	1		32
⊕3回	1	1	4	10	2	5	2	3			28
⊕4回	1	1	4	3	2	3		3			17
⊕5回	1		2	4	4	7	2	3			23
⊕6回		1	2		1	5	2	3	2		16
⊕7～10回		2	5	5	4	10	3	13	1		43
⊕11～20回			3	7	4	4	5	9	7	2	41
⊕21回以上								1		1	2
総計	13	10	28	49	24	38	19	44	11	3	239

2.1.2 中堅主任保育士研修会

2.1.2.1 主催

厚生労働省

受託先 株式会社ポピンズ

2.1.2.2 本事業の基本コンセプト及び研修のねらい

(研修のねらい)

- ・主任保育士として、保育所等に求められる多様なニーズに対応するために必要な知識・技術を学ぶ。
- ・保育所等の組織全体で質の高い保育を展開するためのマネジメント能力の向上を図る。

(研修内容)

厚生労働省から委託されているということを踏まえ、各ガイドラインや保育所保育指針に沿ったものとした上で、社会一般的に通説として認識されている標準的な内容とした。

2.1.2.3 対象

現職の経験年数 4 年以上の保育所等の主任保育士、幼保連携型認定こども園の主幹保育教諭、指導保育教諭及びそれに準ずる保育士又は保育教諭

2.1.2.4 経費

研修会受講費1,500円

2.1.2.5 研修期間及び場所

中堅主任保育士研修会 東京開催

日 程:令和2年1月27日(月)～29日(水)

場 所:喜山倶楽部(日本教育会館内9F)

(東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館内9階)

中堅主任保育士研修会 大阪開催

日 程:令和元年12月3日(火)～5日(木)

場 所:TKP ガーデンシティ梅田(15F)

(大阪府大阪市福島区福島5丁目4-21TKP ゲートタワービル)

2.1.2.6 タイムスケジュール

1日目		2日目		3日目	
		受付 : 8:30-9:00		受付 : 8:30-9:00	
		研修③ 9:00-12:00		研修⑤-前 9:00-12:00	
		昼休憩 1時間		昼休憩 1時間	
		研修④ 13:00-16:00		研修⑤-後 13:00-16:00	
		案内 : 16:00-16:10		閉会式 : 16:00-16:10	
受付 :	11:40-12:40				
開会式 :	12:40-13:00				
研修① :	13:00-14:00				
休憩 :	15分				
研修② :	14:15-16:15				
案内 :	16:15-16:25				

2.1.2.7 研修プログラム

日程	研修No	研修科目	研修内容	方法・時間	東京 1/27～1/29 @喜山倶楽部 講師候補名	大阪 12/3～12/5 @TKP 梅田 講師候補名
1日目	①	保育制度の動向 及び関係法令等	・保育制度の動向 ・関係法令等 (保育所保育指針に関する内容を含む) ・各種ガイドライン	講義 1時間	厚生労働省 子ども家庭局保育課	
	②	保育所等における 主任保育士の役割	・保育所等における主任保育士の役割と責務 ・保育現場における課題への対応	ワーク ショップ 2時間	大妻女子大学 家政学部 児童学科 准教授 石井 章仁	東京成徳短期大学 幼児教育科 教授 寺田 清美
2日目	③	子どもの 発達と保育	・子どもの発達を踏まえた保育実践 ・保育の質の向上を図るための組織的な対応	講義 3時間	東京家政大学 家政学部 児童学科 准教授 堀 科	大阪城南女子短期大学 総合保育学科 教授 松本 敦
	④	保護者支援・ 子育て支援	・保育所等における保護者支援・子育て支援 ・保育相談支援の実践	講義・ グループ討議 3時間	梅花女子大学 こども学科 准教授 鎮 朋子	東京経営短期大学 こども教育学科 准教授 藤川 志つ子
3日目	⑤	保育所等における 人材育成	・保育現場におけるリーダーシップ ・職員の資質向上 ・職場における研修の企画立案・実施	講義・ グループ討議 6時間	大妻女子大学 家政学部 児童学科 准教授 石井 章仁	大阪総合保育大学 学長 大方 美香

2.1.2.8 配布資料

- (i) 研修テキスト
- (ii) 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- (iii) 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン
- (iv) 保育所における食事の提供ガイドライン
- (v) 保育所における感染症対策ガイドライン
- (vi) 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
- (vii) 保育の場において血液を介して感染する病気を防止するためのガイドライン
- (viii) 保育所における自己評価ガイドライン
- (ix) 上記の他、各講義等で必要な資料上記の他、各講義等で必要な資料

2.1.2.9 定員・申込者数・受講者数・修了者数

開催地	定員(名)	申込者数 (名)	受講者数 (名)	修了者数 (名)	受講者/定員
大阪	300	40	32	32	11%
東京	300	119	114	113	38%
合計	600	159	146	145	19%

2.1.2.10 受講者プロフィール

2.1.2.10.1 受講者個人について

・性別について

大阪会場は 89%が、東京会場は 97%が女性であった。

・年齢について

大阪会場では 40 代後半が 24%、40 代後半が 34%と最も多く、50 代前半が 27%であった。東京会場では 40 代後半が 25%で、50 代前半が 28%であった。

・保育士資格の取得方法

東京・大阪ともに、専門(専修)学校・短期大学で取得した割合が 9 割以上を占めた。

・現職(現在の役職)

東京会場では 68%が、大阪会場では 66%が主任保育士で

あった。

- ・保育士就業年数(通算)

大阪会場では 20 年以上が 67%を占め、東京会場では 51%を占めていた。

- ・現職の経験年数

2-3 年が大阪会場では 27%、大阪会場で 24%と最も多かった。

2.1.2.10.2 受講者所属施設について

- ・就業施設の運営主体

大阪会場では「公設・公営」が 55%を占めた一方で、東京会場では「民設・民営」が 45%を占めた。

- ・施設種別

「認可保育所」が最も多く、大阪会場 57%、東京会場 81%であった。

- ・園所在の都道府県

受講者所属園の所在地は、大阪会場では大阪、京都、兵庫の順(3 府県で 59%を占めた)、東京会場では東京、埼玉、千葉の順(3 都県で 66%を占めた)であった。

- ・勤務施設の定員数合計

大阪会場では 141-151 名の定員数の施設が最も多く、東京会場では 81-90 名、次いで 11-20 名の定員数の施設が最も多かった。

- ・職員数合計

大阪会場では 31-40 名の職員数の施設が最も多く、東京会場では 21-30 名の職員数の施設が最も多かった。

- ・クロス集計による施設情報の解析(下記の表参照のこと)

「園所在地と就業施設運営主体」から、公設・公営は千葉、埼玉の順で多く、公設・民営は東京、埼玉の順で多く、民設・民営は東京、大阪、埼玉の順であった。また本表からは、各都道府県の受講者が、東京と大阪のどちらの会場で参加したかが見て取れるが、北海道・富山・愛知はどちらの会場でも参加があった。

「園所在地と勤務施設の定員数合計」では、各都道府県受講者の施設規模をみることができる(縦列は都道府県を北から順に並べ、横行は定員数を昇順に並べている。

黄色のハイライトの行は東京都と大阪府の結果。)。その結果、東京都では広く分布しているが、関西地方はそれより比較的大きな規模の施設からの受講者が多かった。

表 2.1.2.10.2_1 園所在地と就業施設運営主体

公設・公営		公設・民営		民設・民営		総計	
北海道	1			1		2	
中堅主任大阪	1					1	
中堅主任東京				1		1	
青森県		1		3		4	
中堅主任東京		1		3		4	
岩手県	2					2	
中堅主任東京	2					2	
福島県				1		1	
中堅主任東京				1		1	
茨城県		1		2		3	
中堅主任東京		1		2		3	
栃木県	2			2		4	
中堅主任東京	2			2		4	
埼玉県	12	5		10		27	
中堅主任東京	12	5		10		27	
千葉県	14	1		5		20	
中堅主任東京	14	1		5		20	
東京都		9		23		32	
中堅主任東京		9		23		32	
神奈川県	5	3		5		13	
中堅主任東京	5	3		5		13	
新潟県				1		1	
中堅主任東京				1		1	
富山県	4					4	
中堅主任大阪	1					1	
中堅主任東京	3					3	
福井県	2					2	
中堅主任大阪	2					2	
長野県	1					1	
中堅主任東京	1					1	
岐阜県	1					1	
中堅主任大阪	1					1	
静岡県	1					1	
中堅主任東京	1					1	
愛知県	5					5	
中堅主任大阪	2					2	
中堅主任東京	3					3	
三重県	2					2	
中堅主任大阪	2					2	
京都府	3	1				4	
中堅主任大阪	3	1				4	
大阪府		3		11		14	
中堅主任大阪		3		11		14	
兵庫県	3			1		4	
中堅主任大阪	3			1		4	
岡山県	1					1	
中堅主任大阪	1					1	
山口県	1					1	
中堅主任大阪	1					1	
香川県	1					1	
中堅主任大阪	1					1	
高知県	3					3	
中堅主任大阪	3					3	
佐賀県		1				1	
中堅主任東京		1				1	
鹿児島県		1				1	
中堅主任東京		1				1	
沖縄県				1		1	
中堅主任東京				1		1	
総計	64	26		66		156	

表 2.1.2.10.3 園内研修数と園外研修数

[illegible]

2.1.2.10.3 研修参加の現状と要望について

・園内研修と園外研修

大阪会場では、園内研修が 11-20 回/年という施設が 22%で最も多く、園外研修は 7-10 回 22%であった。東京会場では、園内研修も園外研修も 7-10 回/年が最も多く、それぞれ 25%、26%であった。

・クロス集計による研修回数の解析

園内(縦列)、園外(横行)ともに年間に参加する研修がないと答えた受講者が全体の 2% (156 名中 3 名)をであった。また、表において上位3つの数値(黄色のハイライト)の配置が真横の直線状に並ぶことから、全体として園内研修は比較的多く行われるが、園外研修を受ける機会は施設によって異なることが示唆された。

・習得を希望する知識・技能

東京・大阪会場ともに、半数以上の受講者が希望していたのは、保護者対応の仕方、特別な支援を必要とする子どもへの接し方であった。またさらに東京会場では、さらに安全管理と保育所保育指針にも関心が高かった。

表 2.1.2.10.3 園内研修数と園外研修数

行ラベル	ない	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7～10回	11～20回	(空白)	総計
⊕ない	3		3	2	2		1	1			12
⊕1回		1	1	1	2	2		1			8
⊕2回		1	4	5	1	2		1			14
⊕3回		1	2	5	1	3	1	2	1		16
⊕4回			2	3	2	1	1		2		11
⊕5回		1	5	1	3	5		1	2		18
⊕6回			2	2	2		3	4			13
⊕7～10回		1	4	4	3	5	2	8	3		30
⊕11～20回	1	1	1	8	1	1	1	11	3		28
⊕21回以上			1				1	3	1		6
⊖(空白)											
(空白)											
総計	4	6	25	31	17	19	10	32	12		156

2.2 保育所等実習指導研修

2.2.1 保育所等実習指導研修会

2.2.1.1 主催

厚生労働省

受託先 株式会社ポピンズ

2.2.1.2 本事業の基本コンセプト及び研修のねらい

(研修のねらい)

- ・保育士養成校と学生の実情を把握する。
- ・保育所実習における指導の方法と理論について学ぶ。
- ・実習指導者としての専門性を高める。

(研修内容)

厚生労働省から委託されているということを踏まえ、各ガイドラインや保育所保育指針に沿ったものとした上で、社会一般的に通説として認識されている標準的な内容とした。

2.2.1.3 対象

保育所等において保育実習の実習指導を行う者(予定者を含む)

2.2.1.4 経費

研修会受講費1,500円

2.2.1.5 研修期間及び場所

保育所等実習指導研修

日 程:令和2年2月12日(水)～13日(木)

場 所:日本教育会館(8F 第一会議室)

(東京都千代田区一ツ橋 2-6-2)

2.2.1.6 タイムスケジュール

2月12日	
受 付	11:40-12:40
開会式	12:40-13:00
研修 ①	13:00-14:00
休 憩	15分
研修 ②	14:15-15:45
休 憩	15分
研修 ③	16:00-18:00
案 内	18:00-18:10

2月13日	
受 付	8:30-9:00
研修 ④-前	9:00-12:00
昼休憩	1時間
研修 ④-後	13:00-14:30
休 憩	15分
研修 ⑤	14:45-17:45
案 内	17:45-17:55

2.2.1.7 研修プログラム

日程	研修 No	研修科目	研修内容	方法・ 時間	東京 2/12～2/13 @日本教育会館 講師候補名
2月12日	①	保育実習の社会的役割	・ 保育所等が担う社会的役割について ・ 保育者養成の動向について	講 義 1 時間	元東京家政大学 教授 増田 まゆみ
	②	保育実習をめぐる諸課題	・ 保育所等における保育所実習指導の現状について ・ 保育実習の課題の整理	グループ討議 1時間30分	大妻女子大学 家政学部 児童学科 准教授 石井 章仁
	③	保育士の養成と保育実習	・ 実習生の実態を踏まえた実習について ・ 保育実習の目的と保育実習実施基準について ・ 養成校との連携について	講 義 2 時間	
2月13日	④	保育実習指導の基本	・ 実習生の受け入れ体制について ・ 保育所実習指導の内容と指導法（記録・評価・指導等）について ・ 効果的な保育所実習指導の事例 ・ 養成校と保育所等の協働による職員の資質向上について	講義 4時間30分	東京家政大学 こども学部 こども支援学科 准教授 小櫃 智子
	⑤	保育実習指導の実践	・ 保育実習及び実習指導の実践	ワーク ショップ 3 時間	

2.2.1.8 配布資料

- (i) 研修テキスト
- (ii) 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- (iii) 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン
- (iv) 保育所における食事の提供ガイドライン
- (v) 保育所における感染症対策ガイドライン
- (vi) 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
- (vii) 保育の場において血液を介して感染する病気を防止するためのガイドライン
- (viii) 保育所における自己評価ガイドライン
- (ix) 上記の他、各講義等で必要な資料上記の他、各講義等で必要な資料

2.2.1.9 定員・申込者数・受講者数・修了者数

開催地	定員(名)	申込者数 (名)	受講者数 (名)	修了者数 (名)	受講者/定員
東京	300	88	68	65	23%

2.2.1.10 受講者プロフィール

2.2.1.10.1 受講者個人について

- ・性別について

97%が女性であった。

- ・年齢について

大阪会場では 40 代後半が 24%で最も多く、次いで 30 代前半が 19%であった。

- ・保育士資格の取得方法

専門(専修)学校・短期大学で取得した割合が 81%を占めた。

- ・現職(現在の役職)

41%が主任保育士であった。

- ・保育士就業年数(通算)

20 年以上が 40%、10-19 年が 39%を占めた。

- ・現職の経験年数

1 年以下から 20 年以上まで、幅広く分布していた。

2.2.1.10.2 受講者所属施設について

- ・就業施設の運営主体

「民設・民営」が 51%を占めた。

- ・施設種別

「認可保育所」が最も多く、84%であった。

- ・園所在の都道府県

受講者所属園の所在地は、東京、千葉、埼玉の順(3 都県で 73%を占めた)であった。

- ・勤務施設の定員数合計

61-70 名の定員数の施設が最も多かった。

- ・職員数合計

21-30 名の職員数の施設が最も多かった。

- ・クロス集計による施設情報の解析(下記の表参照のこと)

「園所在地と就業施設運営主体」から、公設・公営は千葉で多く、民設・民営は東京で多かった。

「園所在地と勤務施設の定員数合計」では、各都道府県受講者の施設規模をみることができる(縦列は都道府県を北から順に並べ、横行は定員数を昇順に並べている。黄色のハイライトの行は東京都の結果。)。受講者数が少なかったため、本表か

ら都道府県における傾向を読み取ることは困難であった。

表 2.2.1.10.2_1 園所在地と就業施設運営主体

	公設・公営	公設・民営	民設・民営	(空白)	総計
青森県			2		2
実習指導			2		2
岩手県	2				2
実習指導	2				2
宮城県			1		1
実習指導			1		1
埼玉県	6	1	6		13
実習指導	6	1	6		13
千葉県	10	2	4		16
実習指導	10	2	4		16
東京都	1	8	13		22
実習指導	1	8	13		22
神奈川県	1		5		6
実習指導	1		5		6
新潟県			1		1
実習指導			1		1
長野県			1		1
実習指導			1		1
静岡県			1		1
実習指導			1		1
愛知県	1		1		2
実習指導	1		1		2
広島県			1		1
長崎県			1		1
実習指導			1		1
沖縄県	1				1
(空白)					
(空白)					
総計	22	12	36		70

表 2.1.2.10.3 園内研修数と園外研修数

行ラベル	19	30	35	40	44	45	47	50	59	60	62	63	64	69	70	80	82	90	92	97	101	105	106	108	110	115	117	120	128	130	135	138	140	144	155	161	173	180	195	(空白)	総計
青森県		1																											1												2
岩手県							1																						1												2
宮城県									1									1	1																						1
埼玉県		1								1														1	1	2				1		2	1								13
千葉県		2		1		1				1				1																											16
東京都	1	2				1			4	2	1		2	1				1	1	1	1							1		1	1								1		22
神奈川県		1			1					1					1	1													1												6
新潟県																																									1
長野県																																									1
静岡県																																									1
愛知県			1																					1																	2
広島県																																									1
長崎県																																									1
沖縄県																		1																							1
(空白)																																									1
総計	4	3	2	1	1	2	1	1	1	7	2	1	1	3	2	1	1	4	1	1	1	1	1	1	2	3	1	1	4	2	3	1	1	1	1	1	1	2	1	1	70

2.2.1.10.3 研修参加の現状と要望について

・園内研修と園外研修

園内研修は 7-10 回/年が 23%と最も多く、園外研修は 2 回/年が最も多く 22%であった。

・クロス集計による研修回数の解析

園内(縦列)、園外(横行)ともに年間に参加する研修がないと答えた受講者はおらず、また比較的大きい数値(黄色のハイライト)の配置を見ると、園内も園外も 7 回以上行われる施設に所属する受講者が多いことが分かった。

・習得を希望する知識・技能

半数以上の受講者が希望していたのは、特別な支援を必要とする子どもへの接し方、保護者対応の仕方、安全管理であった。

行ラベル	ない	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7~10回	11~20回	21回以上	(空白)	総計
⊕ ない		1	1	1		1				1		5
⊕ 1回			1	1								2
⊕ 2回	1	1	3	1	1	2						9
⊕ 3回			3	1		1	1		2			8
⊕ 4回			1	1					3			5
⊕ 5回						3	1					4
⊕ 6回			3						1			4
⊕ 7~10回		2	1	2	3	4		4				16
⊕ 11~20回		1	2		1		5		2	4		15
⊕ 21回以上				1						1		2
⊖ (空白)												
(空白)												
総計	1	5	15	8	5	11	7	12	5	1		70

3 事前・事後課題の集計結果

[事前課題サマリー]

- ・ 研修の課題を広く学びたいと希望していることがわかった。さらに初任主任保育士と中堅主任保育士との間に、重点的に学びたいことにおいては大きな差異は見られなかった。

[事後課題サマリー]

- ・ 研修科目の個々の内容は十分理解されたといえた(3.3 の理解度遷移も参照のこと)。
- ・ グループワークで受講者同士の意見交換ができたことは、大いに有意義だったと感じる受講者が多かった。
- ・

[内容の理解についてのサマリー]

- ・ ほとんど全ての課題において、研修の前後で理解度が有意に上昇した。
- ・ 一方で、初任主任保育士、中堅主任保育士の両者ともに「児童虐待の防止対策についての理解」については、一定の受講者の理解は
- ・ 得られたものの、理解が不十分であると認識している層も残った。今後の研修の課題であるといえる。
- ・ 保育所等実習指導研修受講者は他の研修会に比べて、研修前の理解度を表す平均値の値が全体的に低かったことが特徴として挙げられる。受講者は少数であったものの、実習指導に対し危機意識を持って研修の必要性を最も感じていた層にとって、大変重要な研修であったことがうかがえる。

個々の内容については、下記の本文と、別紙「基礎集計表」を参照されたい。

3.1 事前課題について

① 事前課題の取組状況

以下の通りの取り組みがあった。

研修(会場)、開催年月日	受講者数	回収数・回答率	
初任主任保育士(東京) 令和元年 11 月 20 日(水)～22 日(金)	133	134	101%
初任主任保育士(大阪) 令和 2 年 2 月 19 日(月)～21 日(水)	91	92	101%
中堅主任保育士(大阪) 令和元年 12 月 3 日(火)～5 日(木)	32	32	100%
中堅主任保育士(東京) 令和 2 年 1 月 27 日(月)～29 日(水)	114	114	100%
保育所等実習指導研修 令和 2 年 2 月 12 日(水)～13 日(木)	65	70	108

② 開催した研修と事前課題

研修(会場)	事前課題内容
全研修	本研修で重点的に学びたいことを書いてください

3.1.1 目的

受講者には事前課題を課した。科目ごとに一つの設問がある。

事前課題の主な目的は、研修開催前に受講者の日ごろの関心や問題意識、研修で学びたいことを講師へ伝えることで、当日の研修では、可能な限り受講者の個別の状況に沿った授業を提供するためである。

事前課題に取り組むことで、受講者自身も自らの保育に関する問題意識を明確にすることができ、事前に積極的に学ぶ意欲を高め、当日の研修をより有意義なものにすることができる。

3.1.2 回収方法

課題は Web サイトフォームでの提出とした。

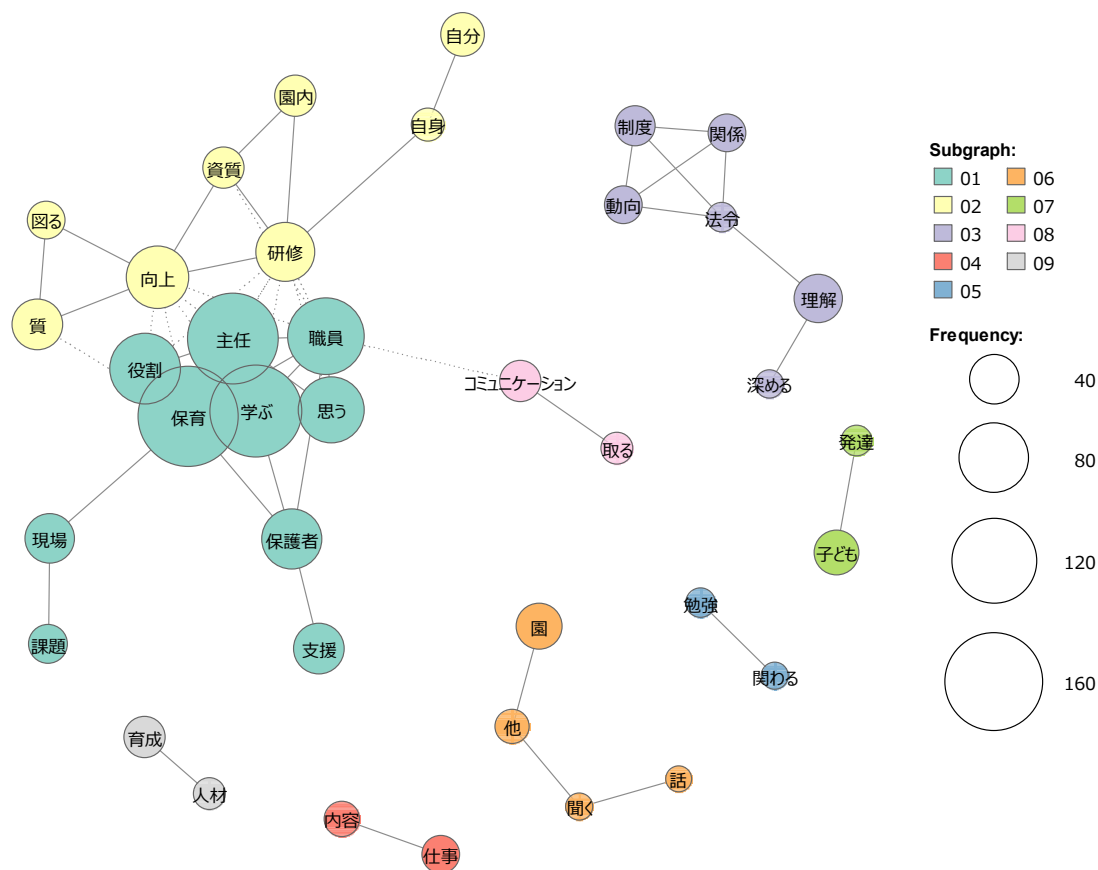
3.1.3 結果と考察

事前課題については、自由記述の設問には回収データを用いてテキストマイニングを行った。その結果は、各語句の関係性をあらわした図（共起ネットワーク）で示し、それぞれの特徴と考察を加えていった。個別のデータと考察については、別紙基礎集計表を参照されたい。

事前課題においては、「初任主任保育士」と「中堅主任保育士」が学びたいことは、全体的には保育実践の経験蓄積による知識が示された回答が書かれていたように思われる。

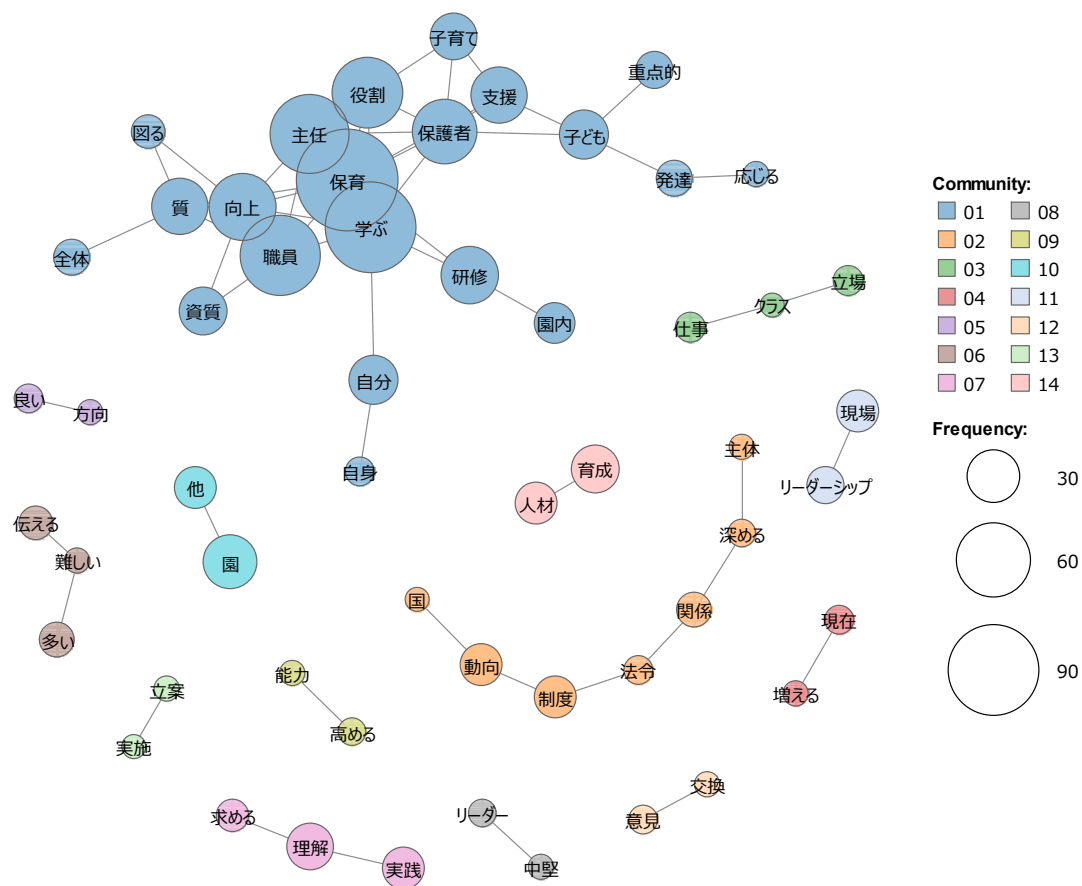
（設問） 本研修で重点的に学びたいことを書いてください

・初任主任保育士



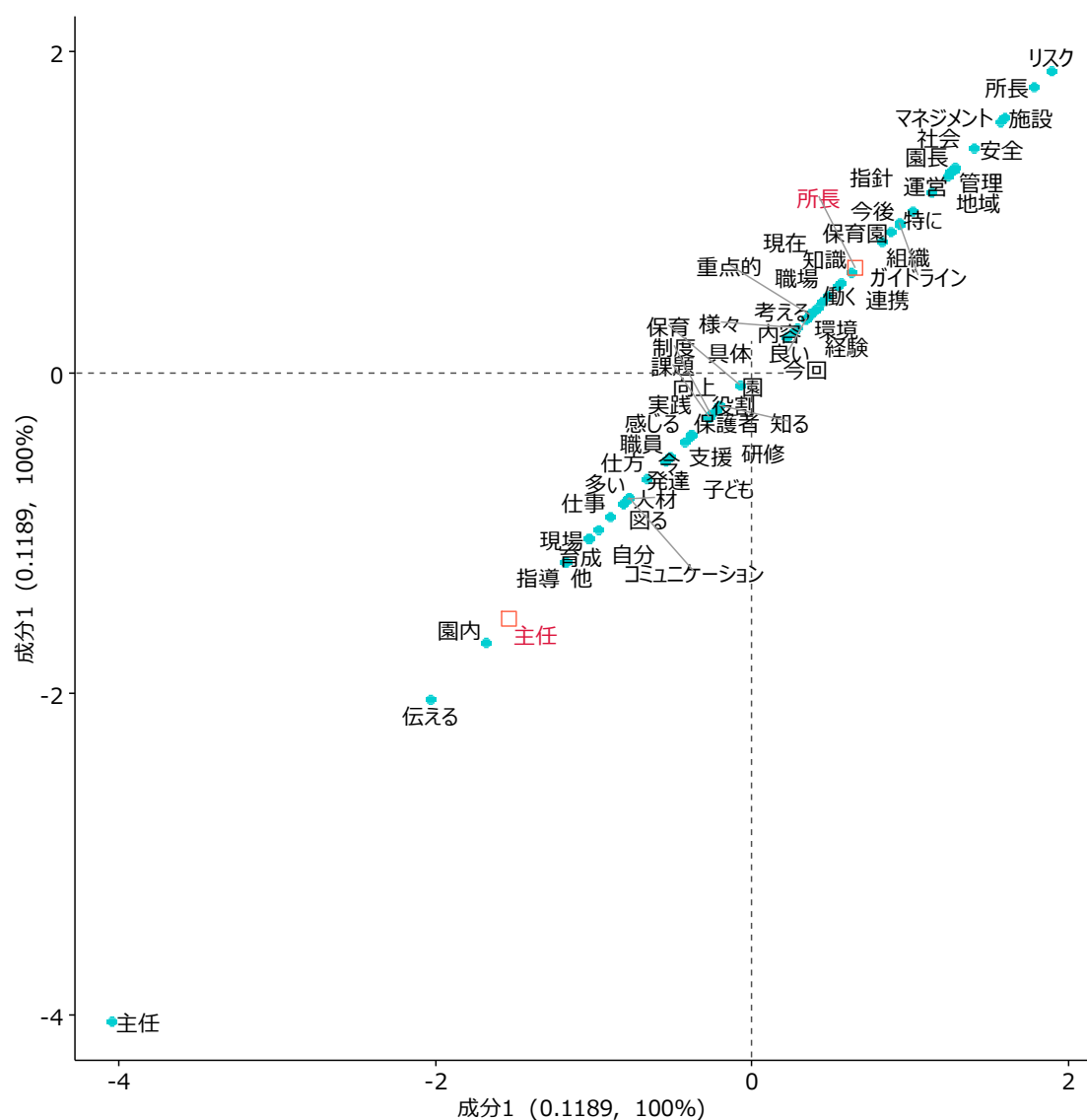
初任クラスでは「役割」や「現場課題」といったリーダーシップの基礎知識の獲得を期待する傾向がある。改定保育指針で新たな課題として位置づけられた「職員の資質向上」「保護者支援」に対する関心が高い。

・中堅主任保育士

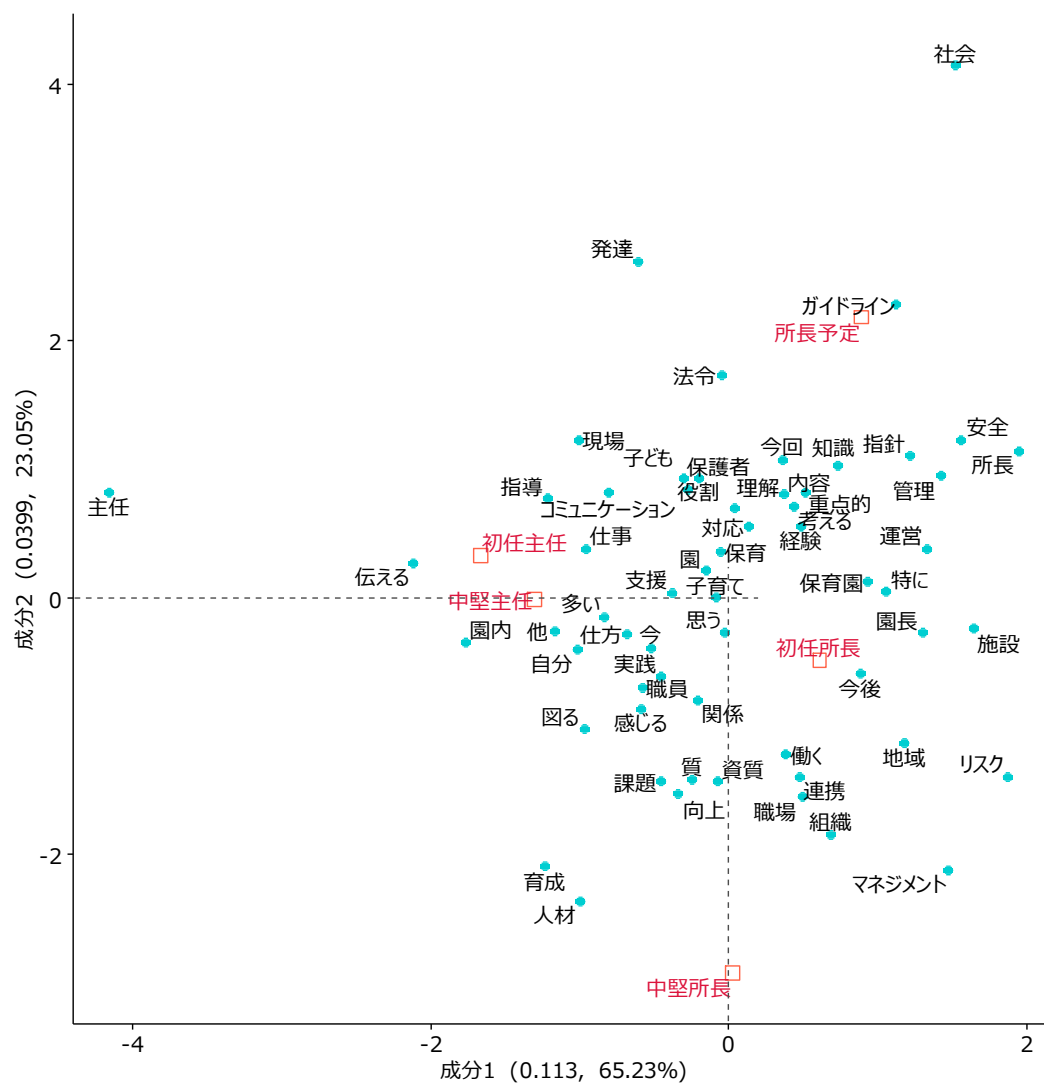


中堅クラスでは、関心が多岐にわたる。基礎的な部分では「役割」「職員の資質向上」「子育て支援」に対する関心が高く、一方で「実践理解」「法令・制度動向」「リーダーシップ」「意見交換」など実践活用できるテーマも関心に上がっている。

対応分析

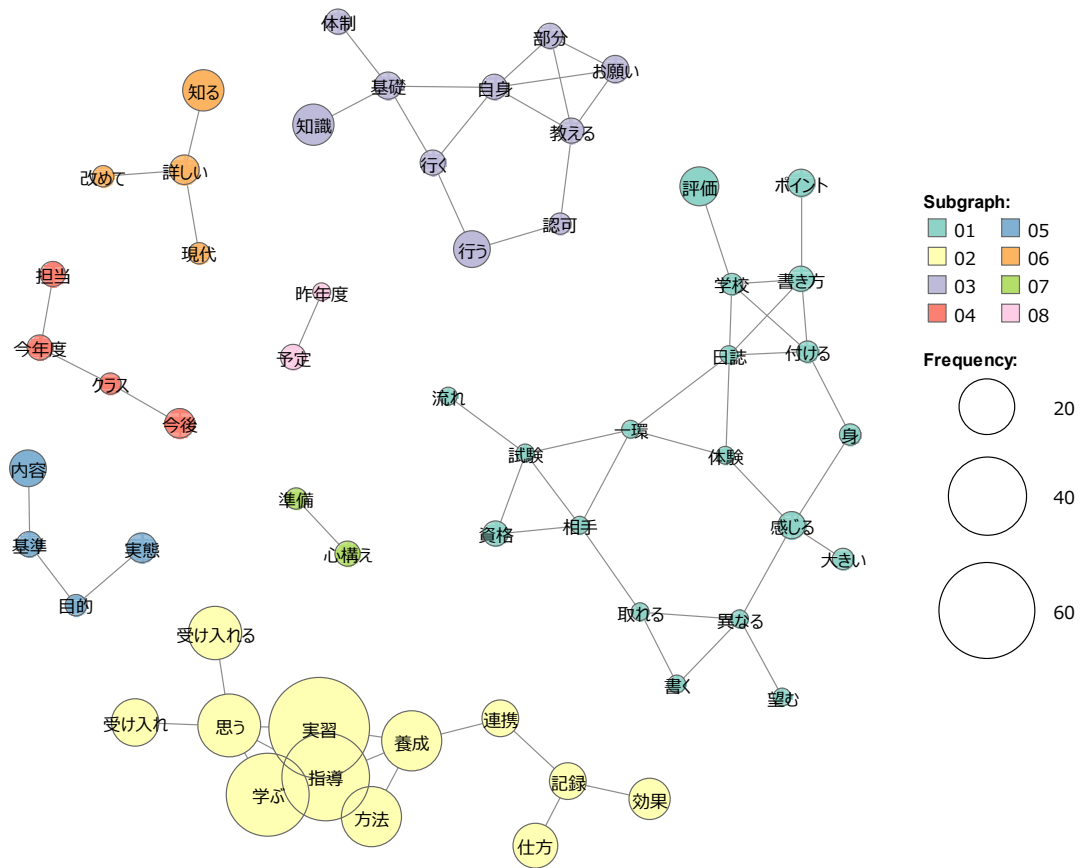


初任保育士研修受講者は「コミュニケーション」「指導」「園内」などが特徴的な語として現れ、おそらく園内の保育士への働きかけなどの内容に注目していることが予想される。一方で、保育所長研修受講者は「人材」「育成」「マネジメント」「管理」「ガイドライン」など、所長としての役割を念頭に置いたコメントがされていることが予想された。



初任主任と中堅主任はとても近い位置に配置されていることから、研修で重点的に学びたいこととして両者に大きな差異は見られなかったことが示唆された。

・保育所等実習指導



「指導方法」「養成校との連携」といった本質的な実習指導課題への関心の一方で、近年ますます重要になっている「評価」「記録」等に関する知識に対する関心が高い傾向にある。

3.2 事後課題について

事後課題については以下の通りの取り組みがあった。

研修(会場)、開催年月日	受講者数	回収数・回答率	
初任主任保育士(東京) 令和元年 11 月 20 日(水)～22 日(金)	133	128	96%
初任主任保育士(大阪) 令和 2 年 2 月 19 日(月)～21 日(水)	91	91	100%
中堅主任保育士(大阪) 令和元年 12 月 3 日(火)～5 日(木)	32	30	94%
中堅主任保育士(東京) 令和 2 年 1 月 27 日(月)～29 日(水)	114	113	99%
保育所等実習指導研修 令和 2 年 2 月 12 日(水)～13 日(木)	65	65	100%

研修会名	No.	設問内容
初任主任 保育士	1	・研修で重点的に学んだことを書いてください。
	2	・主任保育士として今後取り組むことと、それについて課題だと思うことを書いてください。
	3	・「教育のPDCA」とはどのようなことか、自分の考えで研修前から変化したことを書いてください。
	4	・自園で今後取り組みたい、または継続したい子育て支援の取り組みを書いてください。
	5	・自園において、自分が今後実践したい「リーダーシップ」や「人材育成」について書いてください。
	6	・研修全体を終えて、特に学んだことを自分の担う業務と関連付けて5つ書いてください。(箇条書き)
	7	・研修全体を終えて、特に実践したい事を具体的に5つ書いてください。(箇条書き)
	8	・グループ討議で印象に残った事例を書いてください。
	9	・ワークショップを通して把握できた新しい知見を書いてください。
中堅主任 保育士	1	・研修で重点的に学んだことを書いてください。
	2	・主任保育士として今後取り組むことと、それについて課題だと思うことを書いてください。
	3	・「教育のPDCA」とはどのようなことか、自分の考えで研修前から変化したことを書いてください。
	4	・自園で今後取り組みたい、または継続したい子育て支援の取り組みを書いてください。
	5	・自園において、自分が今後実践したい「リーダーシップ」や「人材育成」について書いてください。
	6	・研修全体を終えて、特に学んだことを自分の担う業務と関連付けて5つ書いてください。(箇条書き)
	7	・研修全体を終えて、特に実践したい事を具体的に5つ書いてください。(箇条書き)
	8	・グループ討議で印象に残った事例を書いてください。
	9	・ワークショップを通して把握できた新しい知見を書いてください。
保育所等 実習指導	1	・保育実習の社会的役割について、自分の考えで研修前から変化したことを書いてください。
	2	・保育実習をめぐる課題として特に気になることを3つ書いてください。箇条書きで構いません。
	3	・保育士を養成するために、実習で特に取り入れたほうが良いと思う内容を3つ書いてください。
	4	・自園での実習受け入れにおいて今後大切にしたいことを書いてください。
	5	・自園での実習受け入れの際に、今後注意したいことを書いてください。
	6	・研修全体を終えて、特に学んだことを自分の担う業務と関連付けて5つ書いてください。(箇条書き)
	7	・研修全体を終えて、特に実践したい事を具体的に5つ書いてください。(箇条書き)
	8	・グループ討議で印象に残った事例を書いてください。
	9	・ワークショップを通して把握できた新しい知見を書いてください。

3.2.1 目的

事後課題の主な目的は、受講者が研修全体を振り返り、そこで学び得たことについて、自らが担うこととなる業務と関連付け、今後、保育所等でどのように実践していくか、考えを深め行動を促すためである。また、研修の開催者にとっては、受講者の理解の内容や程度を把握することで、研修の事後評価と改善策の参考とすることができる。

3.2.2 回収方法

課題は Web サイトフォームでの提出とした。

3.2.3 結果と考察

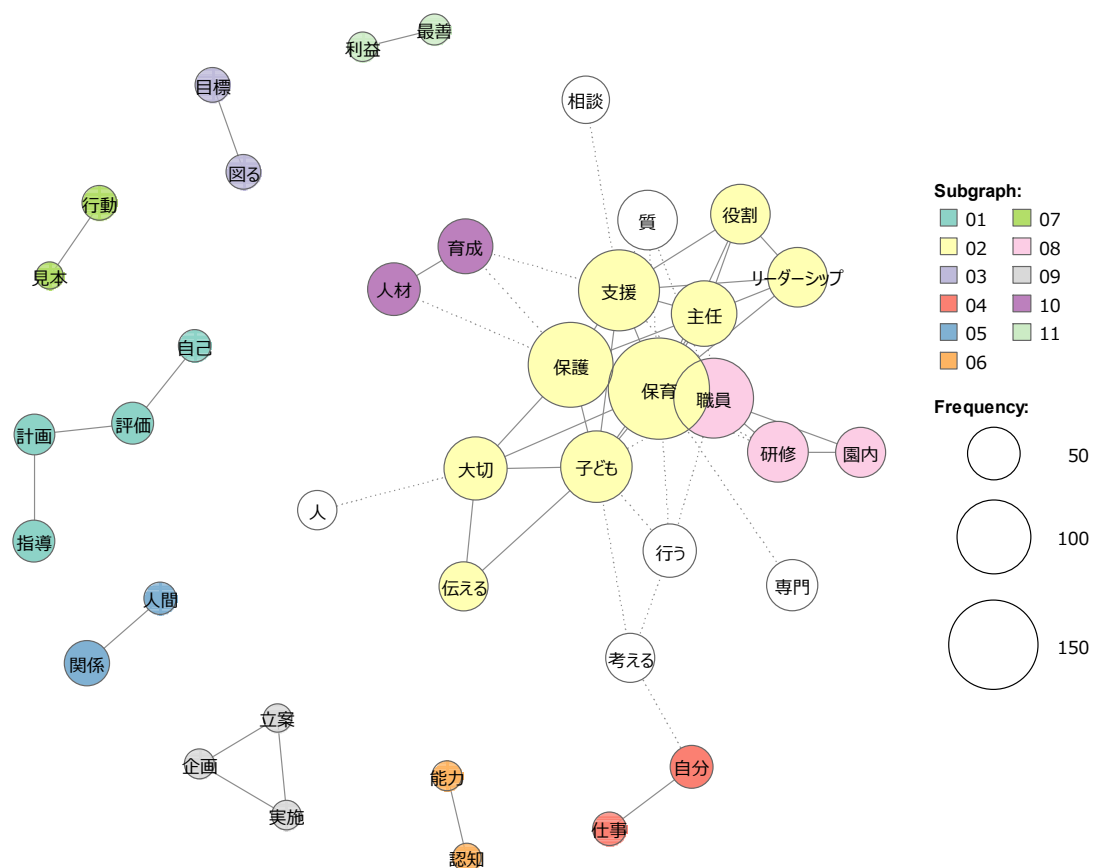
事後課題についても、自由記述の設問には回収データを用いてテキストマイニングと対応分析を行った。その結果は、各語句の関係性をあらわした図(共起ネットワーク)で示し、それぞれの特徴と考察を加えていった。対応分析では、各研修に特徴的な抽出語のグラフで示し、特徴と考察を加えた。個別のデータと考察については、別紙基礎集計表を参照されたい。

事後課題の設問中、「初任保育所長(就任予定者)」と「初任保育所長」、「中堅保育所長」の研修科目において、同じ設問がある場合は比較を行ったので下記に示す。

全研修共通項目

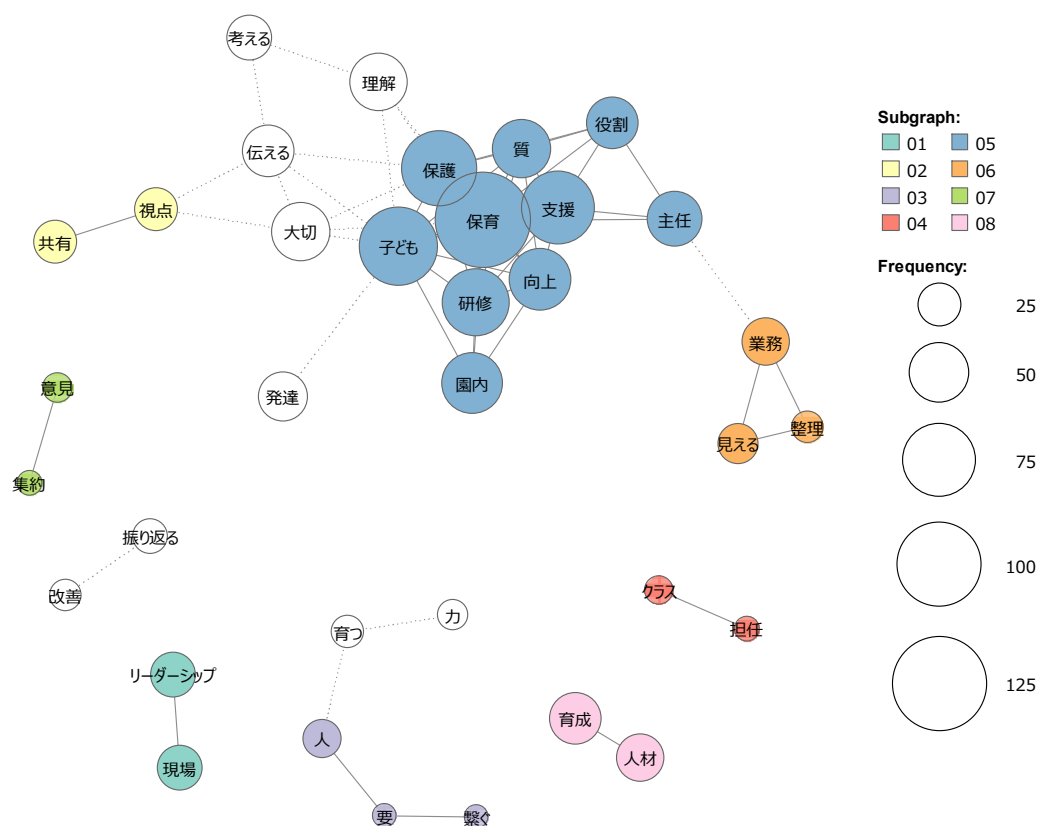
(設問) 研修全体を終えて、特に学んだことを自分の担う業務と関連付けて5つ書いてください。(箇条書き)

・初任主任保育士



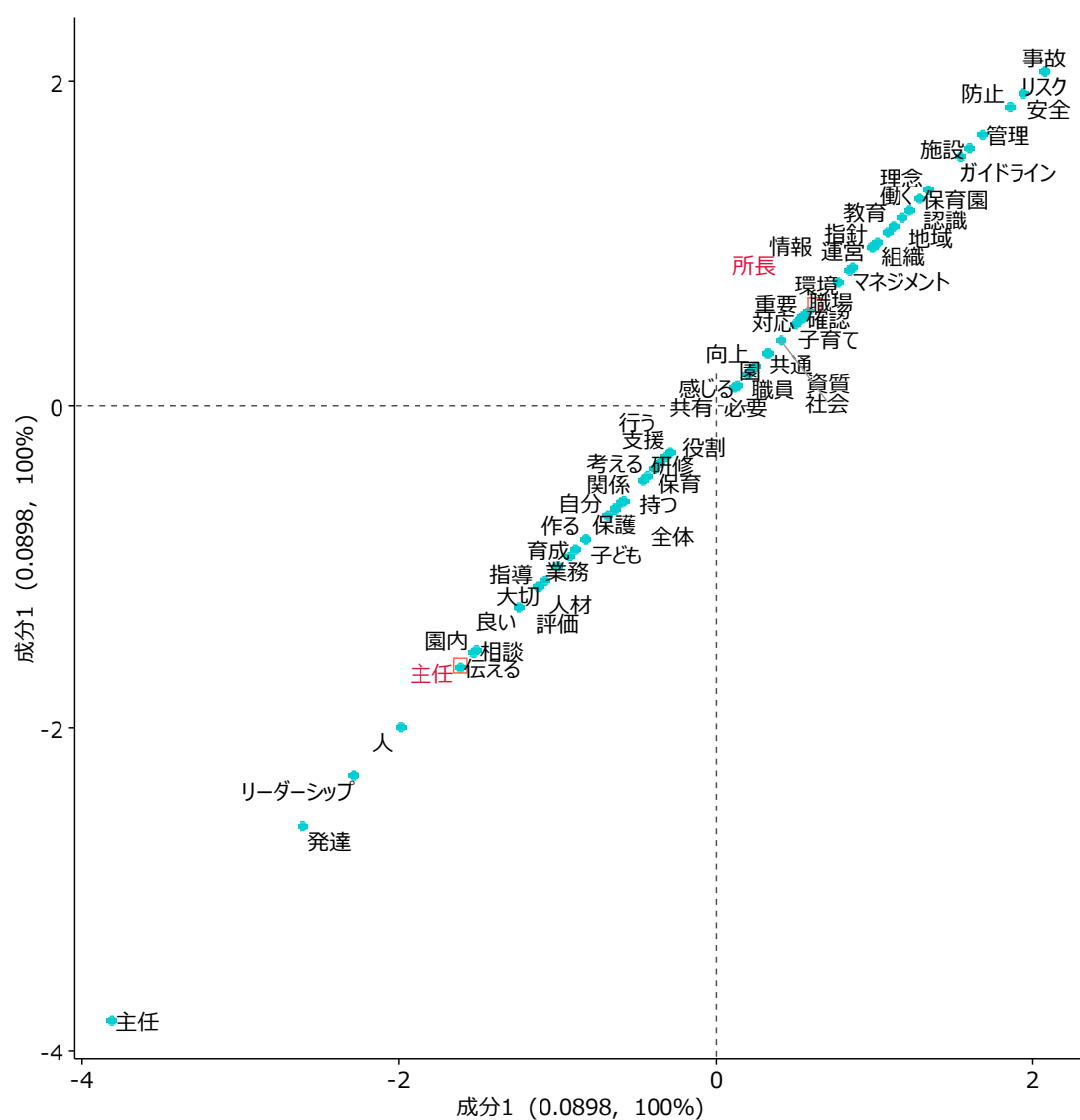
「保育」のワードを中心に「保護者支援」、「職員の資質向上」の必要性と重要性について、非常に高い関心と理解の傾向が示されている。子どもに対する保育活動を支える基盤として、これらの要素が必須であることが認識されている。初任クラスの研修としては、十分高い効果が得られている。

・中堅主任保育士



主任保育士の役割として「保護者支援」「職員の資質向上」を重要課題ととらえているほか、現場保育士を統括し指導する「リーダーシップ」「計画の実行と改善」「業務の見える化」など、園全体の保育の質について十分な意識と理解の傾向が見られることから、研修の非常に高い効果が表れているといえる。

対応分析



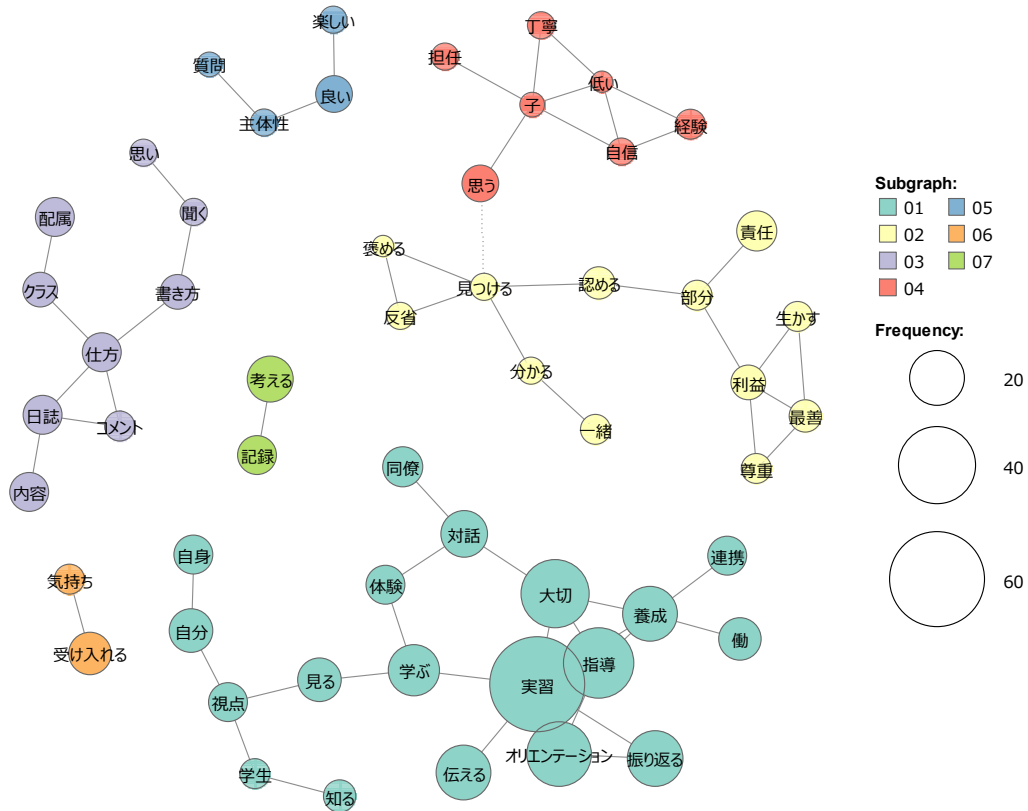
主任保育士研修では「リーダーシップ」「主任」「発達」などが特徴的な語として現れていたことから、研修により特に主任としての役割やリーダーシップの取り方などがよく学べたことが予想される。

一方で、所長研修では「リスク」「事故」「施設」「管理」「マネジメント」など、施設長にとって必要な課題が特徴的な語として現れていた。



初任主任と中堅主任は非常に近い位置にあり、研修で特に学んだことは、業務に関連付けると経験の差は特に現れないということがわかった。

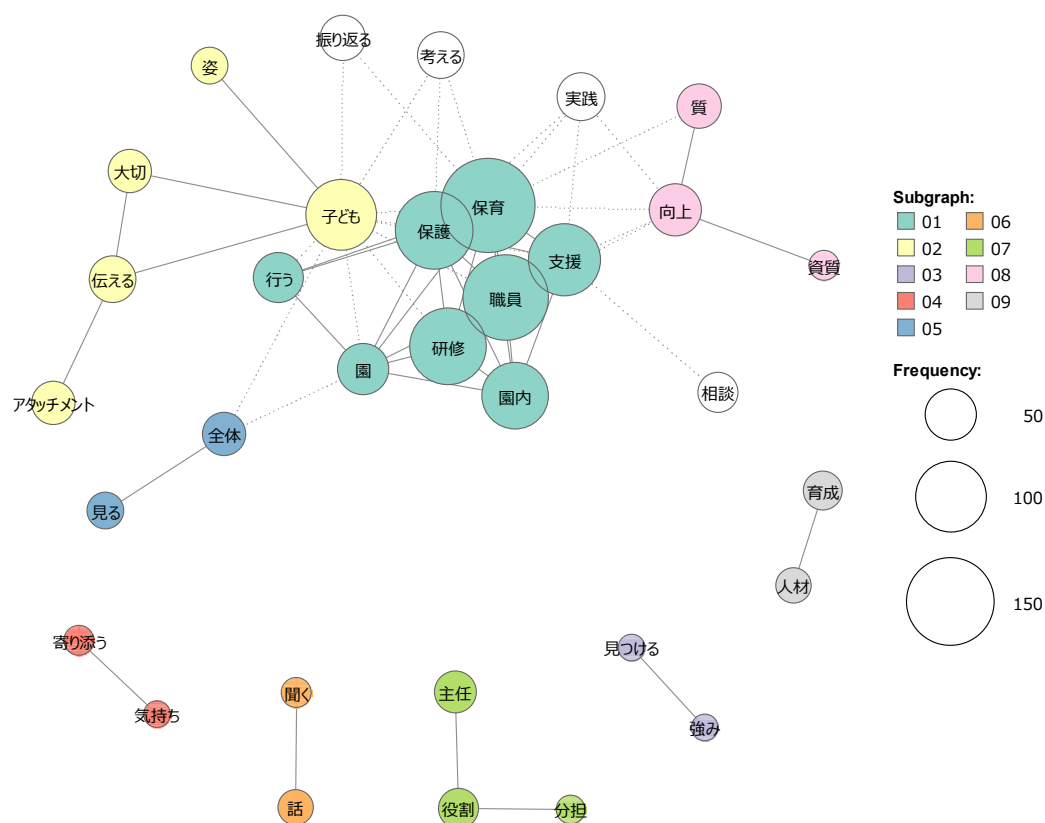
・保育所等実習指導



実習に関しては「養成校との連携」について十分認識したうえで、実習生やその指導に対する責任についても十分高い理解に至った。特に、子どもと接する上で重要なワードがちりばめられていることから、保育活動の理念や意義が狙いどおりに伝わった効果の非常に高い研修だったことがわかる。

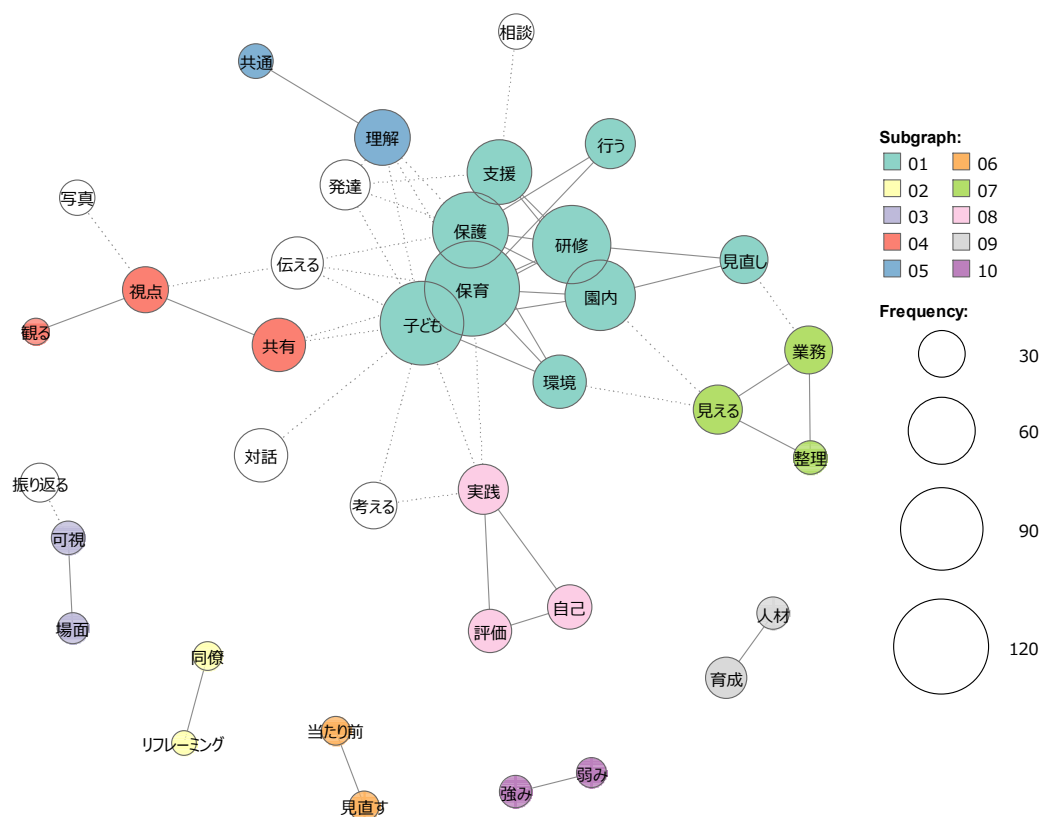
(設問) 研修全体を終えて、特に実践したい事を具体的に5つ書いてください。(箇条書き)

・初任主任保育士



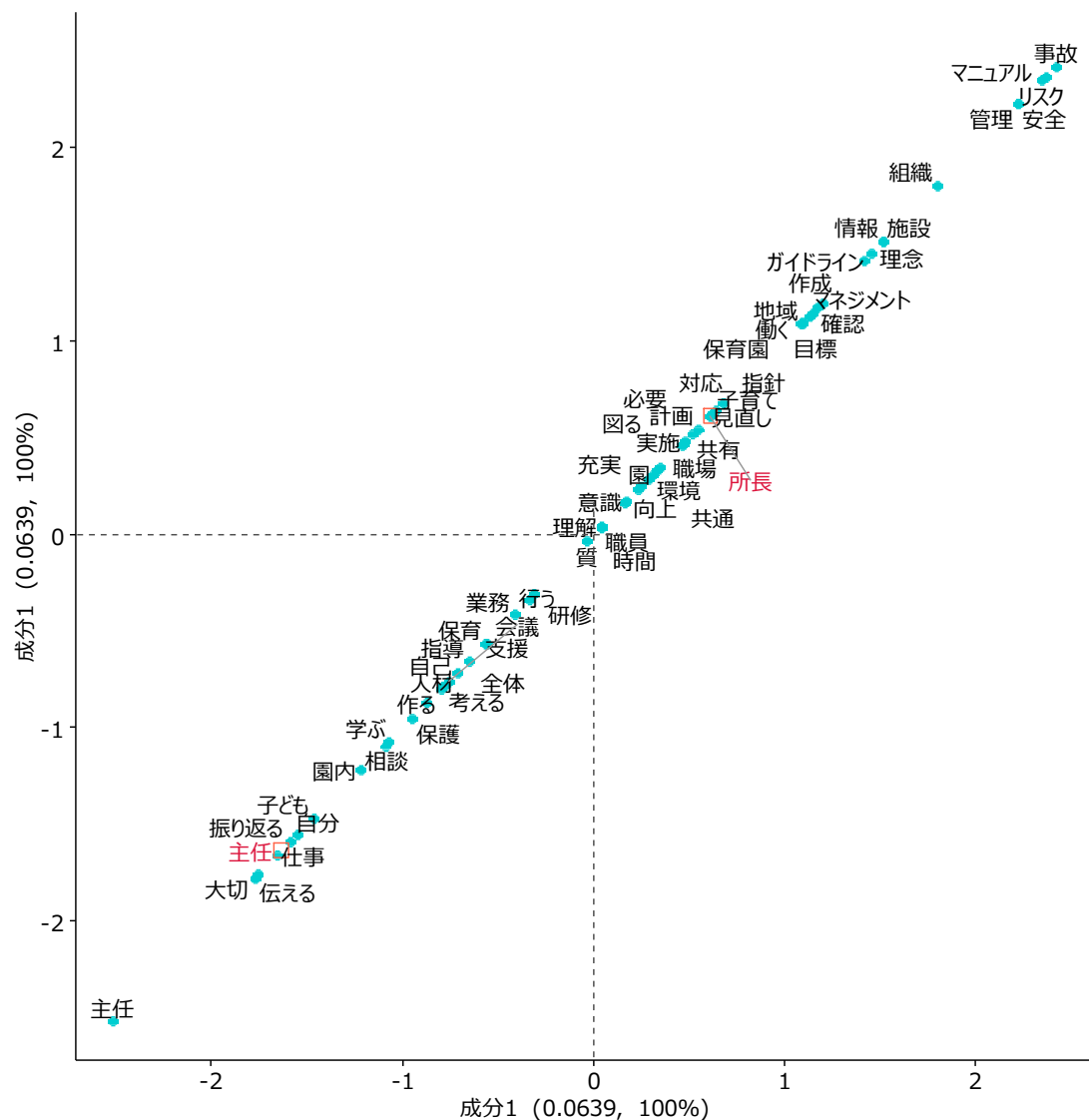
前の設問とほぼ同様の回答の傾向が出ており、学んだことと実践で生かしたいことはほぼ重なっているといえるが「保育の質向上」に対する関心と意欲がより強くなっている。園内研修の必要性はもとより、主任として現場保育士に対する具体的な実践指導（アタッチメントを中心とした関わり、実践の質の向上など）への意欲がみてとれる。研修内容のポイントをおさえた好結果が得られた。

・中堅主任保育士



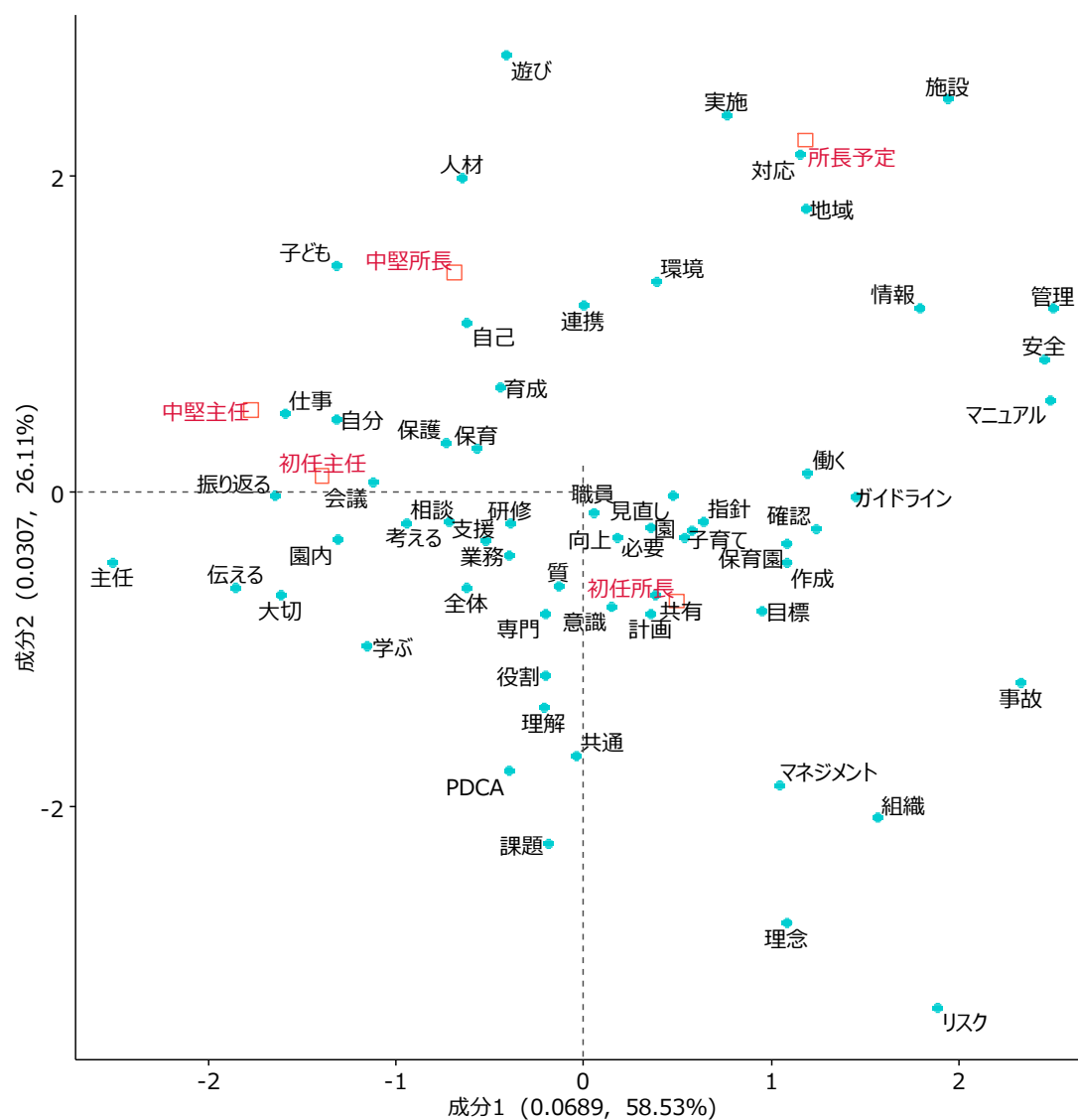
初任クラスと比較すると、中堅主任の立ち位置から保育実践についてより具体的に考え、園全体の運営にも視野を広げている傾向が見られる。特に「子どもの発達理解」「実践評価」「保護者支援」等、改定指針でも新たに示されたポイントと照らして、参加者の学びが深まっていることが分かる。

対応分析



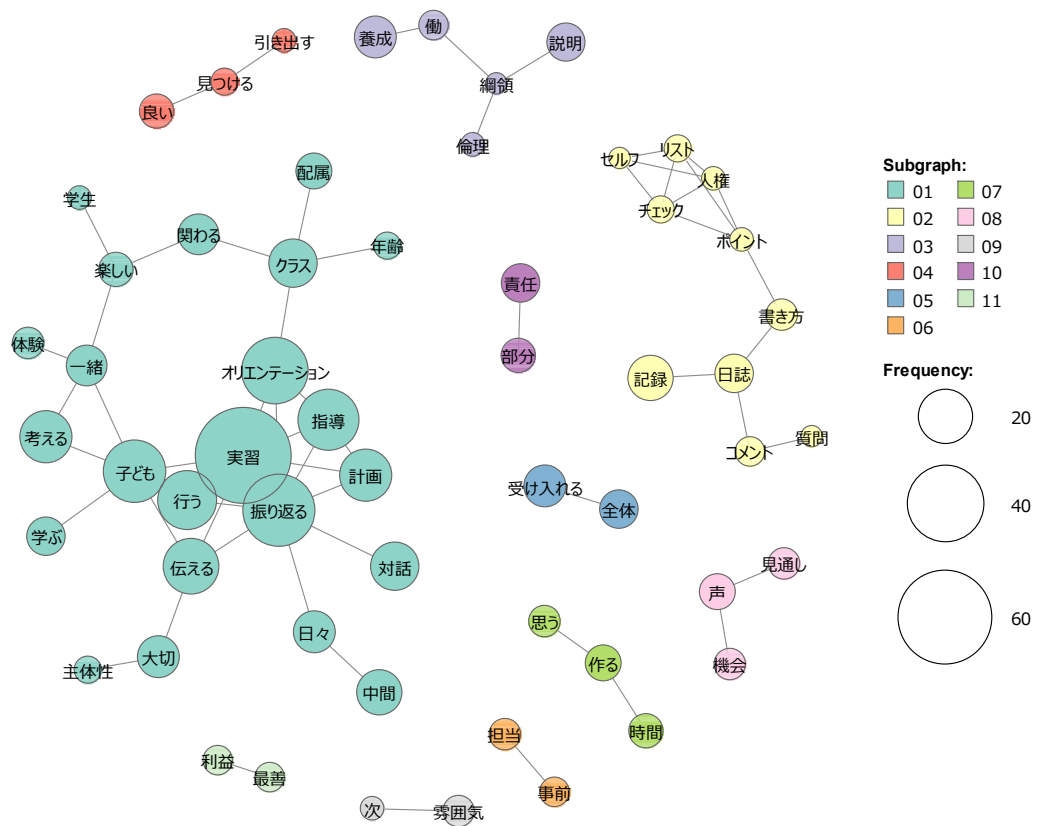
これから実践したいこととして、主任保育士研修受講者は「伝える」「振り返る」などの動詞が多くみられ学んだことに対し行動を起こそうとしている様子が見えてくる。一方で所長研修受講者は特に学んだこと(自身の業務と関連して)と同様の抽出語が表れており、その内容について「見直し」たり「実施」したりしようとしていることが示唆された。

対応分析



初任主任と中堅主任は非常に近い位置にあり、研修で特に学んだことは、業務に関連付けると経験の差は特に現れないということがわかった。

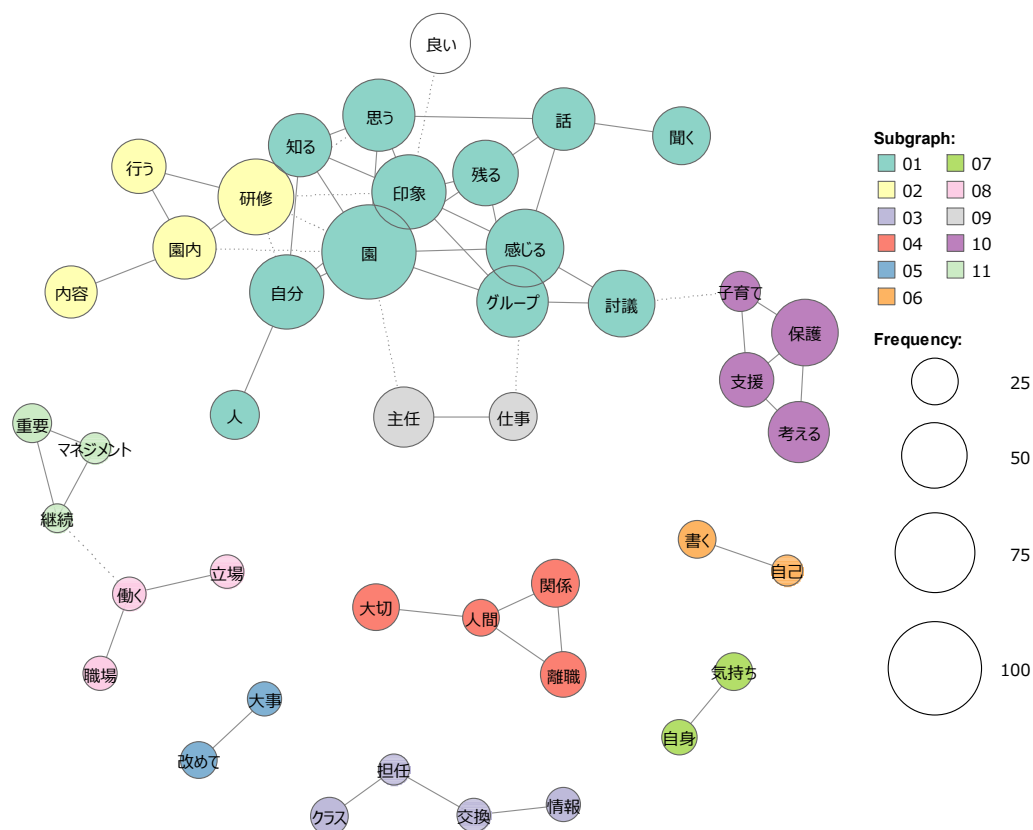
・保育所等実習指導



日々の実習の振り返りや記録の必要性和、その判断材料となる子どもとの関わりについての考え方や伝え方の重要性を十分に認識できたことがわかる。また実習生に先入観や構えを持たず、ポジティブに受け入れようとする意識が表れている。実習指導に対するモチベーションが非常に高い結果となった。

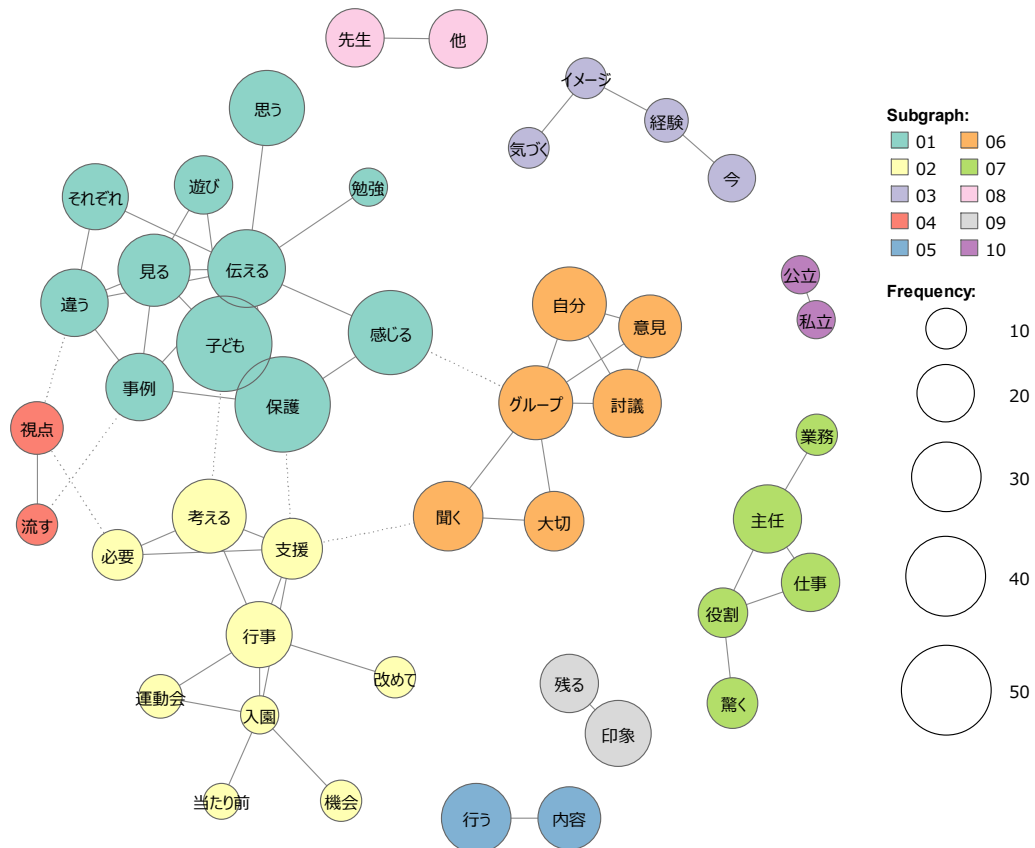
(設問) グループ討議で印象に残った事例を書いてください。

・初任主任保育士



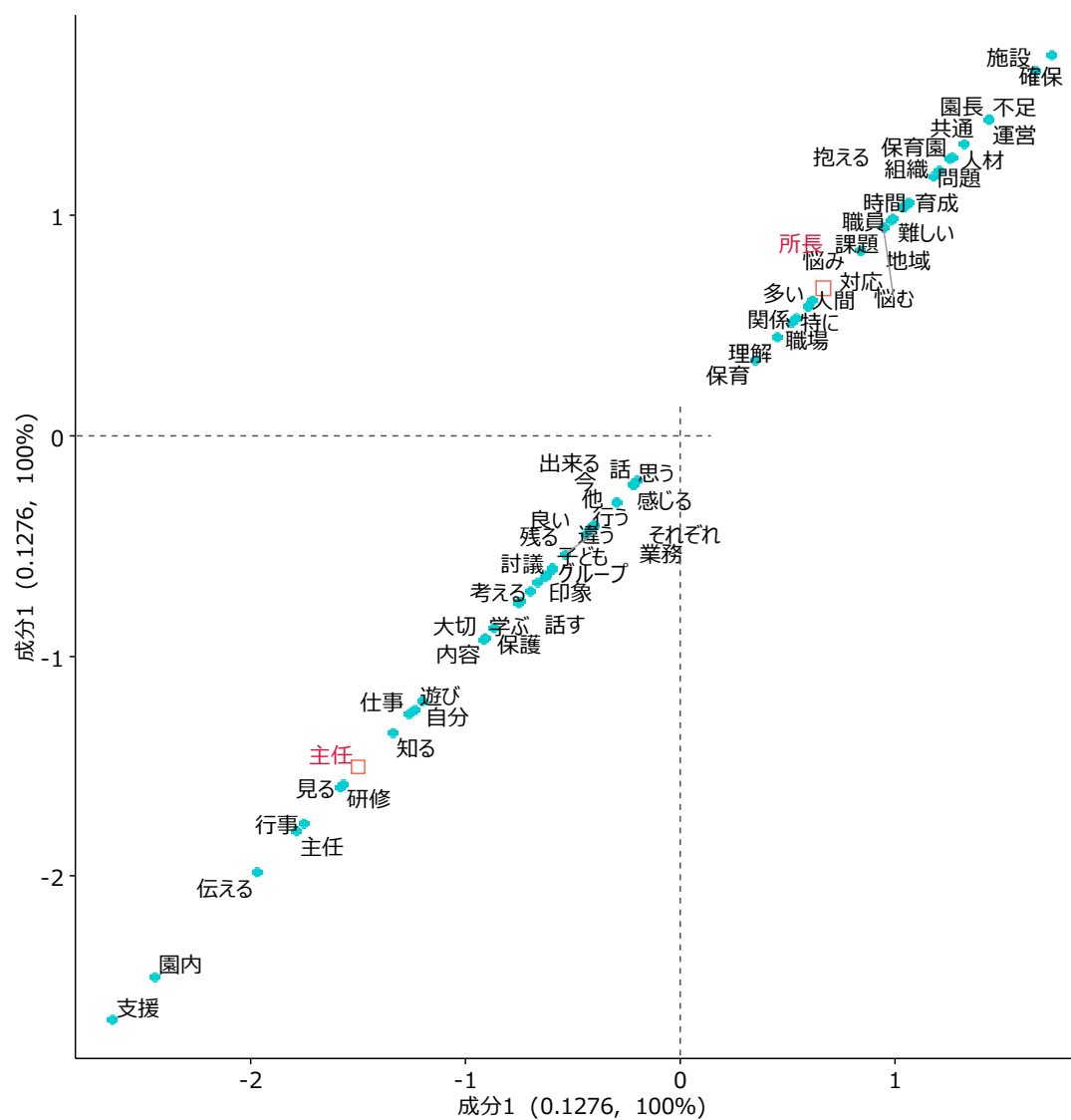
グループ討議で挙げられた事例として「園内研修」や「保護者への子育て支援」に関するものが顕著だったのは、それだけ取り組むべき課題として重視されていることを示すものでもある。さらに、離職を防ぐための職場の人間関係構築、働く立場からの労働環境のマネジメント等、運営側と現場との調整役である主任クラスに関心が表れている。事例研究の意義について、参加者の意識と関心が非常に高かったといえる。

・中堅主任保育士

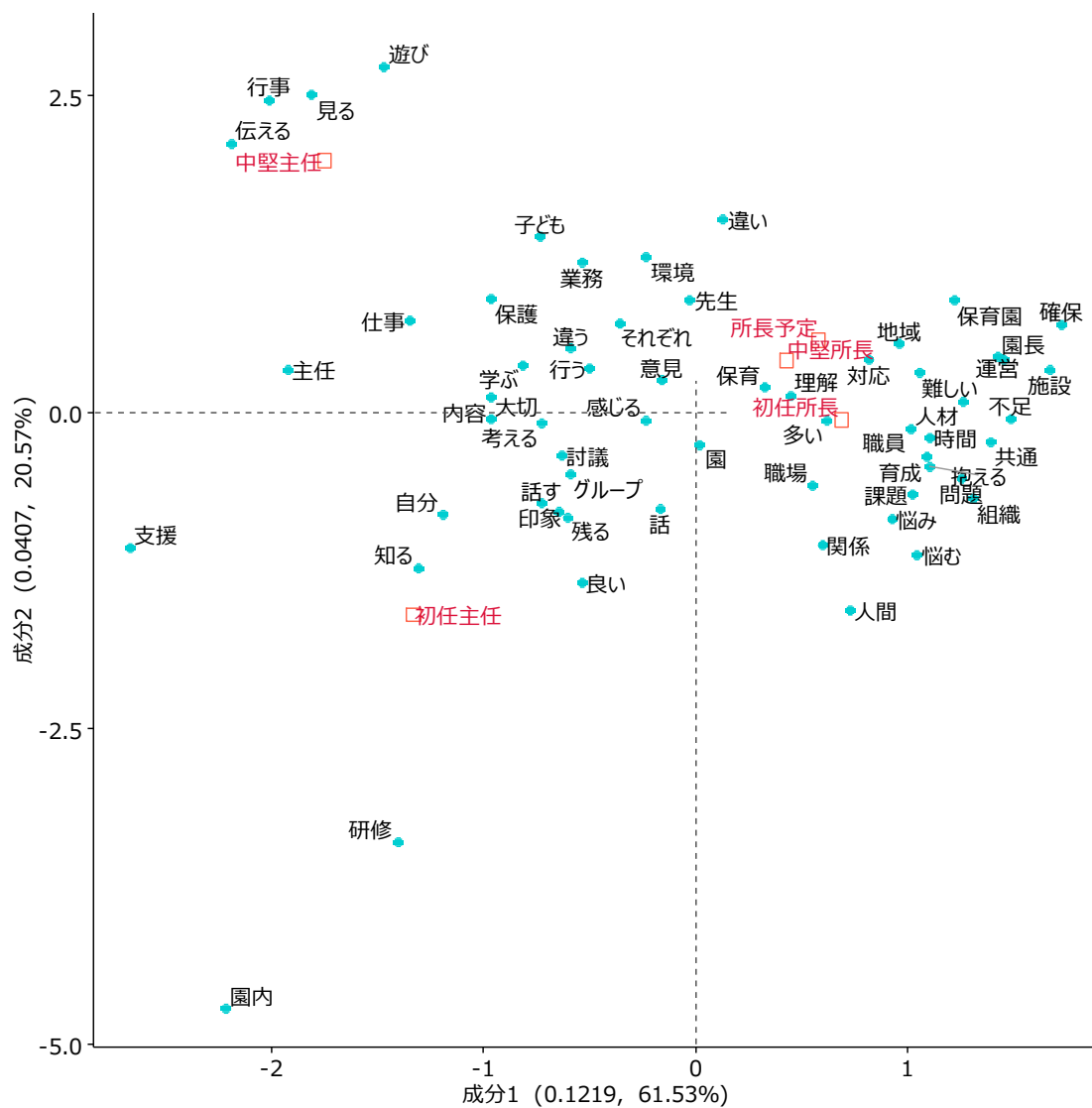


中堅クラスでは、「子ども」を中心とする保育の在り方そのものについて、事例研究の重要性が理解されている。その方法として「グループ討議」を取り入れることの意義、および他の事例について聞く必要性を感じた参加者が多かったことを示している。特に「保護者支援」や「保育行事」については、討議で様々な意見を取り入れ、話し合って進めていく重要性が理解されている。

対応分析

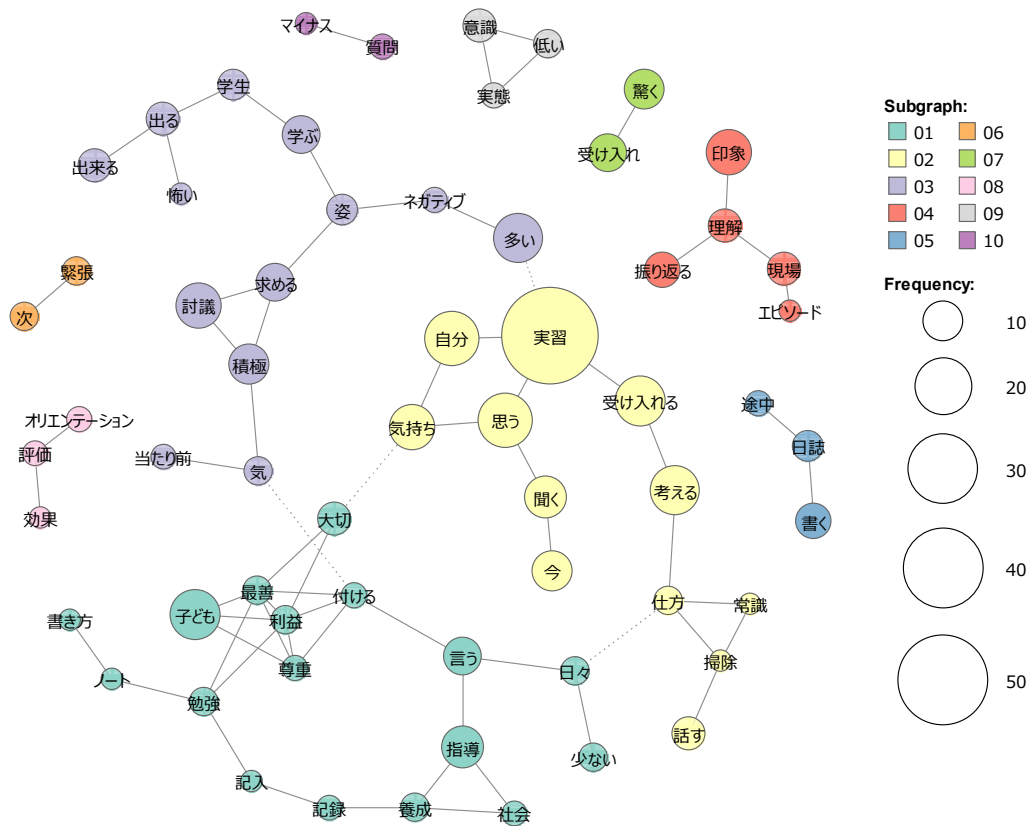


グループ討議で扱った内容が、初任と所長とで内容が異なっていたことがみとれた。



グループ討議において、初任主任は「園内」「研修」が特徴的な語であったのに対し、「行事」「遊ぶ」が特徴的な語であった。

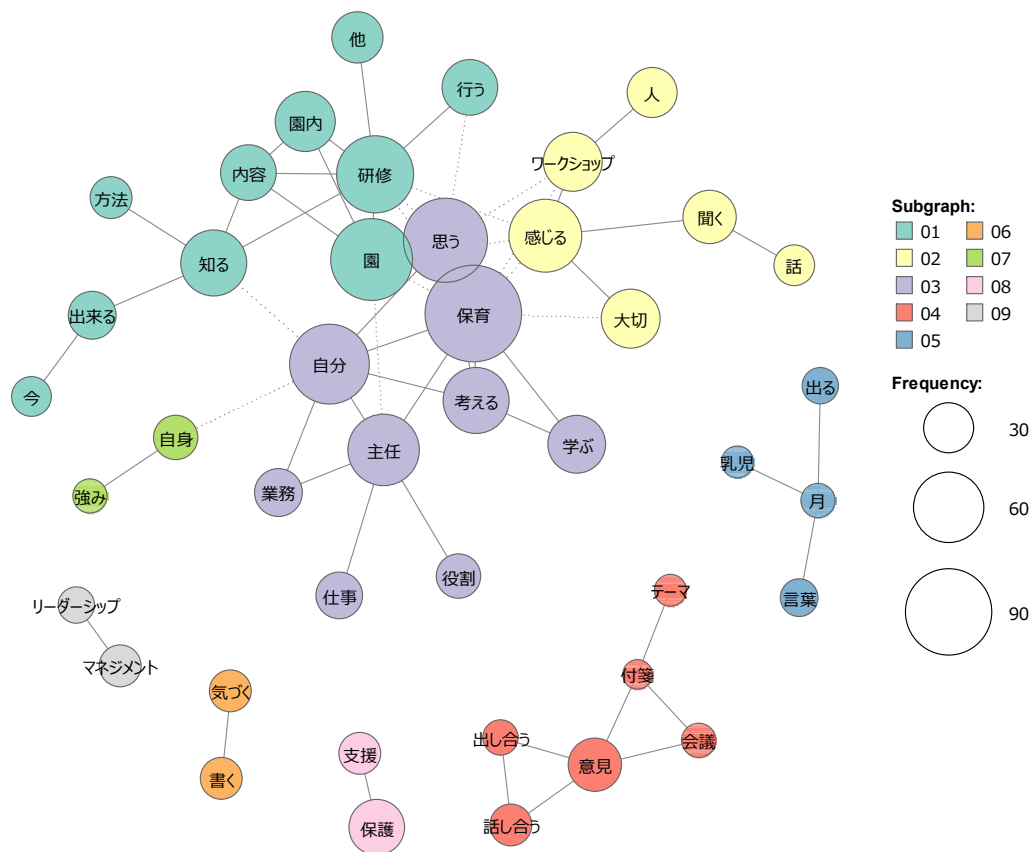
・保育所等実習指導



一方で「保育者側の思いや気持ち」、他方で「子どもの最善の利益の尊重」が表れていることから、実習指導における両要素の必要性が表れている。つまり主任保育者として、実習生と子どもの両方の成長を支える視点が必要になり、そこに焦点をあてた事例が多く参加者の印象にのこったと考えられる。

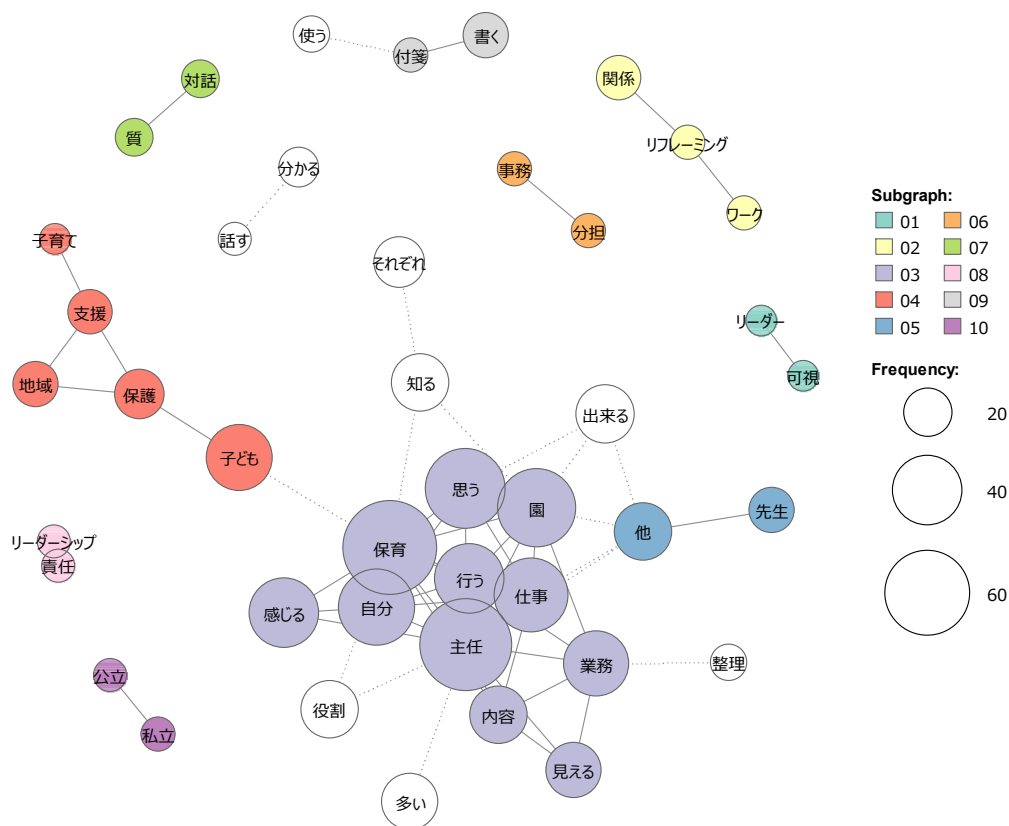
(設問) ワークショップを通して把握できた新しい知見を書いてください。

・初任主任保育士



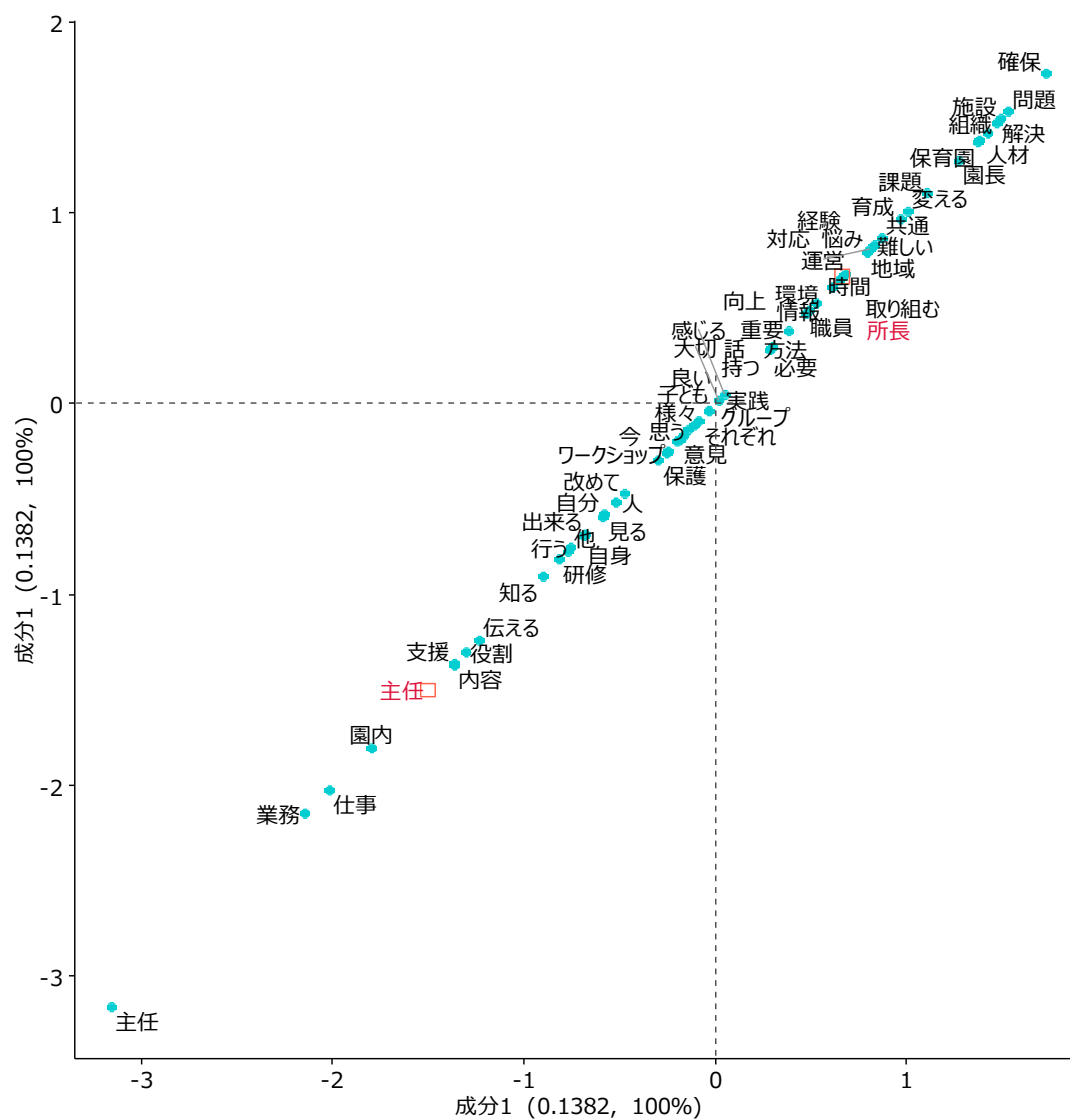
「自らが学び考えること」、「意見を出し合い話し合う場を設ける」、「園内研修の実施」等、主任保育士として必要なリーダーシップについて、新たな知見が得られた結果となった。積極的資質に対する意識や関心が表れており、研修効果が高かったことがわかる。

・中堅主任保育士

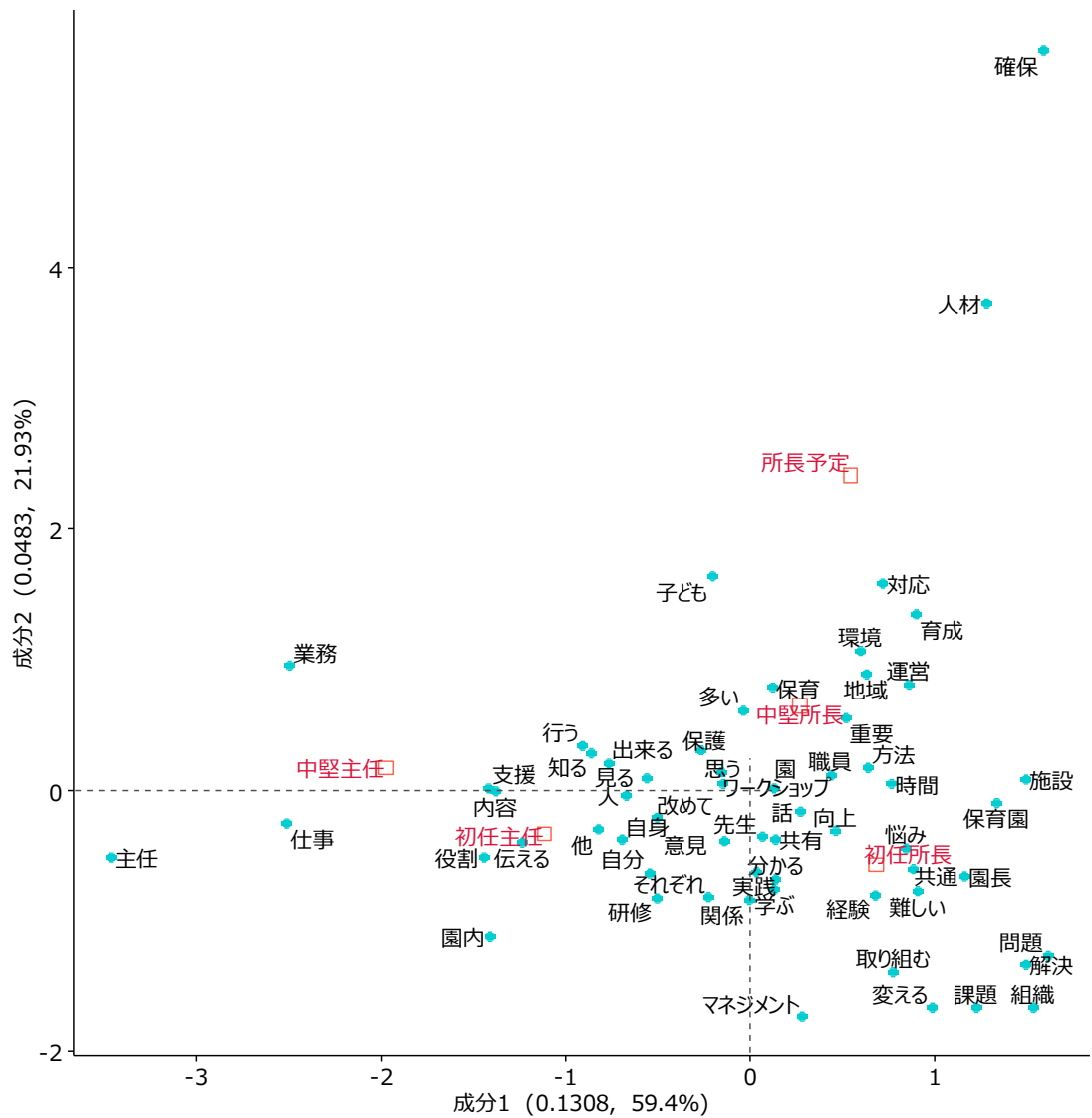


中堅クラスでは、主任の役割として、内部のマネジメント以外にも外部に向けた対応の重要性について新たな知見が得られたことが示されている。「保護者に対する子育て支援」「地域との連携」「業務の見える化」等、近年の保育マネジメントにおいて要請が高まる事項に関する理解について、高い研修効果が得られた結果となった。

対応分析

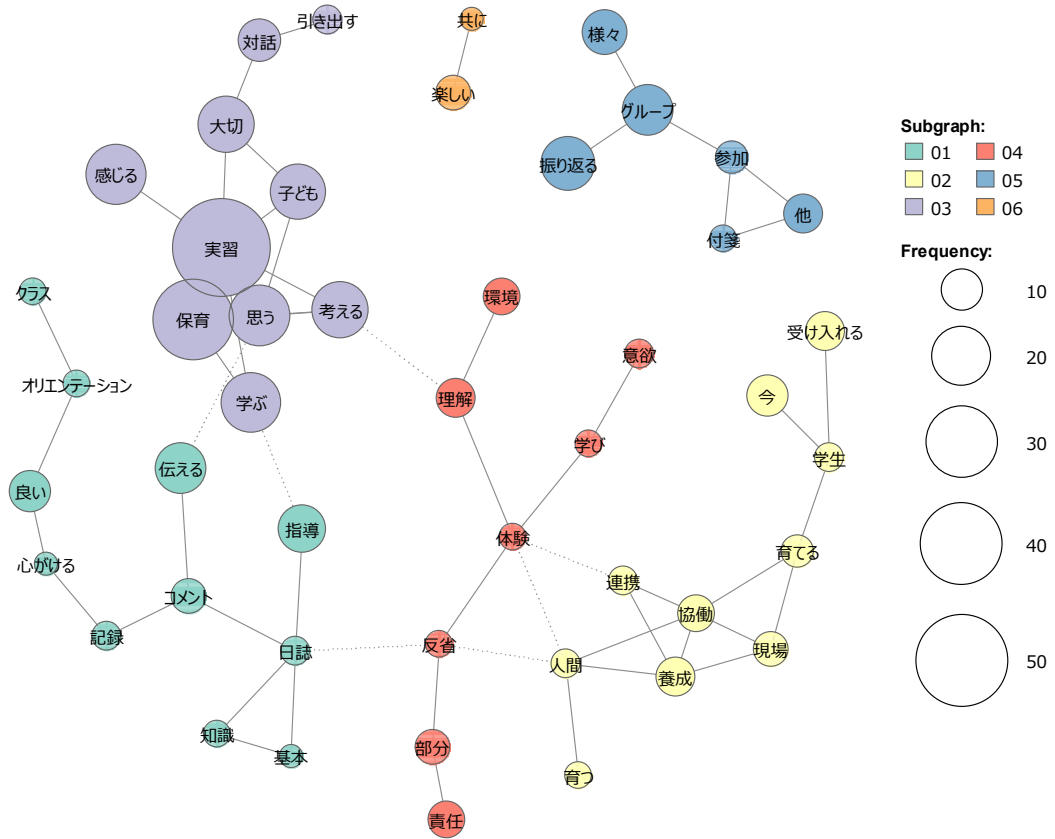


ワークショップを通じて把握した新しい知見は、主任では「業務」「仕事」やその「内容」である一方、所長は「環境」や「情報」など、抽象度が増すようにみとれた。



ワークショップを通して把握できた新しい知見に関して、初任主任は「園内」「研修」が特徴的な語であったのに対し、中堅主任は「業務」であった。

・保育所等実習指導

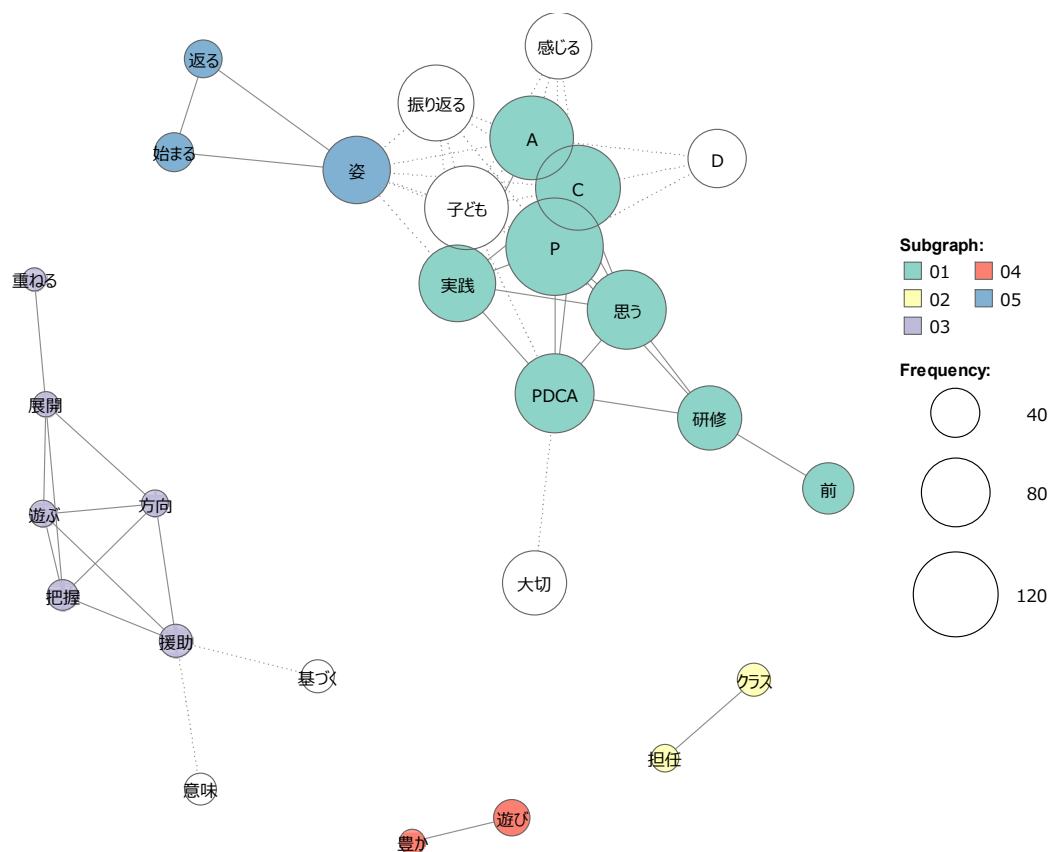


実習指導に関して「養成校との連携」のほか、実際の指導をめぐる具体的な事項、特に「日誌」「記録」「対話」など、自らの実践を客観的に振り返る機会の必要性について、新たな知見の獲得があった。実習生の振り返りや考えを深める方法を獲得できたことは、高いレベルで研修効果が上がったことを示している。

複数研修共通項目

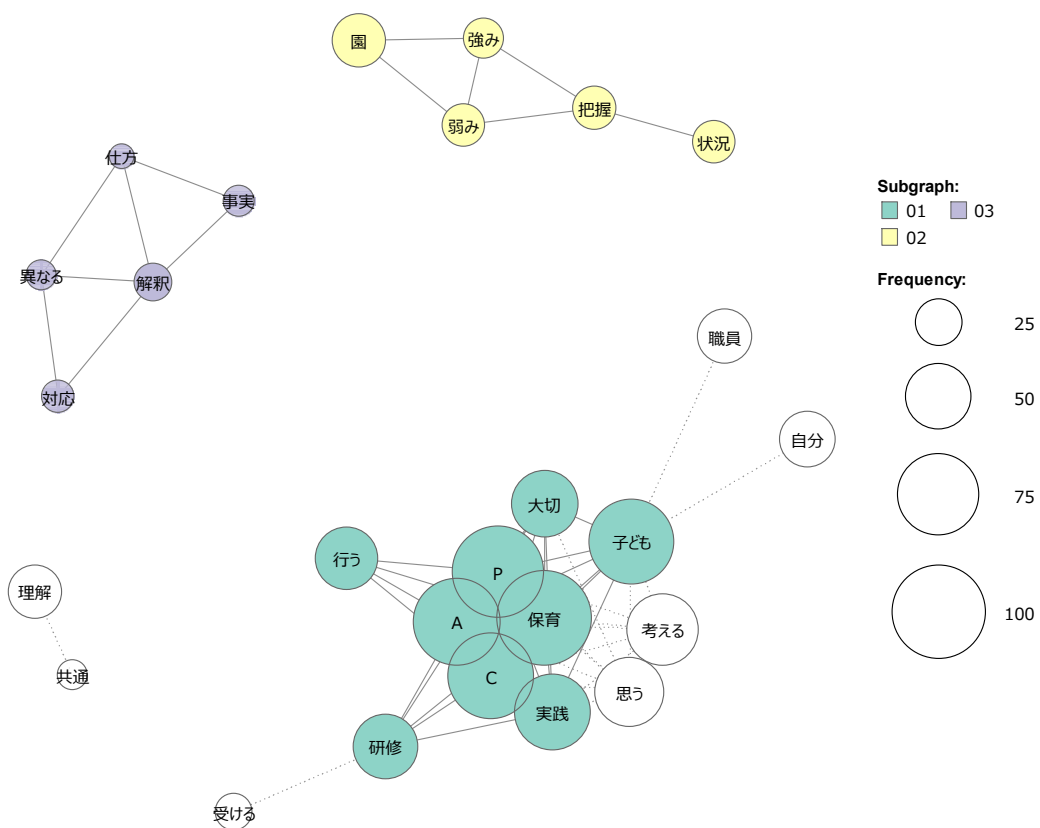
(設問)「教育の PDCA」とはどうか、自分の考えで研修前から変化したことを書いてください。

・初任主任保育士



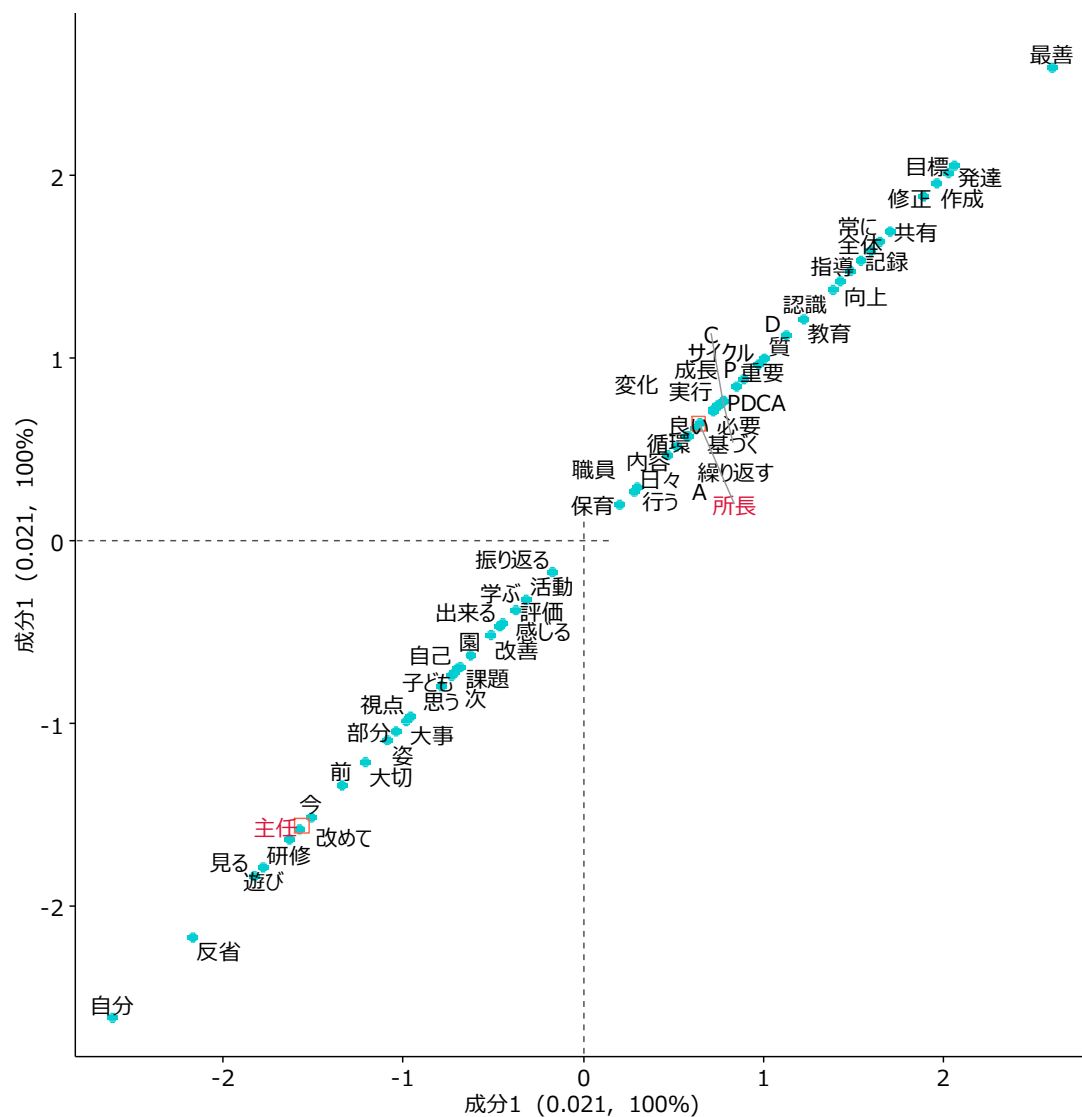
図の上部から、「子ども」の「姿」から「始まる」もの、そしてそこに「返る」もの、という記述のあったことが推測できる。それ以外はあまり見えてこない。しいて言えば「遊ぶ」ことを「把握」し「援助」することが書かれているようである。

・中堅主任保育士

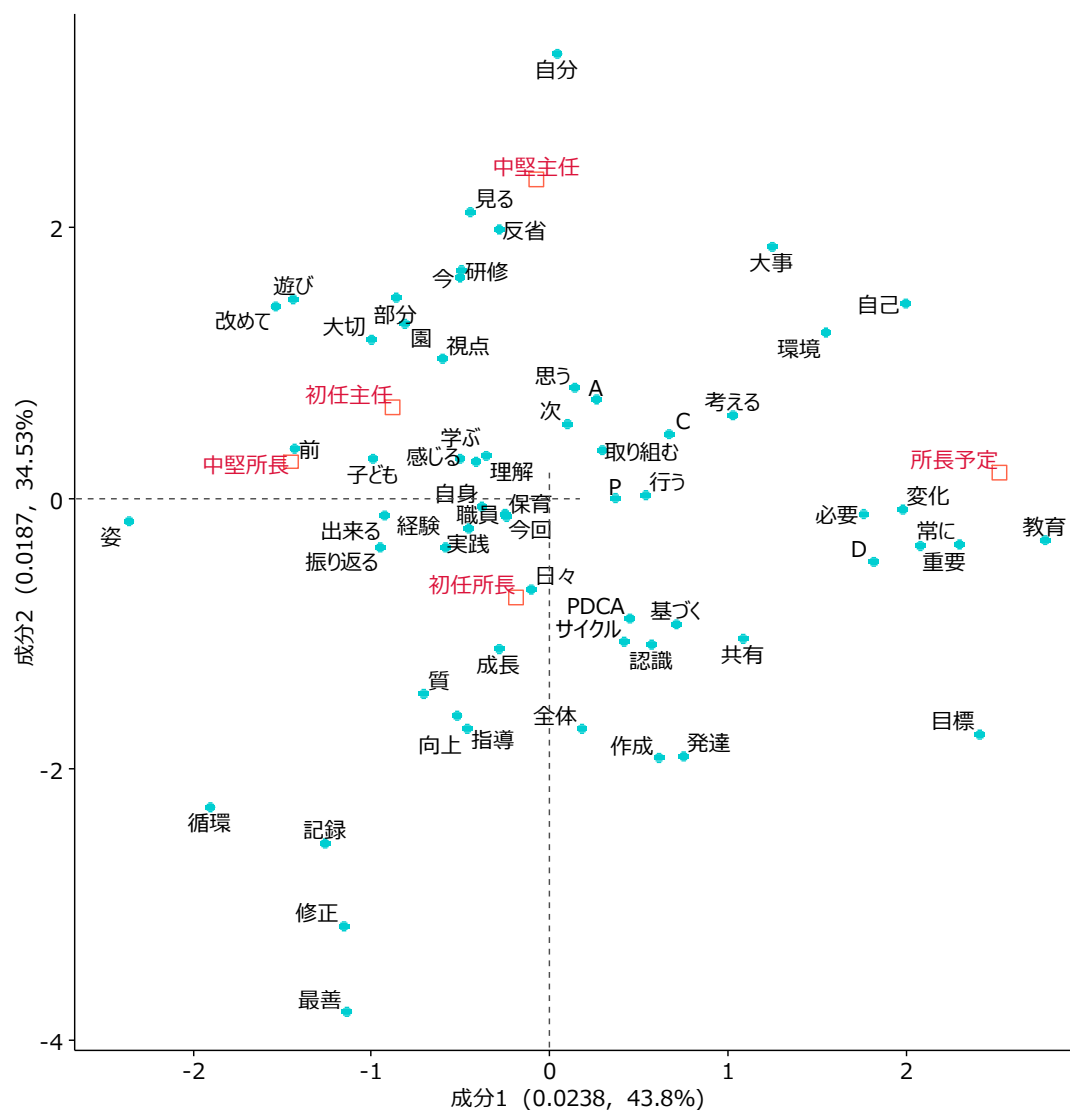


初任主任保育士の回答と比較すると、教育の PDCA を「大切」であると考えているのは同様に思われる。その他、上の図からは、受講者にとって教育の PDCA は「園」の「強み」と「弱み」を「把握」することと関連して考えられていることが推測できる。

対応分析



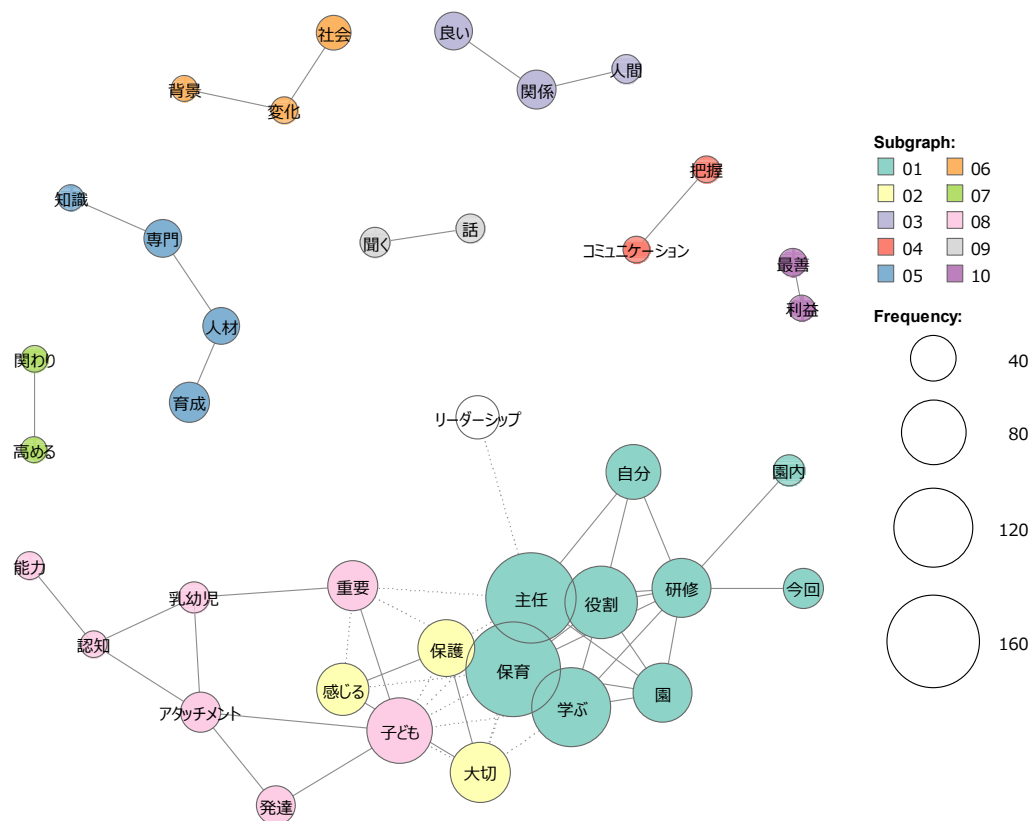
主任保育士は「遊び」や、おそらく「子ども」の「姿」「視点」など身近に接しているものに注意が向けられており、所長はPDCAなど保育計画自体に関心を持っているものと思われる。



初任主任と中堅主任を比べると、中堅主任に特徴的な語として「反省」という語が表れていた。これまでの主任としての行動に対し「教育の PDCA」を学んで反省するところがあったのかもしれない。

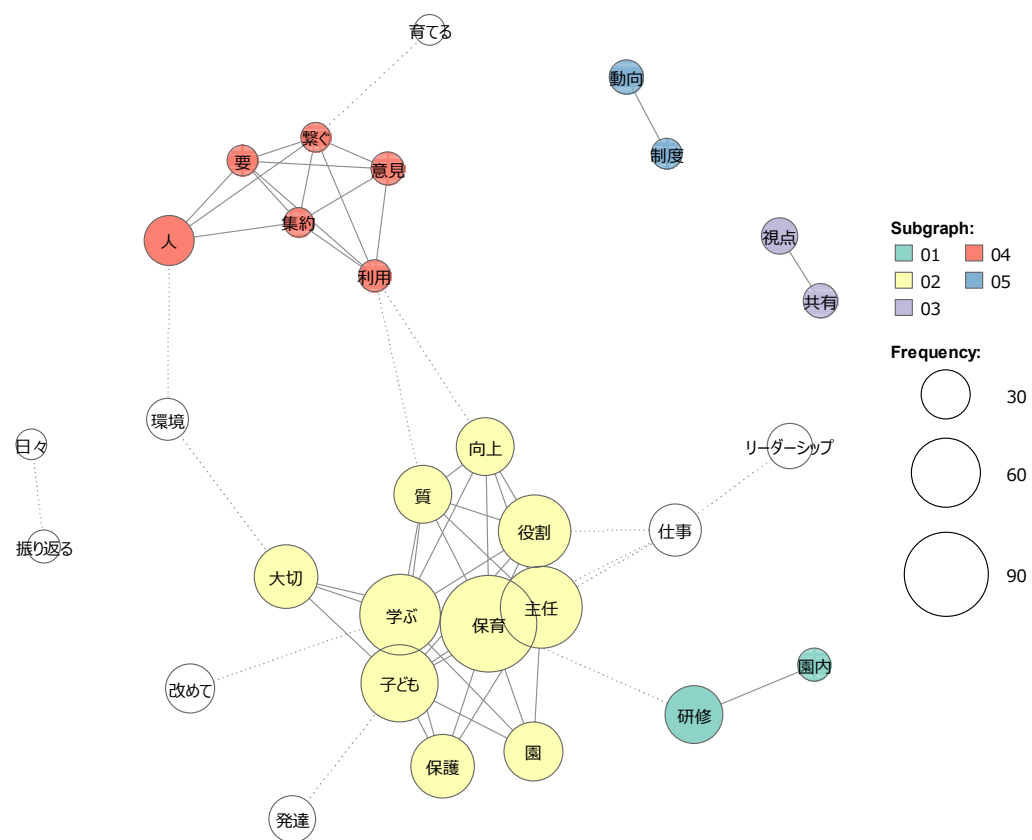
(設問) 研修で重点的に学んだことを書いてください。

・初任主任保育士



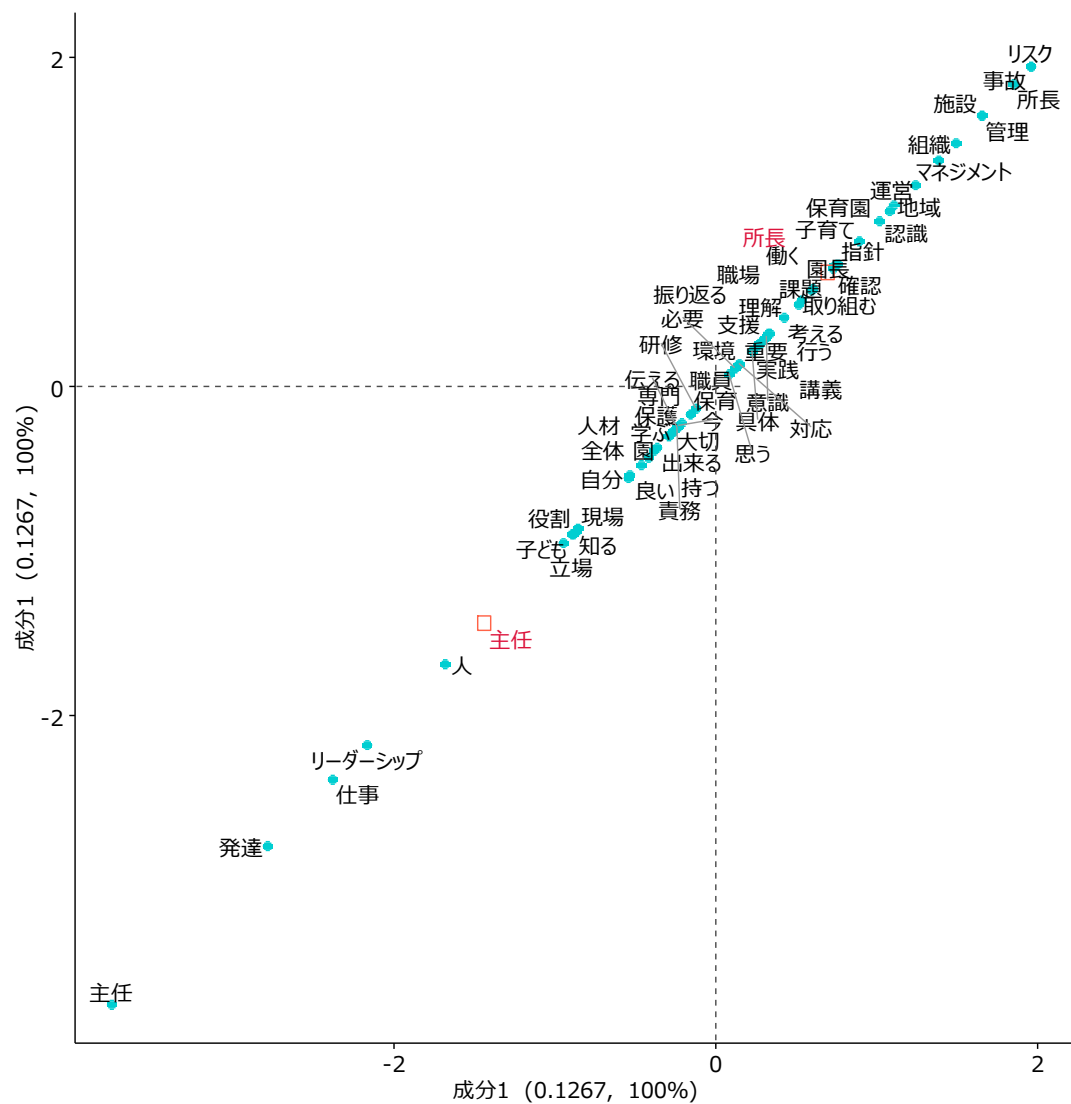
研修で学んだこととして、この回答からは、「主任」としての「役割」を「リーダーシップ」と関連して考えることがあげられると思われる。その他、個別事項として「人材」の「育成」や、「子ども」の「発達」における「アタッチメント」の意義、子どもの「最善」の「利益」などが窺える。

・中堅主任保育士



中堅主任保育士の回答では、「主任」の「役割」は「保育」の「質」の「向上」と関連するものとして捉えられていることが窺える。「リーダーシップ」の語が見えるのは、初任主任保育士の回答と共通する点である。

対応分析

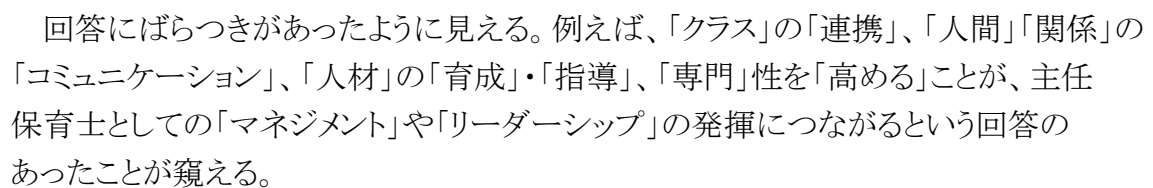


研修で重点的に学んだことは、所長は「リスク」「マネジメント」「指針」「理解」「振り返り」などであった一方、主任は「リーダーシップ」であった。

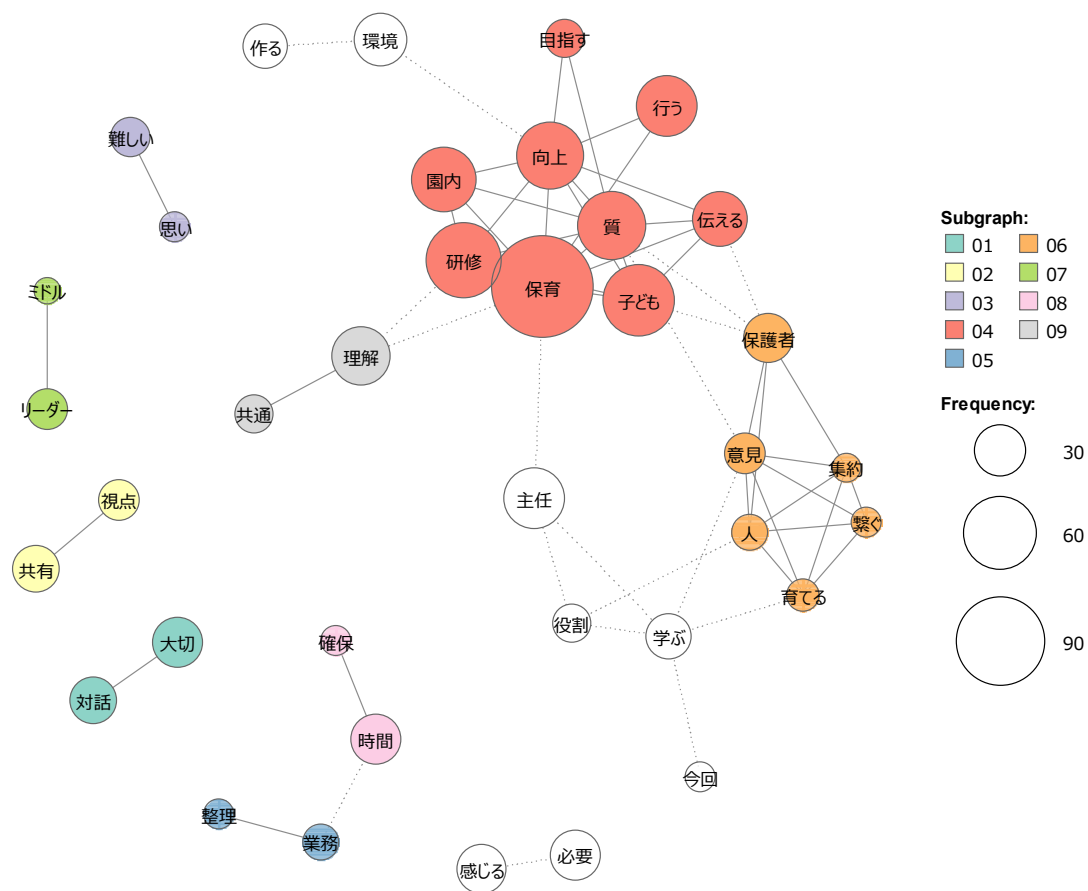


初任主任と中堅初任は位置が近く、「子ども」や「人」、「現場」など、日常的に関わっている対象について記述していると思われる。

・初任主任保育士

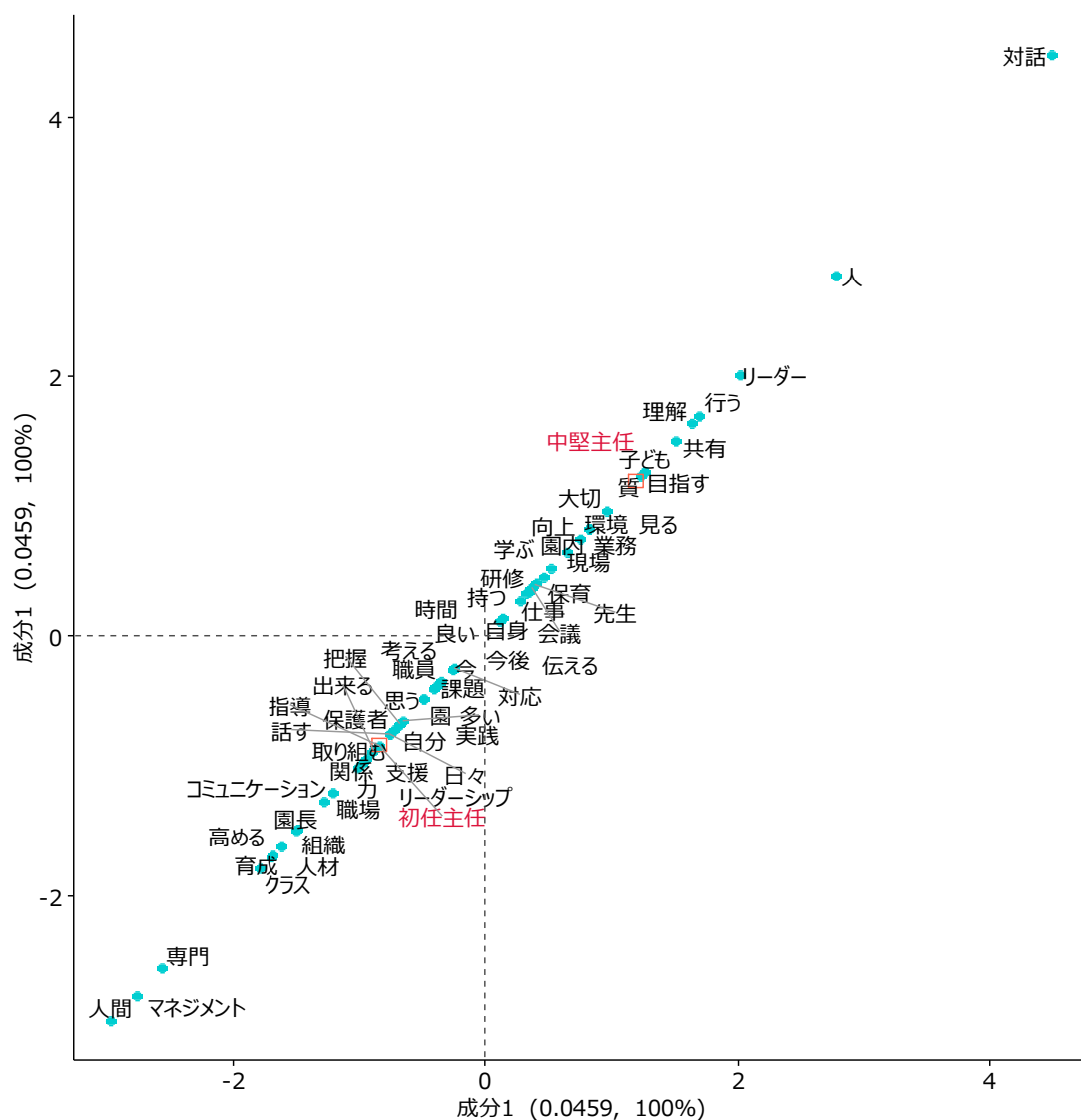


・中堅主任保育士

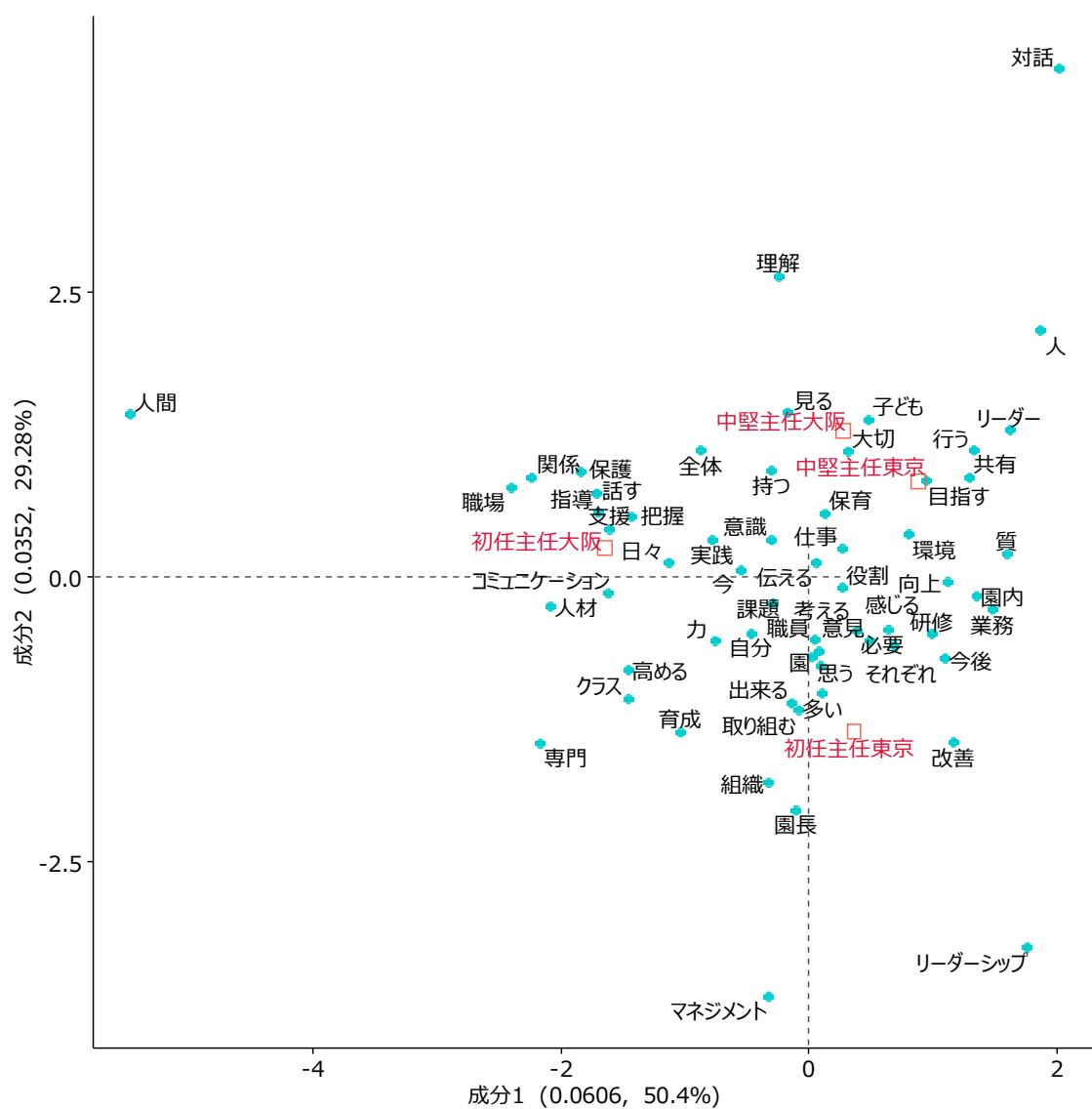


初任主任保育士の回答と比較すると、こちらの回答には「保護者」の語のあることが目立つ。また、受講者は「質」の「向上」を意識していると思われ、研修の効果(研修で伝えられたこと)の可能性がある。

対応分析



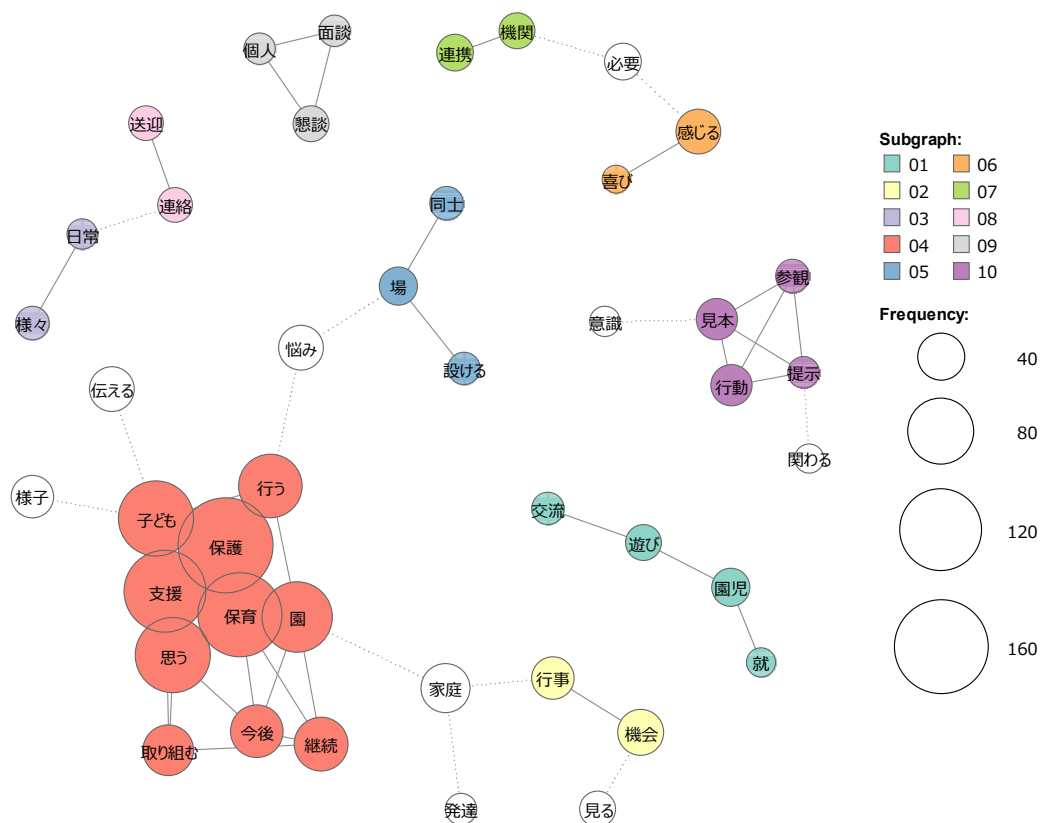
主任として今後取り組むこととその課題としては、初任と中堅とで原点(0, 0)に抽出語が集中していることから、似たような語がつかわれていたことがうかがえる一方で、初任主任には「マネジメント」「専門」が中堅主任は「対話」「リーダー」「共有」「理解」といった特徴的な語がみられた。個別については共起ネットワークを参照のこと。



中堅主任は東京会場・大阪会場ともに近い。
 初任主任は会場によって開きがある。東京会場の回答者は、「園長」「組織」など施設への関心があり、大阪会場の回答者は「指導」「支援」といった人に関わる業務への関心をもって記述したように思われる。

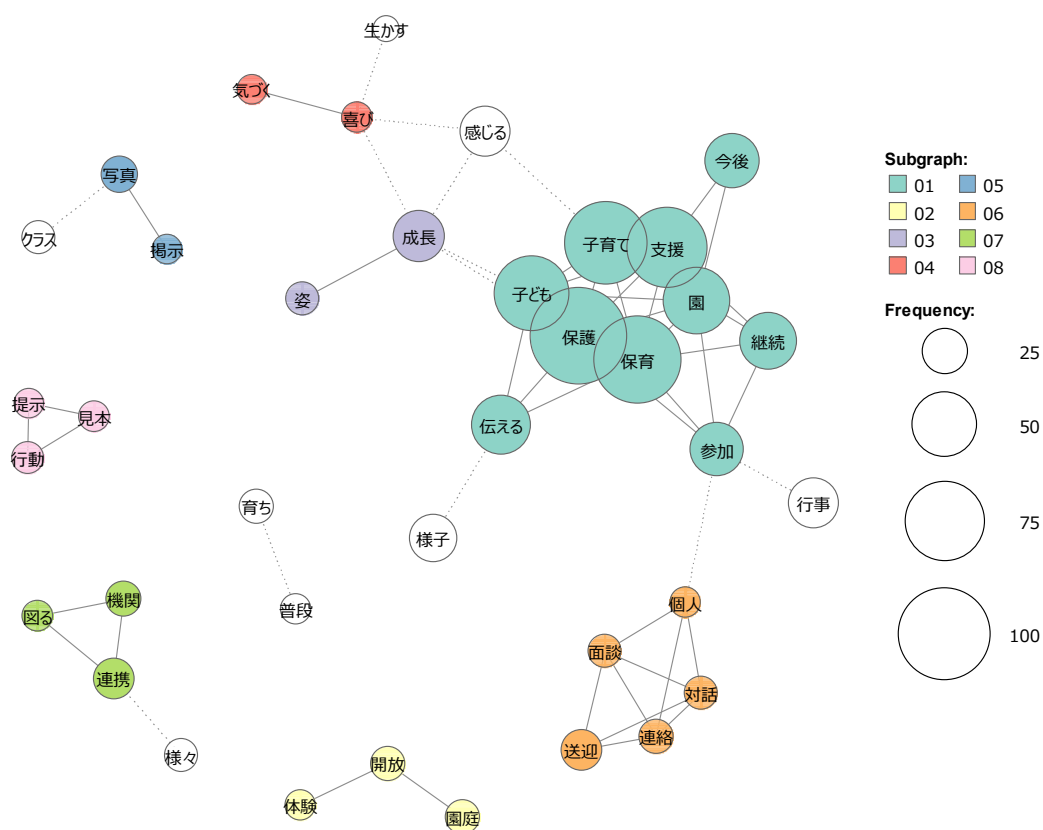
(設問) 自園で今後取り組みたい、または継続したい子育て支援の取り組みを書いてください。

・初任主任保育士



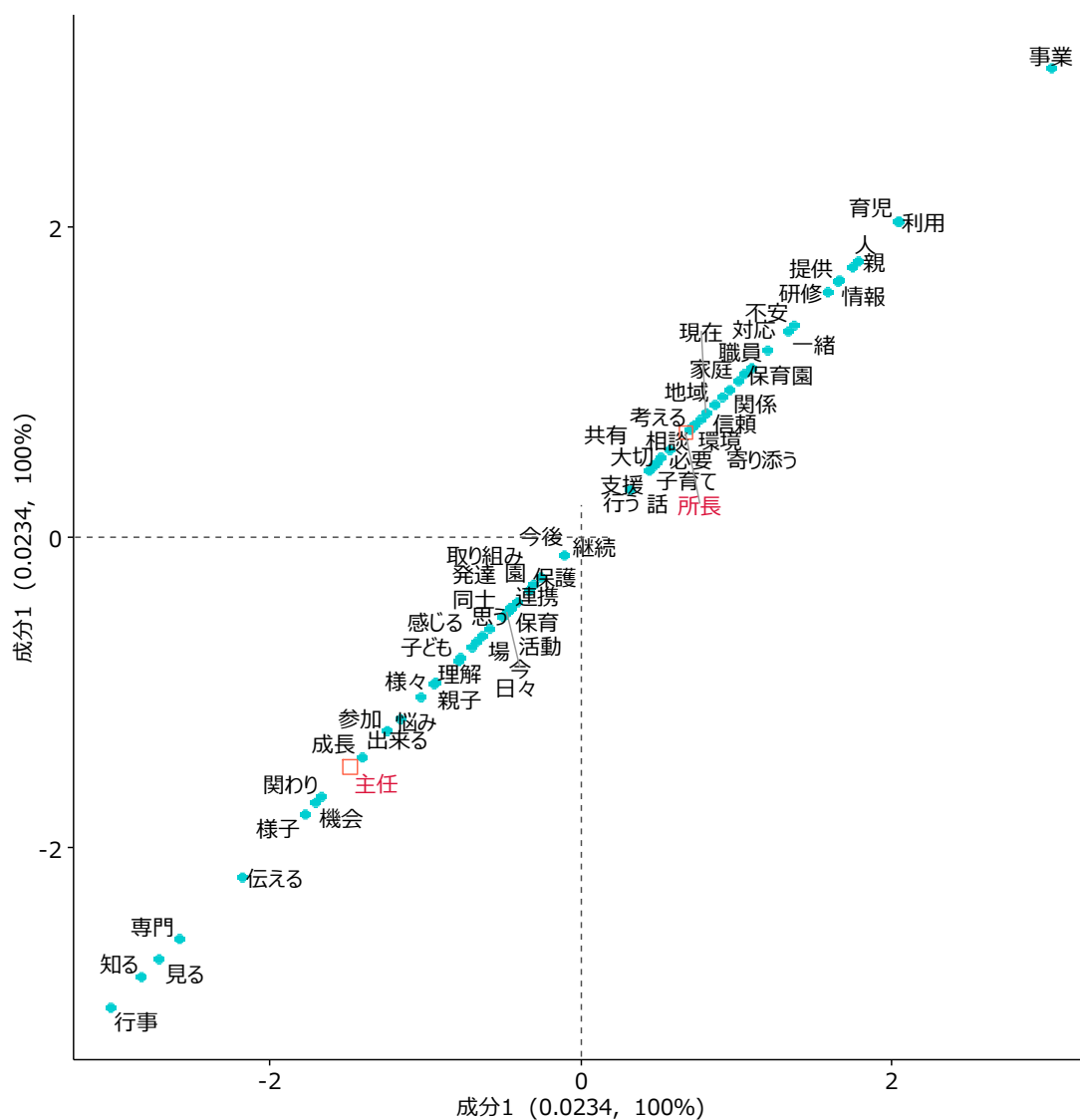
上の図では、「子ども」と「保護」者の支援が最も大きく目立つ。その支援の具体的な例として、「送迎」時の保護者への「連絡」や、「個人」の「面談」・「懇談」があるという記述があったと推測できる。

・中堅主任保育士

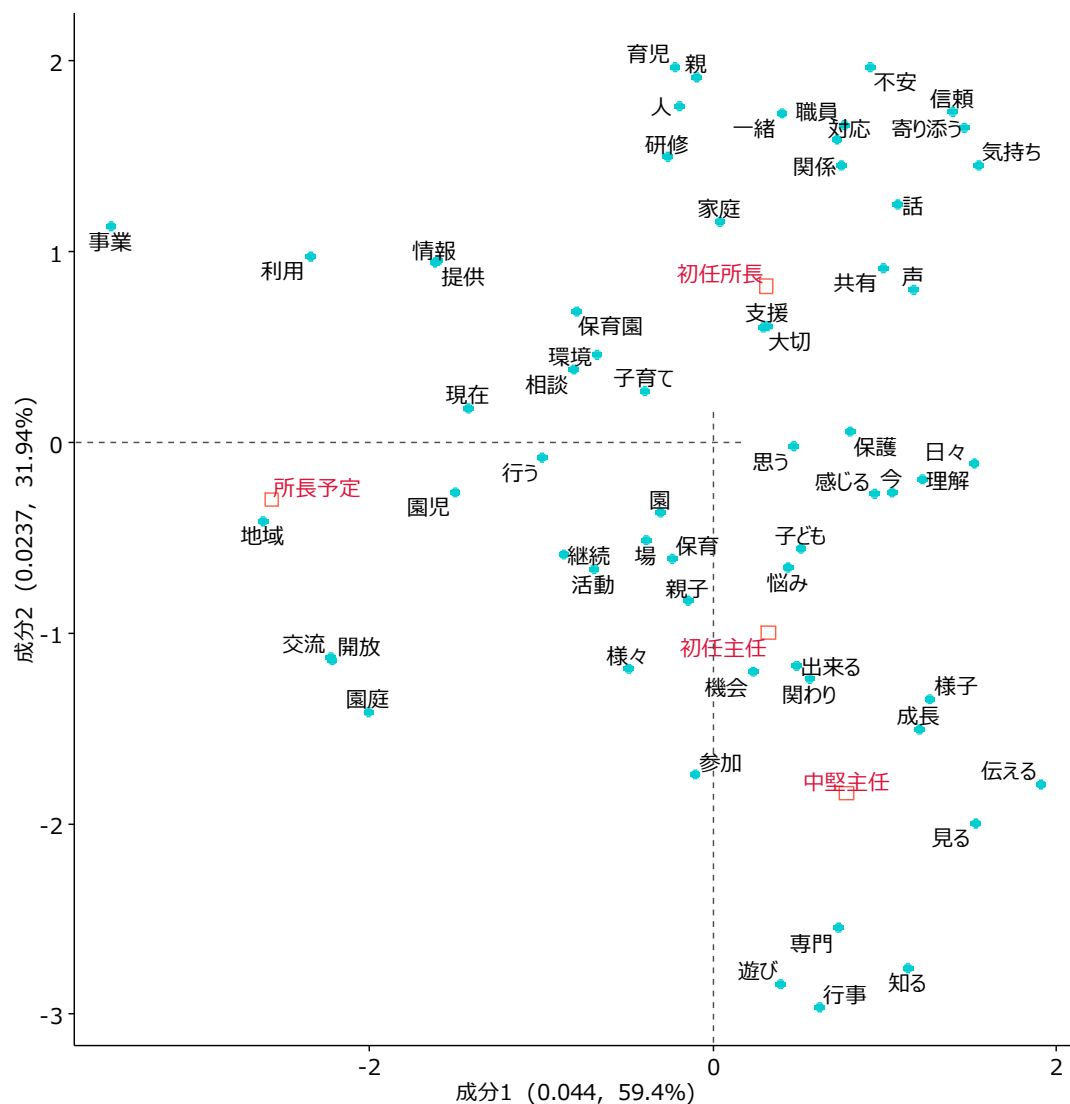


初任主任保育士の回答と、この中堅主任保育士の回答の類似点として、「子ども」と「保護」者の「支援」への言及ということがある。また、「送迎」時の「連絡」について書いたと思われる記述も同じ。ただし、こちらの中堅主任保育士の回答には「写真」の「掲示」の記述があったようで、それは目新しい。ポートフォリオ等、保育技術について研修で今後も取り上げられると良いだろう。

対応分析



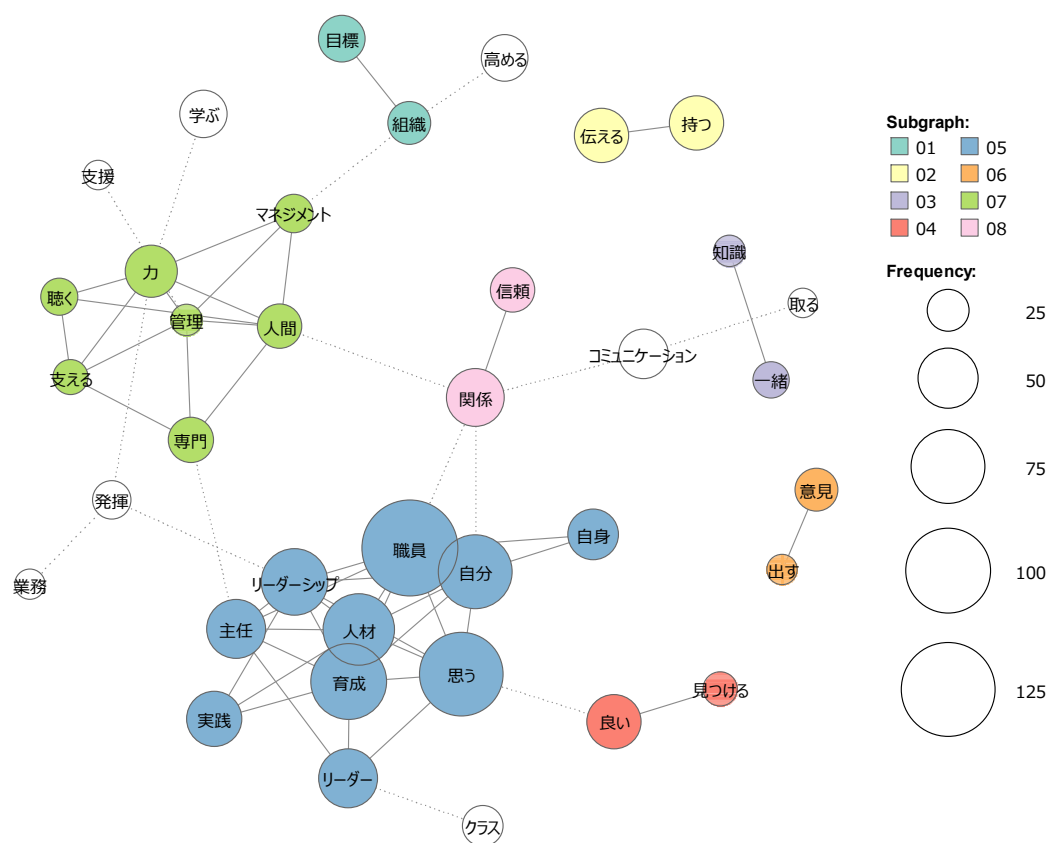
保護者との関わりについて、主任は子どもの「様子」や「成長」を「伝える」といった自分の業務についての記述傾向があったのに対し、所長は「保護者」への「支援」や「相談」といった概念で考えを深めようとしているようにも見える。



中堅主任は初任主任に比べて原点(0, 0)から遠く、「遊び」「専門」「行事」といった特徴的な語がみられた。自園で取り組む子育て支援の取り組みの具体的な案について考えられていることがうかがえる。

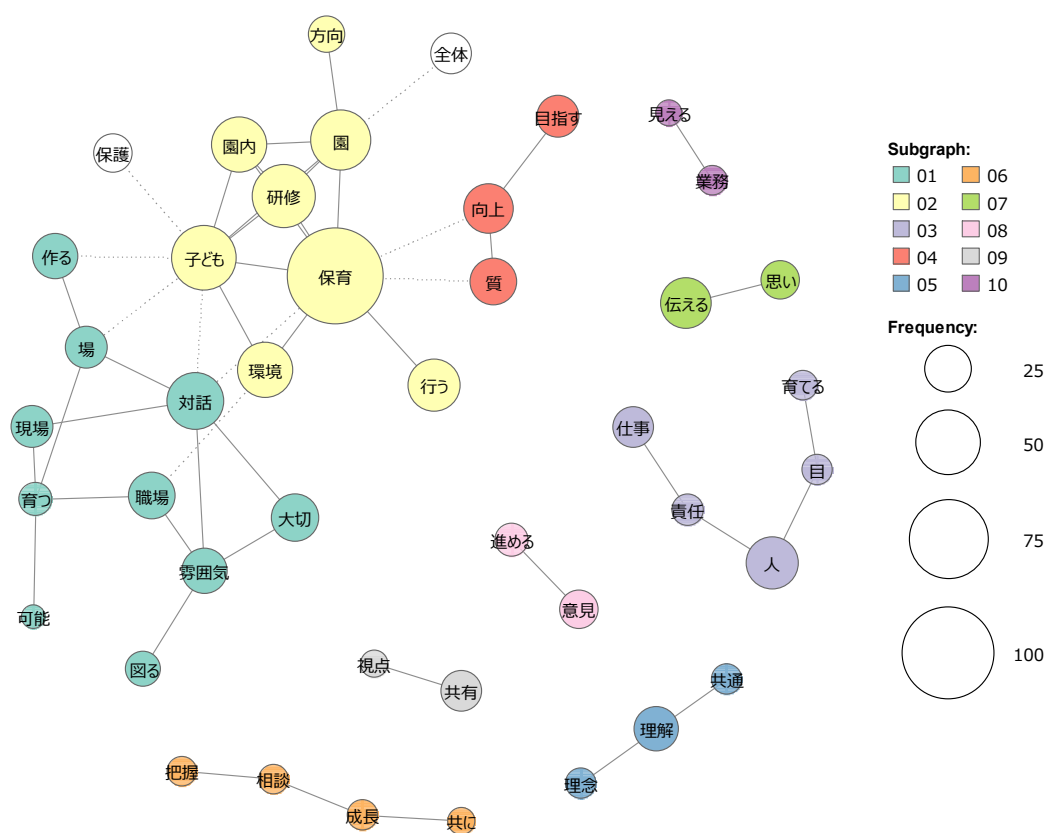
(設問) 自園において、自分が今後実践したい「リーダーシップ」や「人材育成」について書いてください。

・初任主任保育士



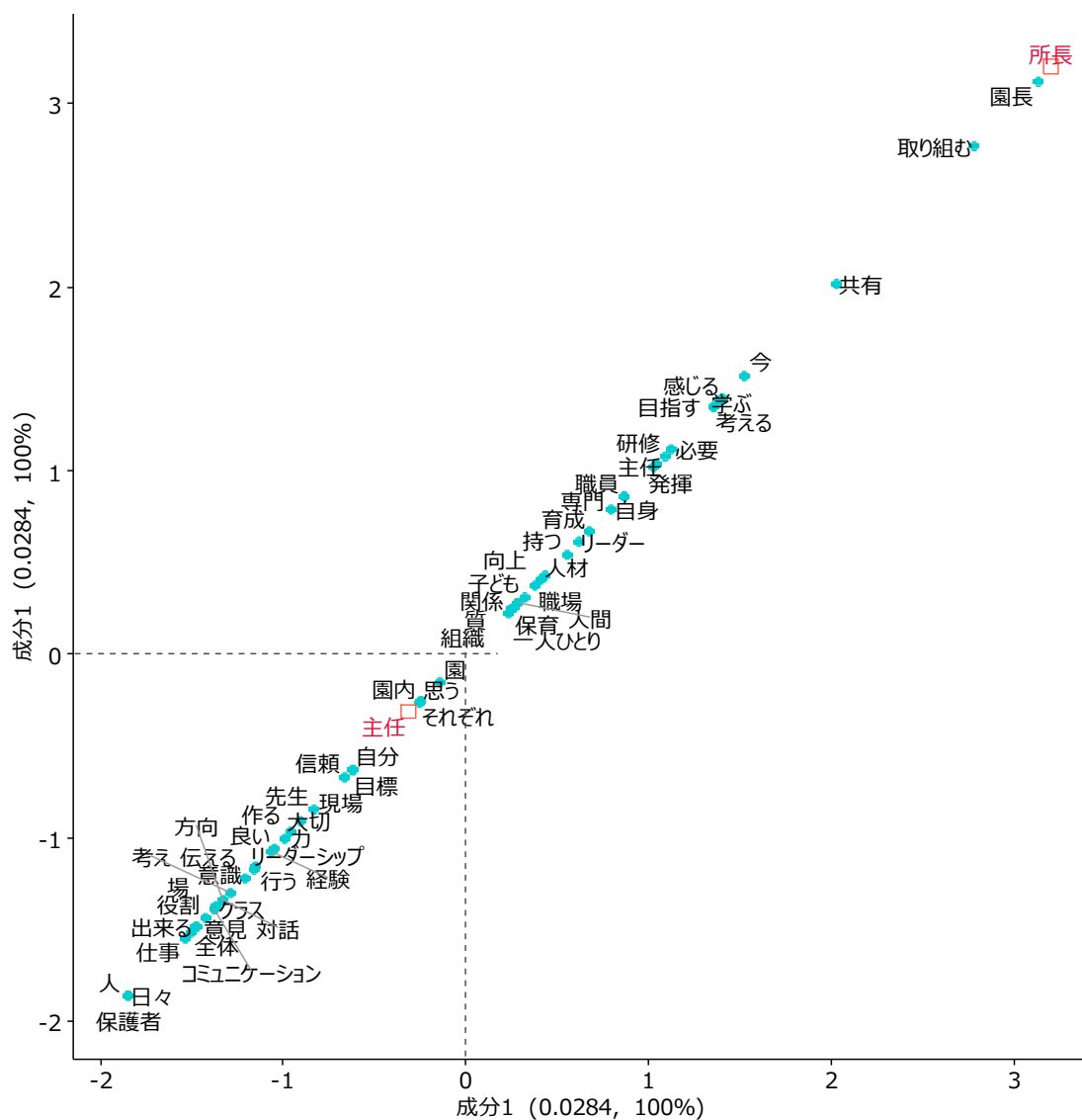
上の図からは、例えば「聴く」「カ」または「支える」「カ」が「マネジメントと関連して、受講者の今後実践したいこととして重視されているように読み取れる。

・中堅主任保育士

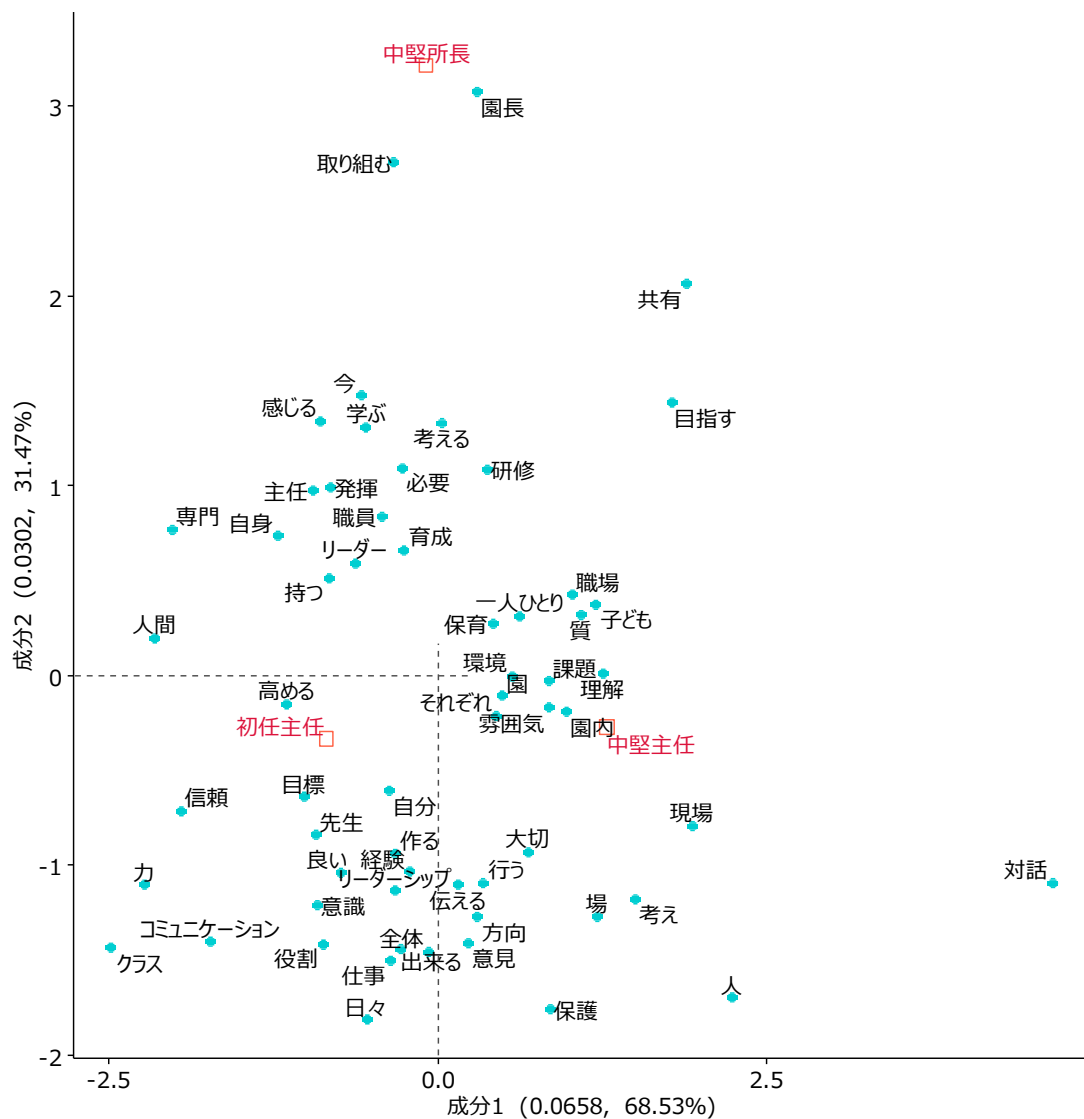


中堅主任保育士の回答には、「職場」の「雰囲気」や、「現場」での「対話」を「大切」だとする記述があったことが推測できる。人（職員）との関係だけでなく、現場環境を自分が作っていくという責任感が出てきているように思われる。

対応分析



所長と主任との距離が大分あいているように見える。所長の近くに「園長」の語があり、主任の近くに「自分」の語があることから、それぞれ設問を自身にひきつけて考えることができたと思われる。個別には共起ネットワークを参照されたい。

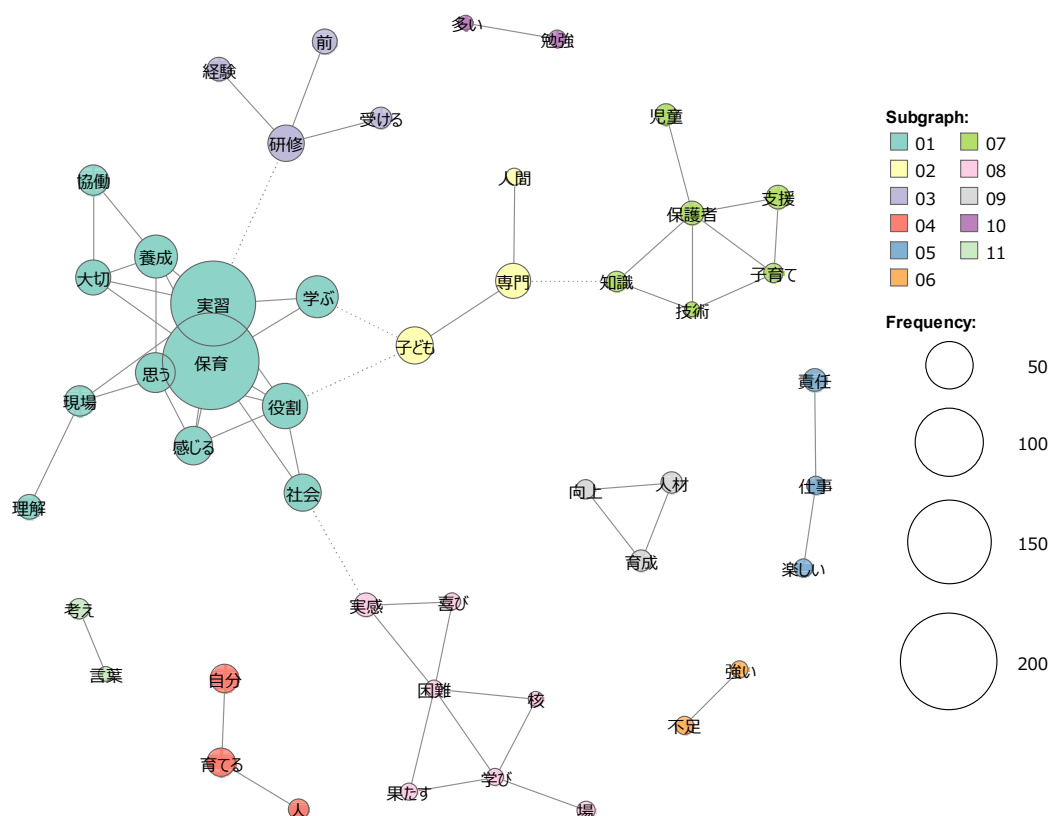


中堅主任は「現場」「や」「園内」に関心があり、初任主任は「信頼」や「意識」、「目標」など内面に関わることに関心があるように見える。

単独研修項目

(設問) 保育実習の社会的役割について、自分の考えで研修前から変化したことを書いてください。

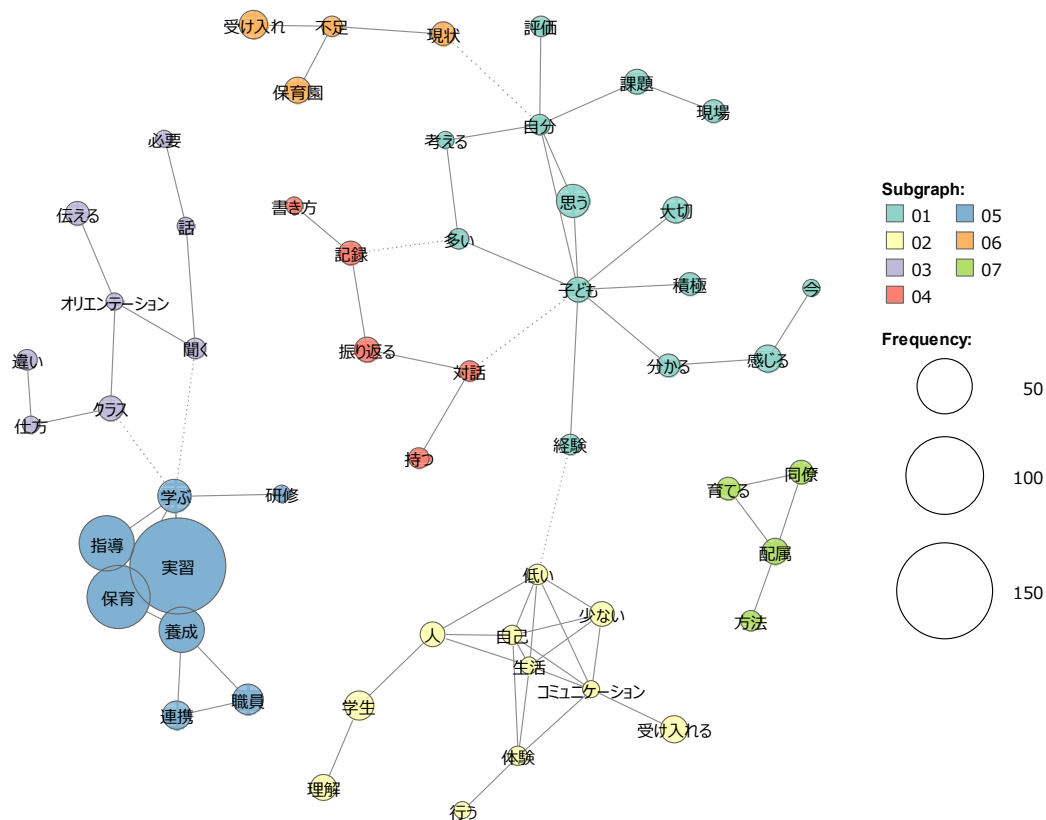
・保育所等実習指導



回答にばらつきがあったように見える。例えば、「人材」の「育成」、「保護者」の「支援」、「子育て」の「技術」や「知識」の専門性、といったことが読み取れる。数は少ないようだが「協働」を「大切にする」という記述もあったようで、個人の勉強だけでは得られない実習の意義が受講者に認識されたと思われる。

(設問) 保育実習をめぐる課題として特に気になることを3つ書いてください。
箇条書きで構いません。

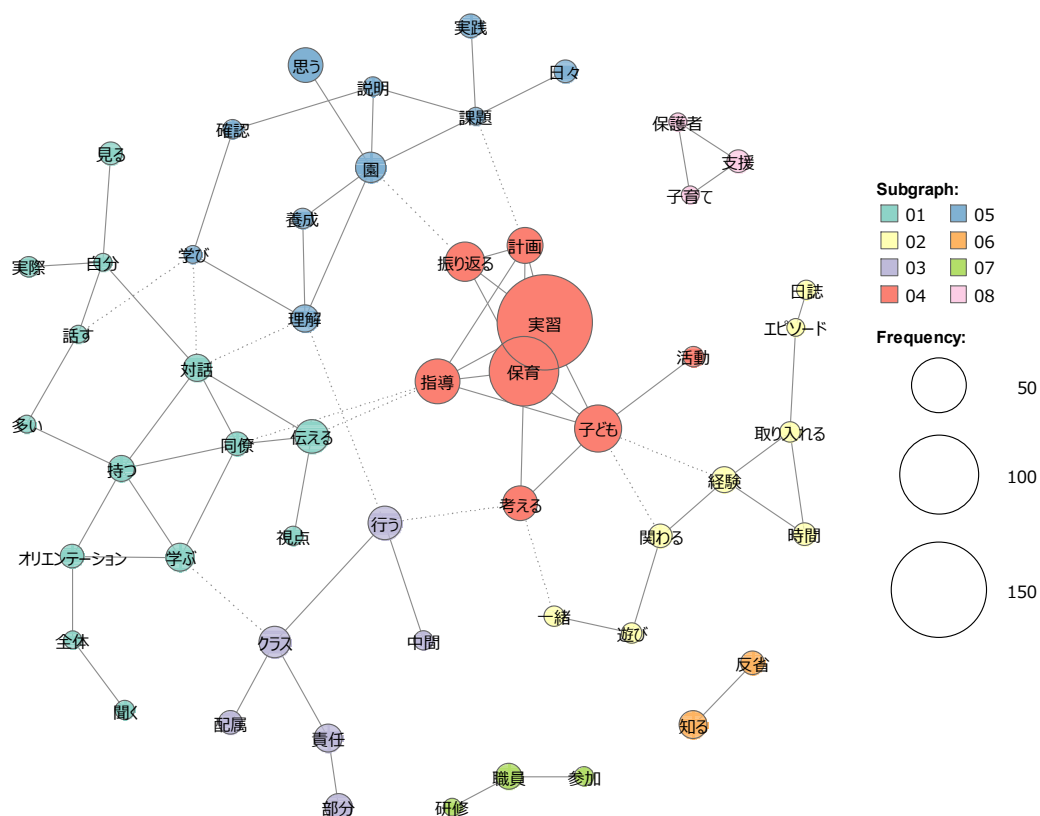
・保育所等実習指導



上の図では、「子ども」から多くのことばが広がっていることが見える。課題についての記述は、「受け入れ」る「保育園」の「不足」という「現状」認識や、「記録」の「書き方」という技能の問題、また「コミュニケーション」の「少ない」こと・「低い」こと、などが書かれていたと思われる。

(設問) 保育士を養成するために、実習で特に取り入れたほうが良いと思う内容を3つ書いてください。

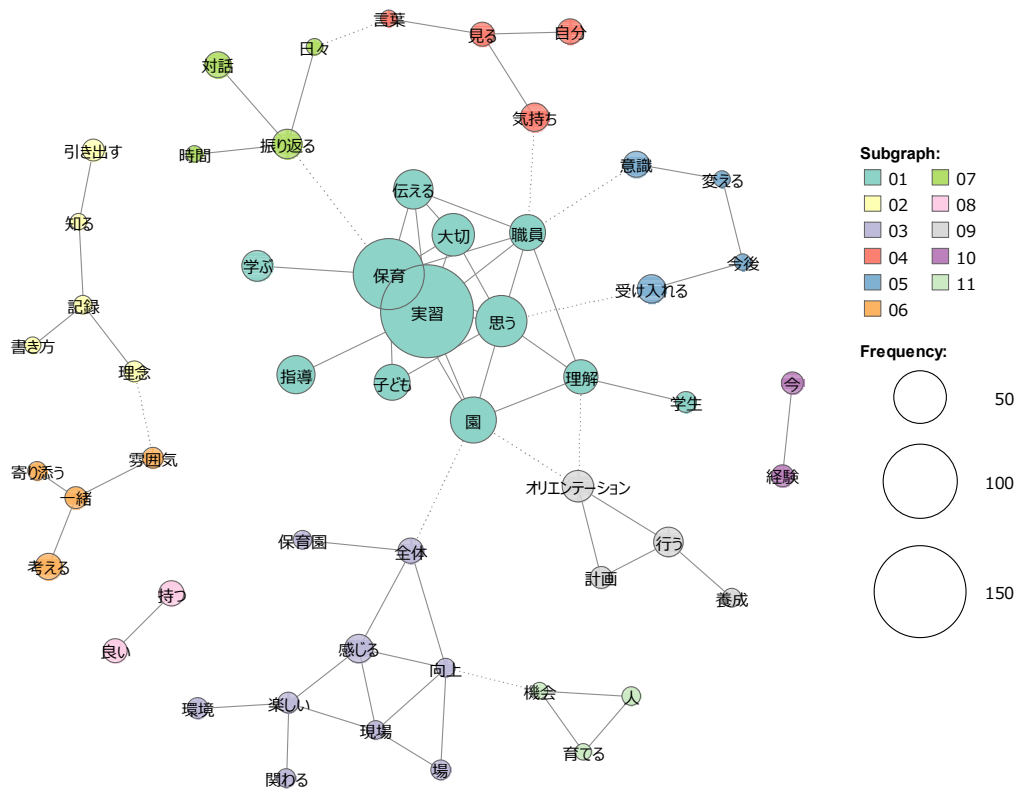
・保育所等実習指導



回答にばらつきがあったと思われる図である。中心にある「指導」から他の文脈が広がっているように見える。その他、「思う」「伝える」「行う」「学ぶ」「聞く」「考える」「関わる」「取り入れる」「振り返る」「知る」「見る」「話す」「持つ」など動詞の多いことが特徴であるといえる。

(設問) 自園での実習受け入れにおいて今後大切にしたいことを書いてください。

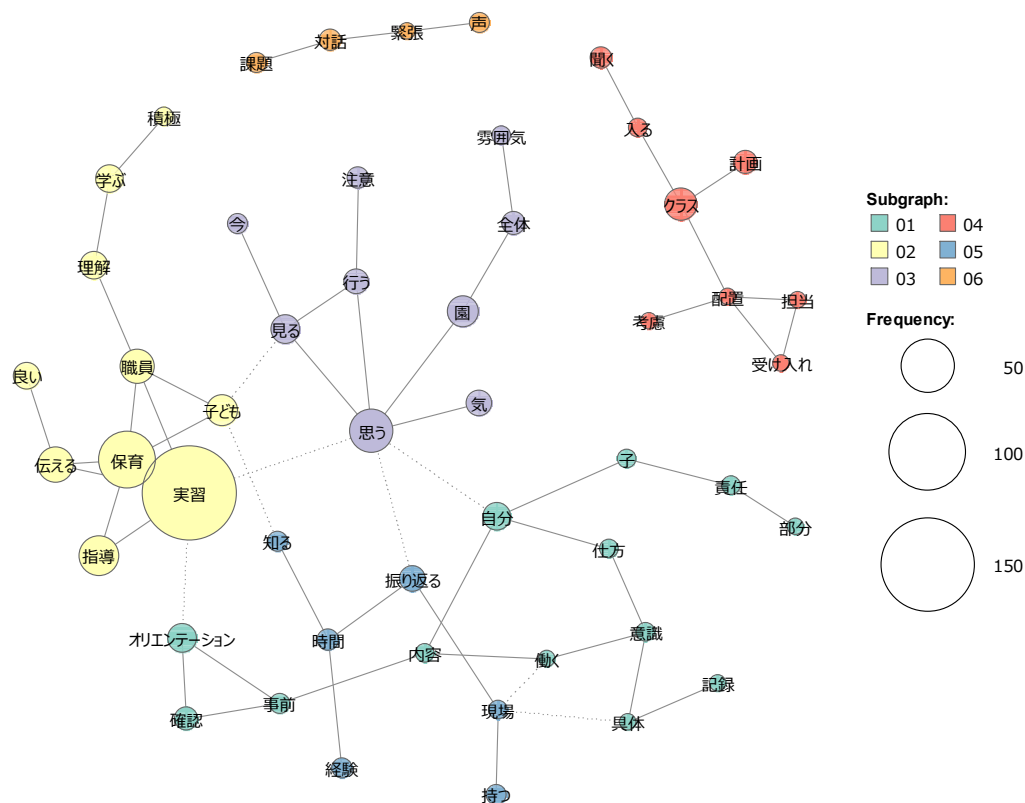
・保育所等実習指導



画面左側にある「一緒に」「寄り添う」という語や、下方の「楽しい」ということばは、人と関わる保育の仕事に従事する上で重要である。また、画面上部では、「対話」を「振り返る」という記述のあったことが窺える。実習において、現場で他者と関わって仕事することは、学生にとっても受け入れ側にとっても大きな意義をもつのではないかとと思われる。

(設問) 自園での実習受け入れの際に、今後注意したいことを書いてください。

・保育所等実習指導



上の図から、回答者は「オリエンテーション」を実習において重要だとみなしていることが推測できる。また、「現場」を「振り返る」「時間」に関する記述もあったと思われる。つまり、回答者が実習の最初と最後のあり方に着目していることが窺える。

3.3 内容の理解について

3.3.1 主任保育士研修

3.3.1.1 初任主任保育士研修会

研修前に理解度の平均値が 2.3 で最も低かったのは「関係法令等の理解」であったが、研修後は 3.1 まで上昇し研修の前後のポイント上昇が 0.8 であり、研修の効果が最も高かったといえる。同様に「保育相談支援の実践方法の理解」も研修の前後のポイント上昇が 0.8 であり、研修の効果が最も高かった。

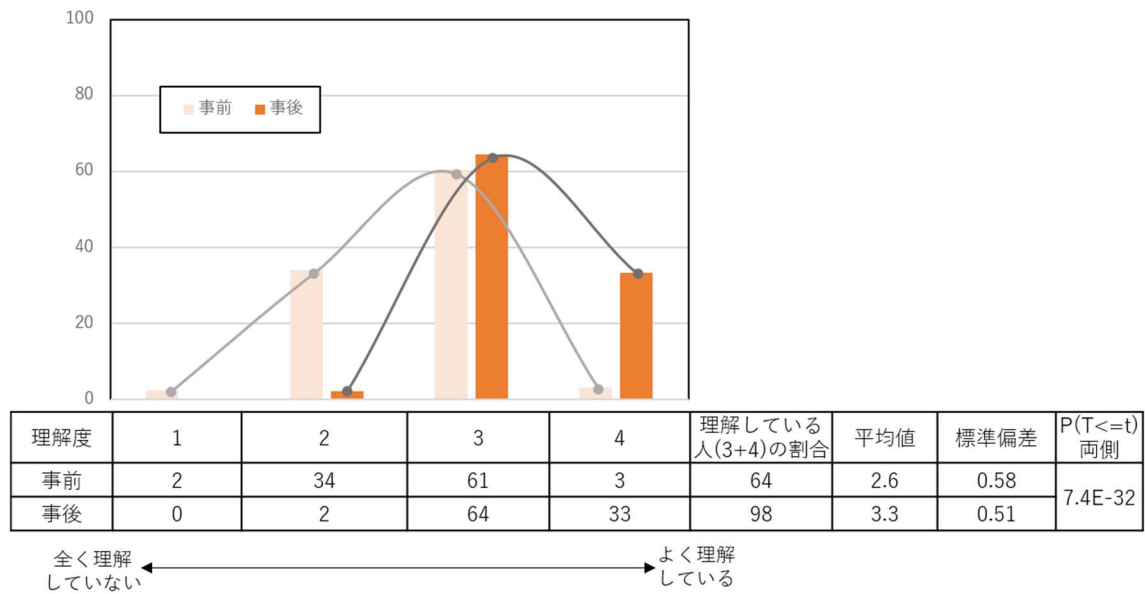
「職場における研修の企画立案・実施の理解」は、研修前の平均値は 2.7 であり標準偏差が 0.71 であり、受講者の理解度のばらつきがみられたが、研修後には 3.3 まで上昇し標準偏差も小さくなったことから、多くの受講者がよく理解できたといえる。

また研修後に最も理解度が高かった(3.6)のは、「保育所等における主任保育士の役割と責務の理解」であり、ほとんどの受講者が理解したといえた。

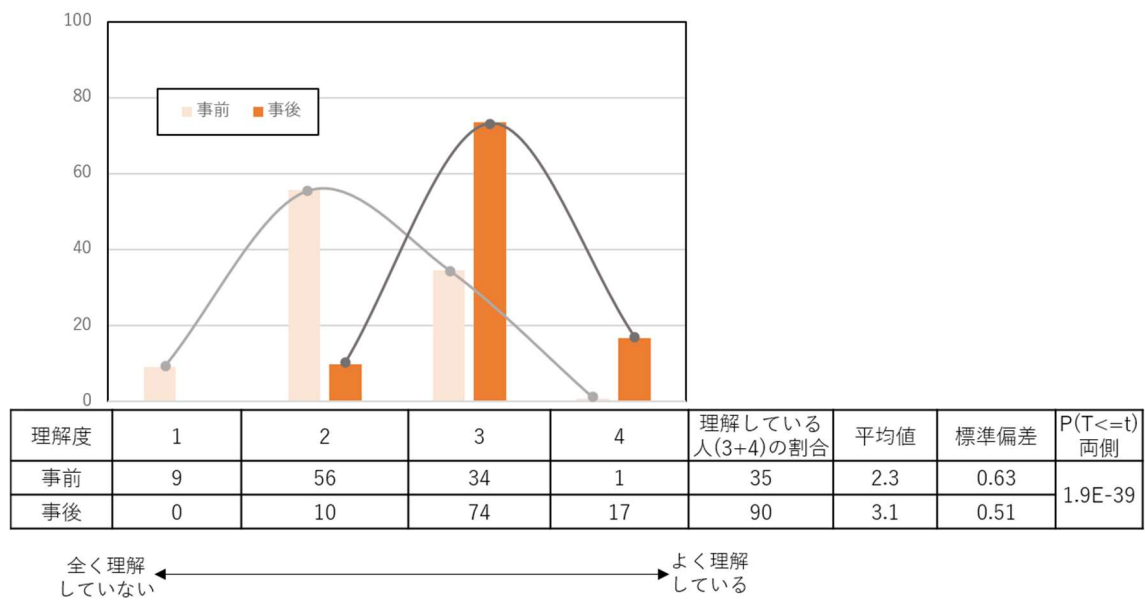
一方で、「児童虐待の防止についての理解」は、研修後の標準偏差の値も依然として大きく、一定の受講者の理解は得られたものの、理解が不十分であると認識している層も残ったため、研修の継続が必須の課題であるといえるであろう。

また、理解度を測定する 13 種類の設問中「保育所等における各種ガイドラインの理解」「子どもの発達を踏まえた保育実践の理解」「児童虐待の防止についての理解」を除く 10 種類について、理解度の平均値が事前から事後へ有意に上昇し(t 検定より)、標準偏差が小さくなったことから理解度のばらつきが小さくなったことが示された。結果、受講者全体は 10 種の課題について研修後に理解度が有意に上昇したといえた。

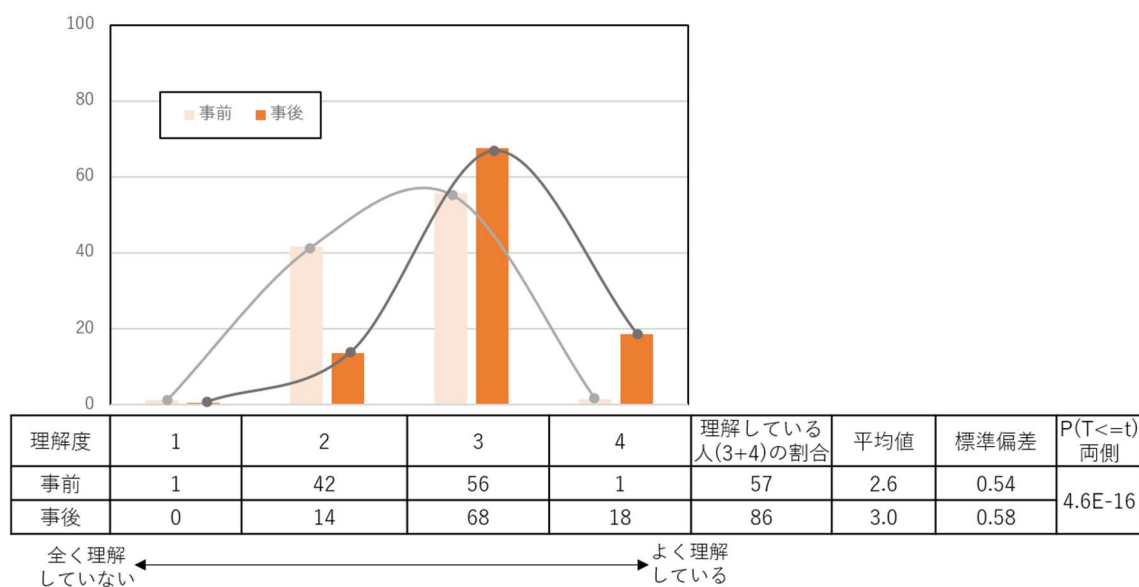
・保育制度の動向の理解



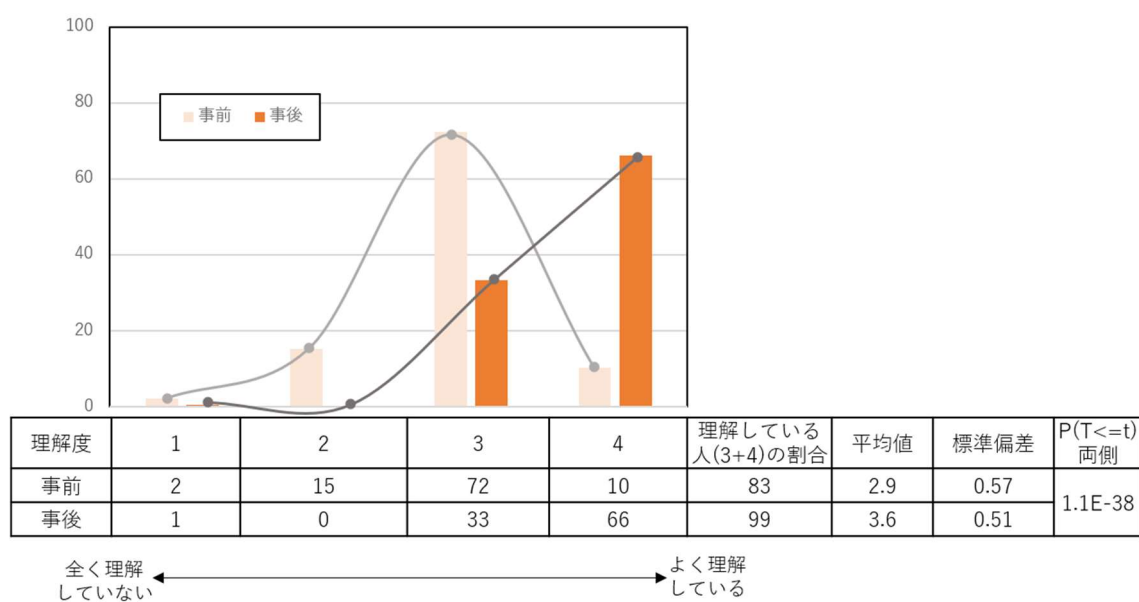
・関係法令等の理解



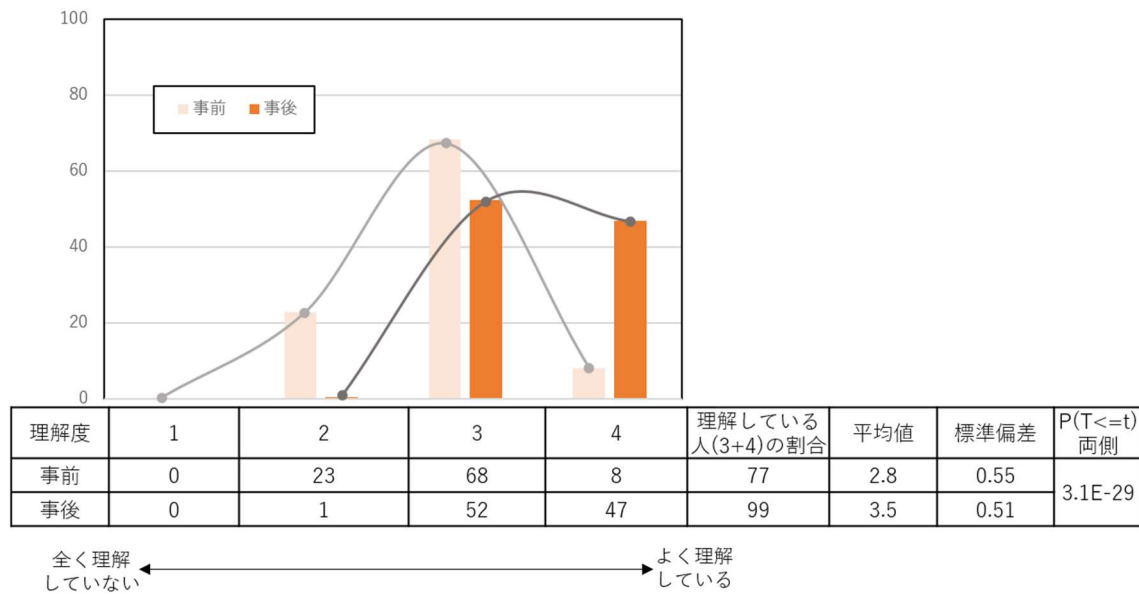
・保育所等における各種ガイドラインの理解



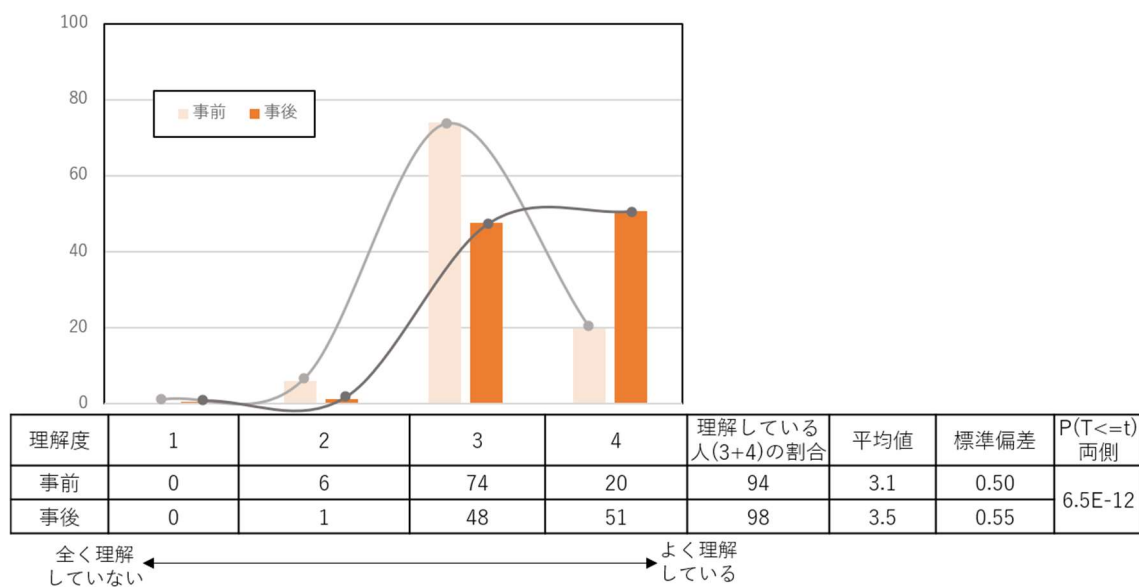
・保育所等における主任保育士の役割と責務の理解



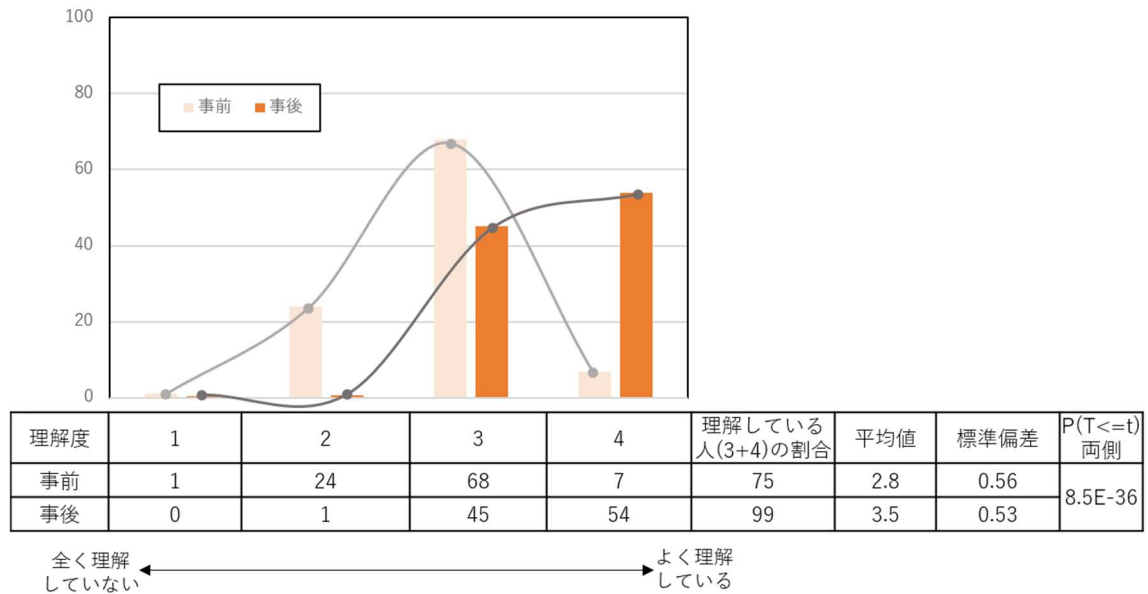
・保育現場における課題への対応の理解



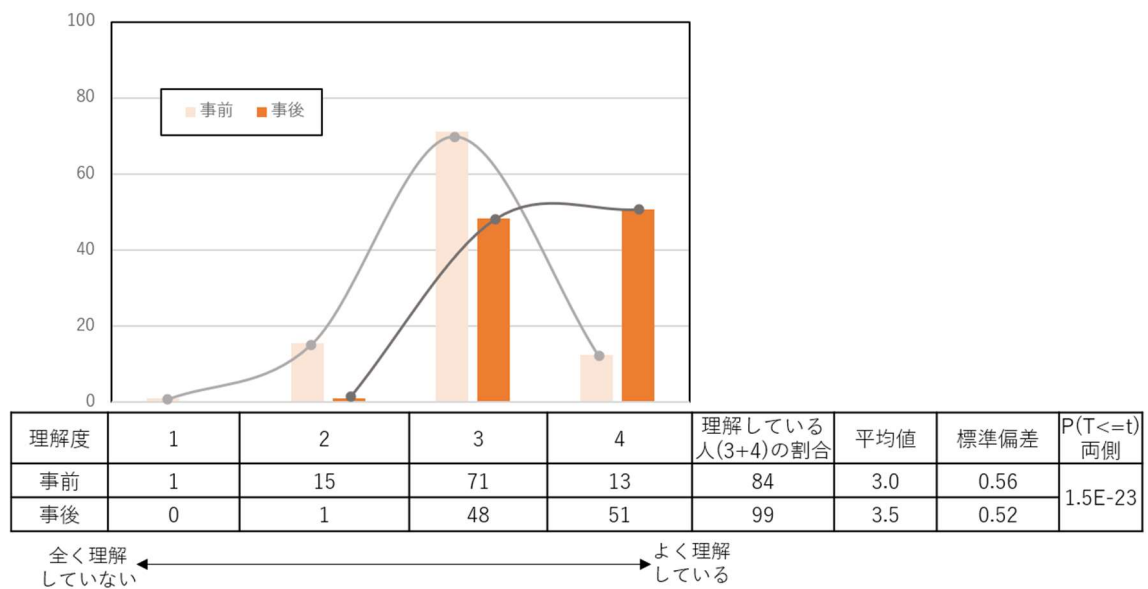
・子どもの発達を踏まえた保育実践の理解



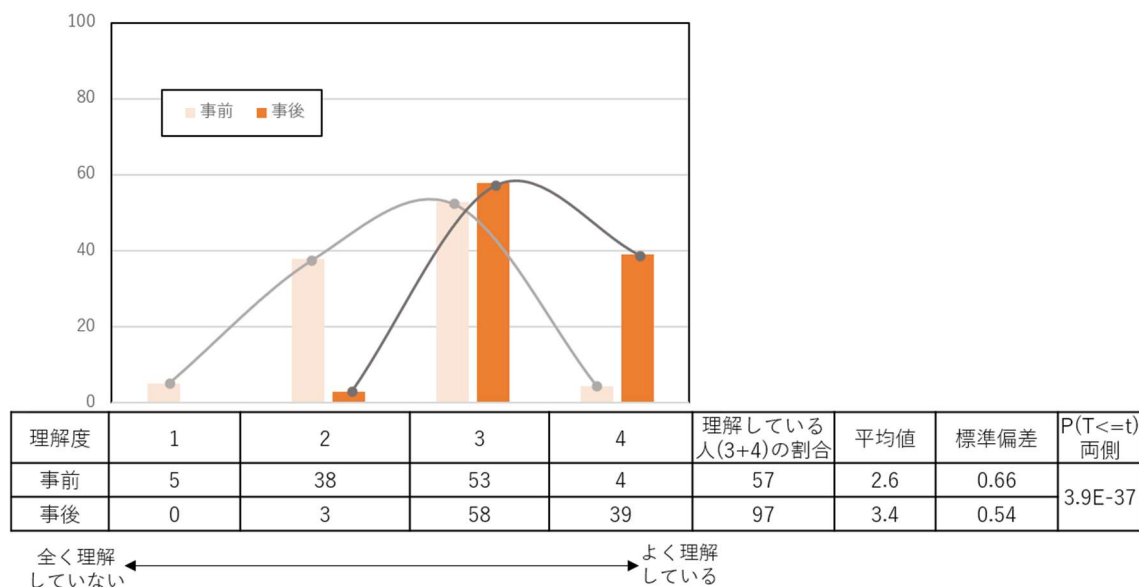
・保育の質の向上を図るための組織的な対応の理解



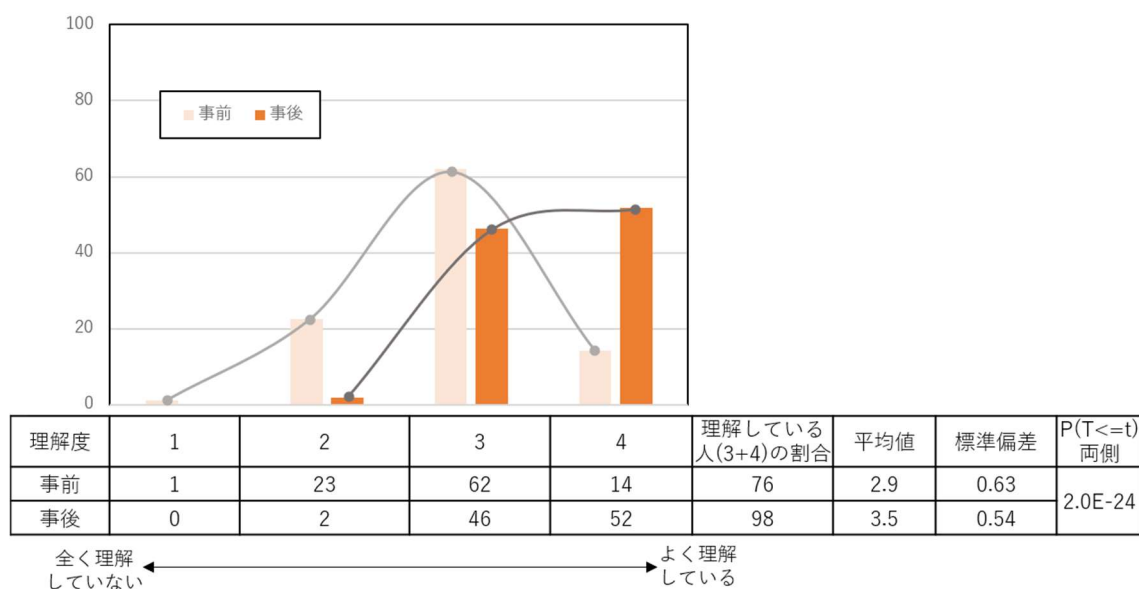
・保育所等における保護者支援・子育て支援の理解



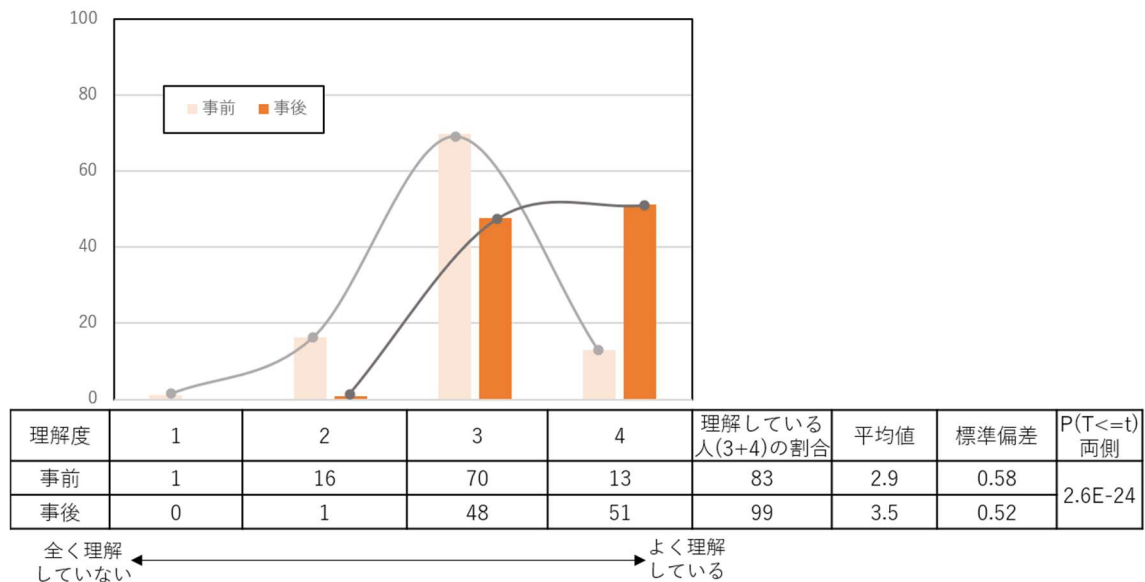
・保育相談支援の実践方法の理解



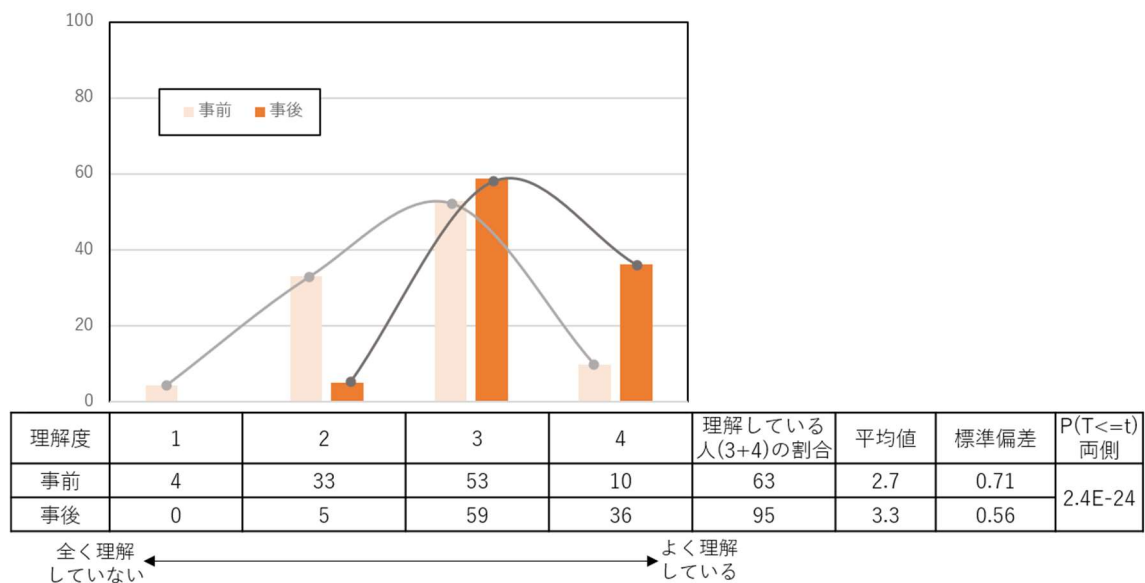
・保育現場におけるリーダーシップの理解



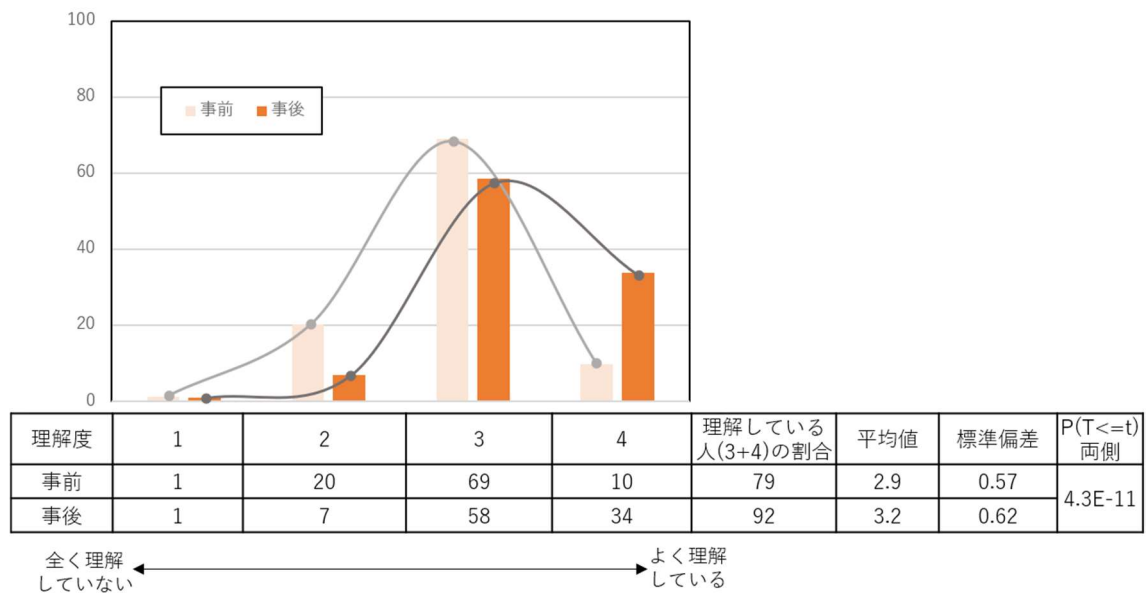
・職員の資質向上の理解



・職場における研修の企画立案・実施の理解



・児童虐待の防止対策についての理解



3.3.1.2 中堅主任保育士研修会

研修前に理解度の平均値が 2.4 で最も低かったのは「関係法令等の理解」であったが、研修後は 3.0 まで上昇した。

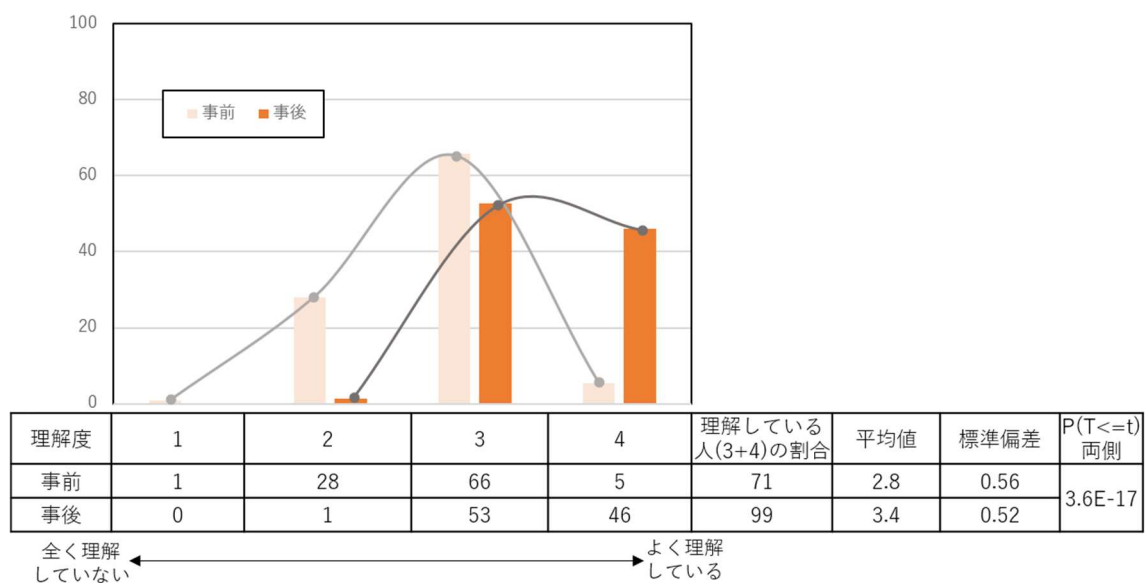
「保育所等における主任保育士の役割と責務の理解」「保育相談支援の実践方法の理解」は研修の前後のポイント上昇が 0.7 であり、最も高い研修効果が見られた。さらに「保育所等における主任保育士の役割と責務の理解」は、研修後は 3.7 まで上昇し標準偏差も非常に小さくなったことから、ほとんどの受講者がよく理解できたといえる。

また、「職場における研修の企画立案・実施の理解」は、研修前の平均値は 2.7 で標準偏差の値が 0.71 と非常に高く理解度にばらつきが見られたが、研修後は 3.3 まで上昇し標準偏差も小さくなったことから、研修の効果が見られたといえるだろう。

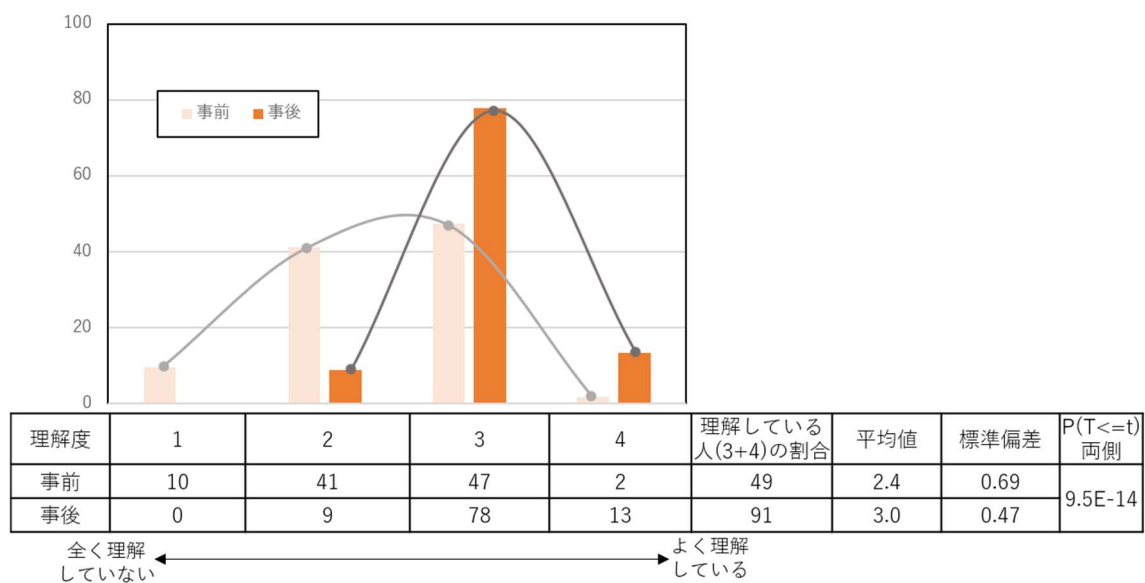
一方で、「児童虐待の防止についての理解」は、研修後の標準偏差の値も依然として大きく、一定の受講者の理解は得られたものの、理解が不十分であると認識している層も残ったため、研修の継続が必須の課題であるといえるであろう。

また、理解度を測定する 13 種類の設問中「子どもの発達を踏まえた保育実践の理解」「保育所等における保護者支援・子育て支援の理解」「児童虐待の防止についての理解」を除く 10 種類について、理解度の平均値が事前から事後へ有意に上昇し(t 検定より)、標準偏差が小さくなったところから理解度のばらつきが小さくなったことが示された。結果、受講者全体は 10 種の課題について研修後に理解度が有意に上昇したといえた。

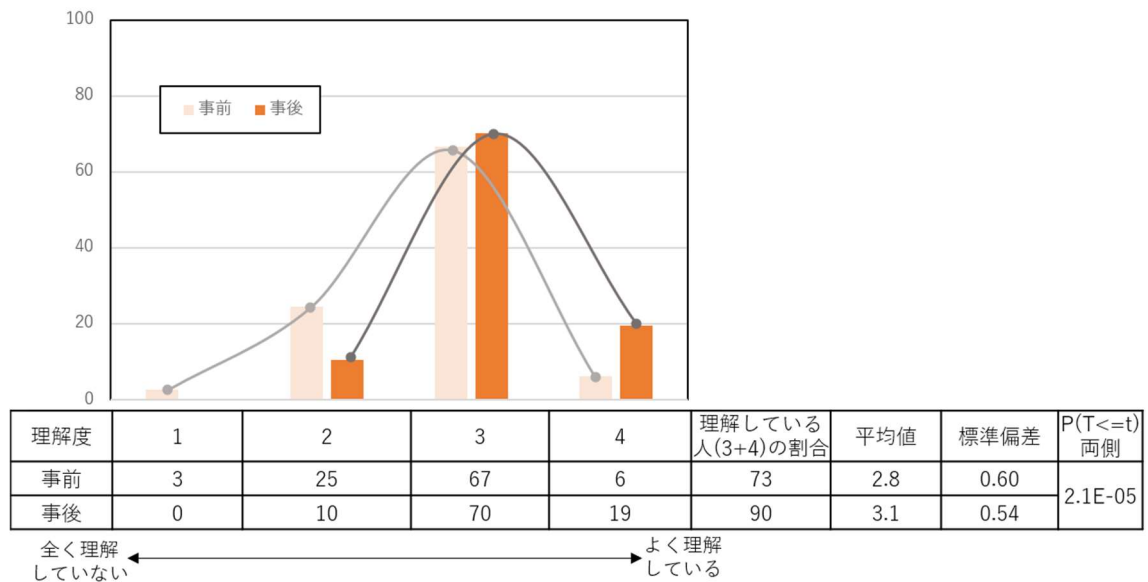
・保育制度の動向の理解



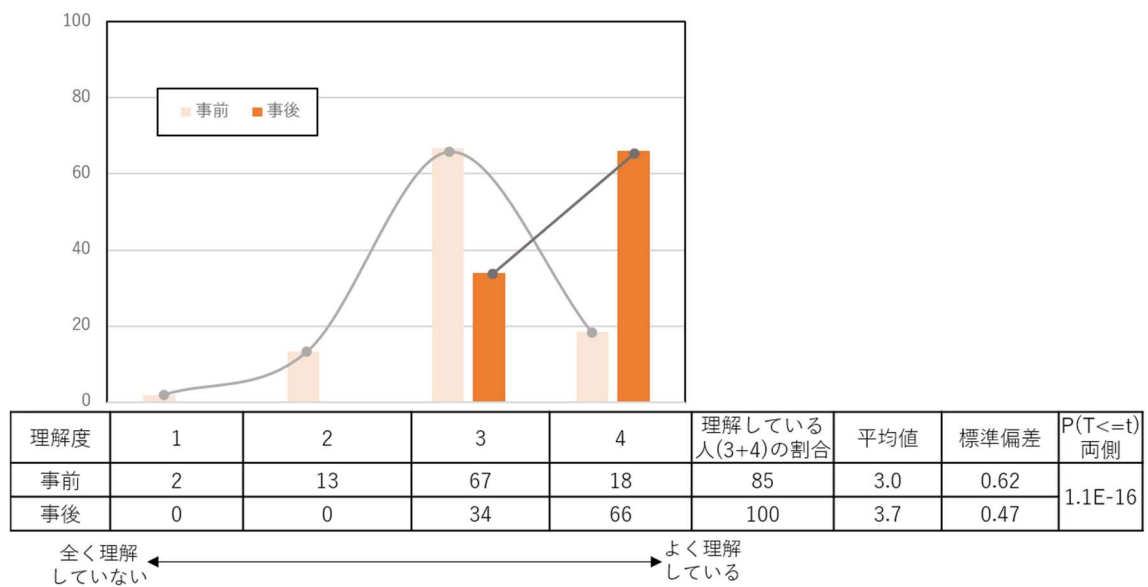
・関係法令等の理解



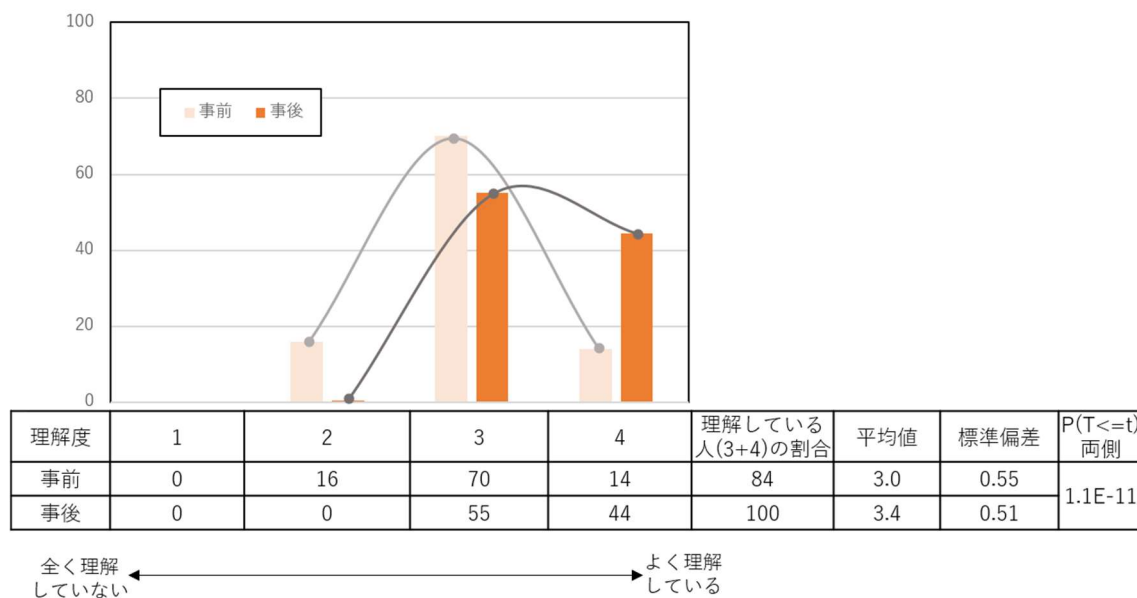
・保育所等における各種ガイドラインの理解



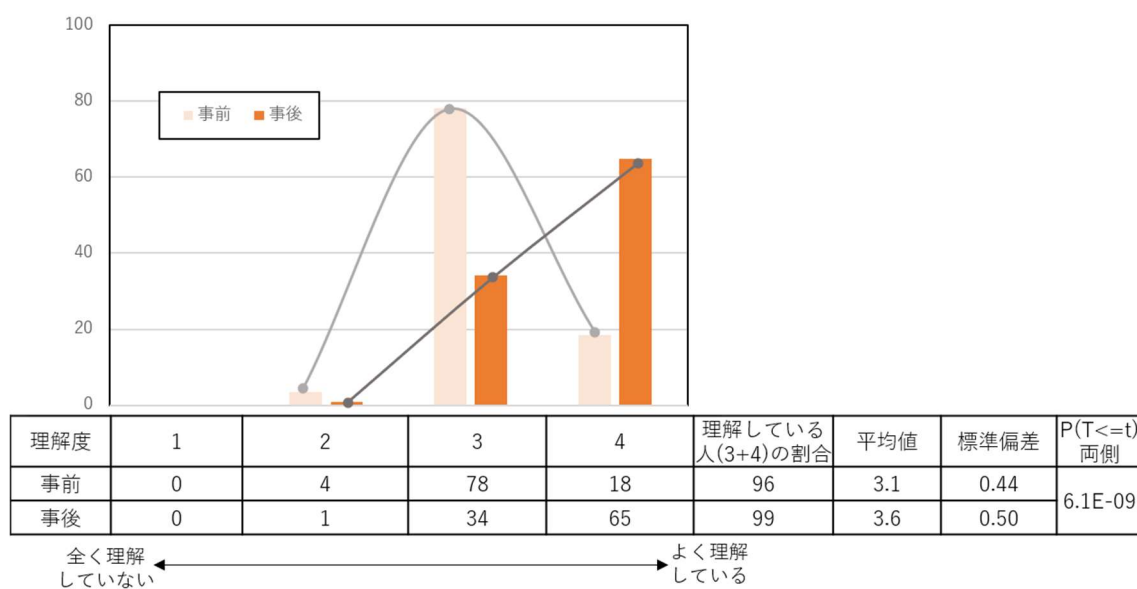
・保育所等における主任保育士の役割と責務の理解



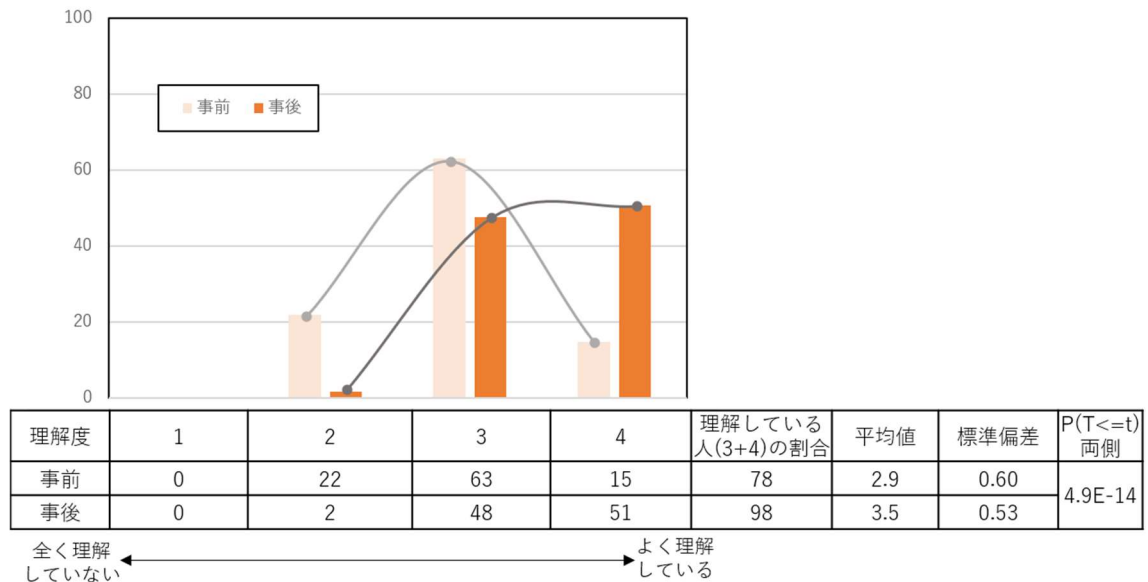
・保育現場における課題への対応の理解



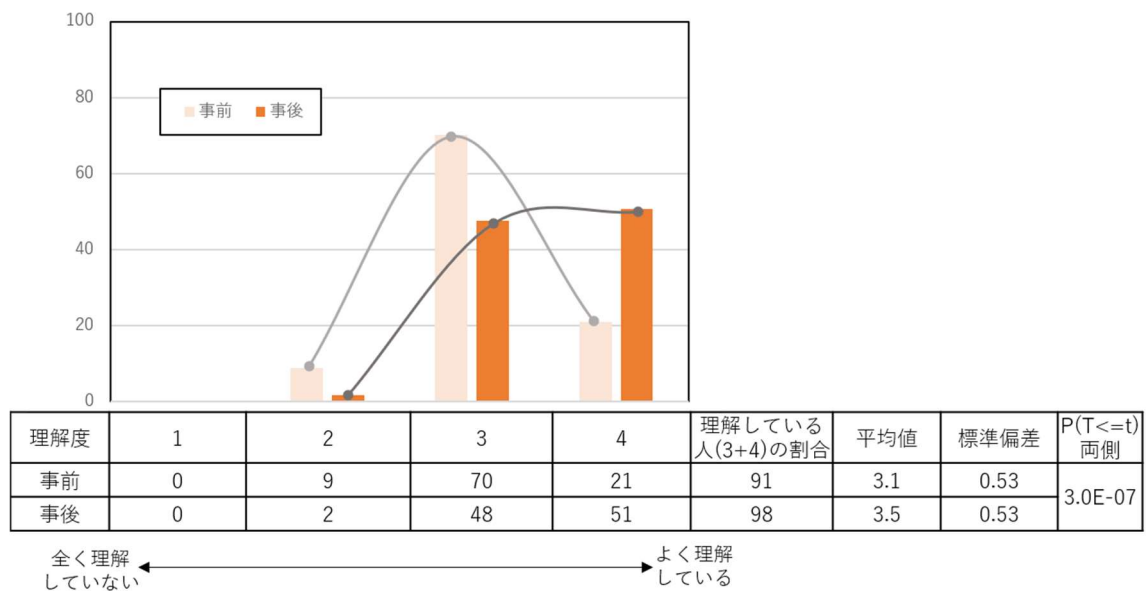
・子どもの発達を踏まえた保育実践の理解



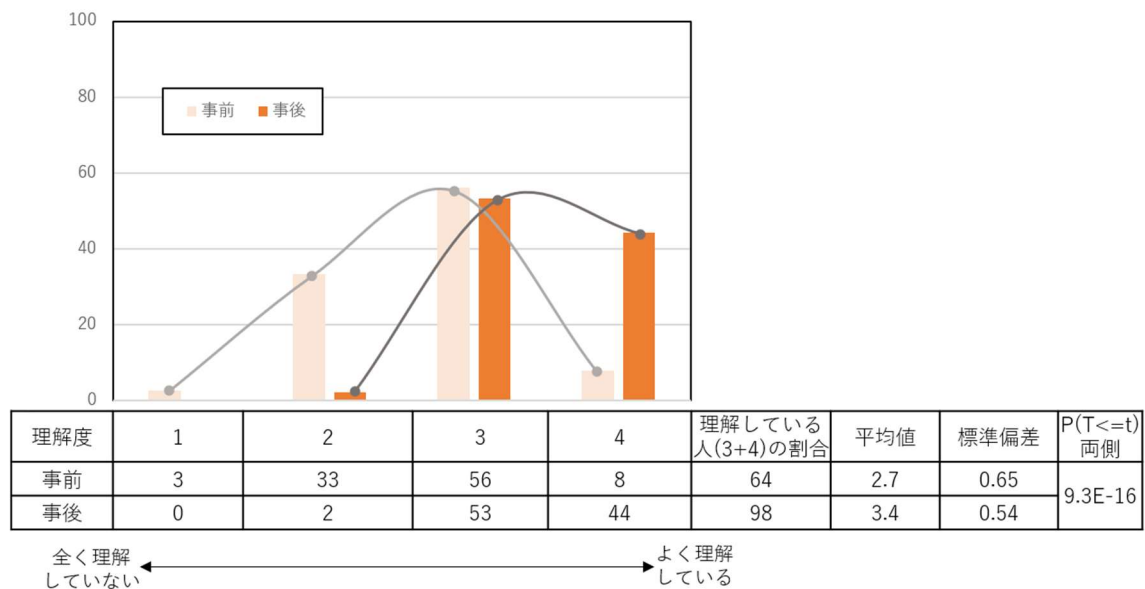
・保育の質の向上を図るための組織的な対応の理解



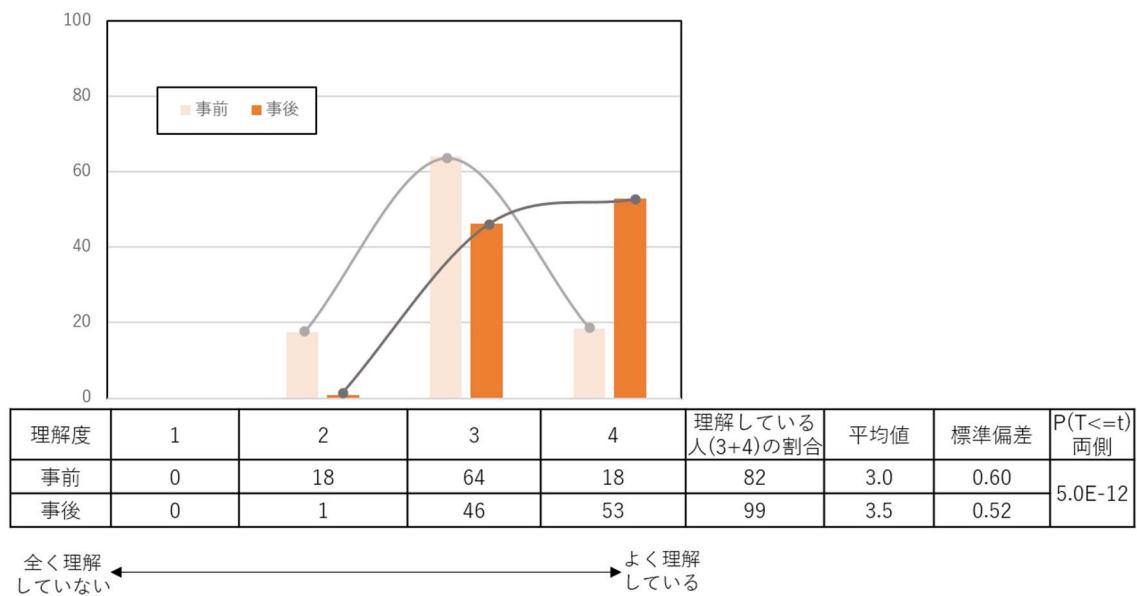
・保育所等における保護者支援・子育て支援の理解



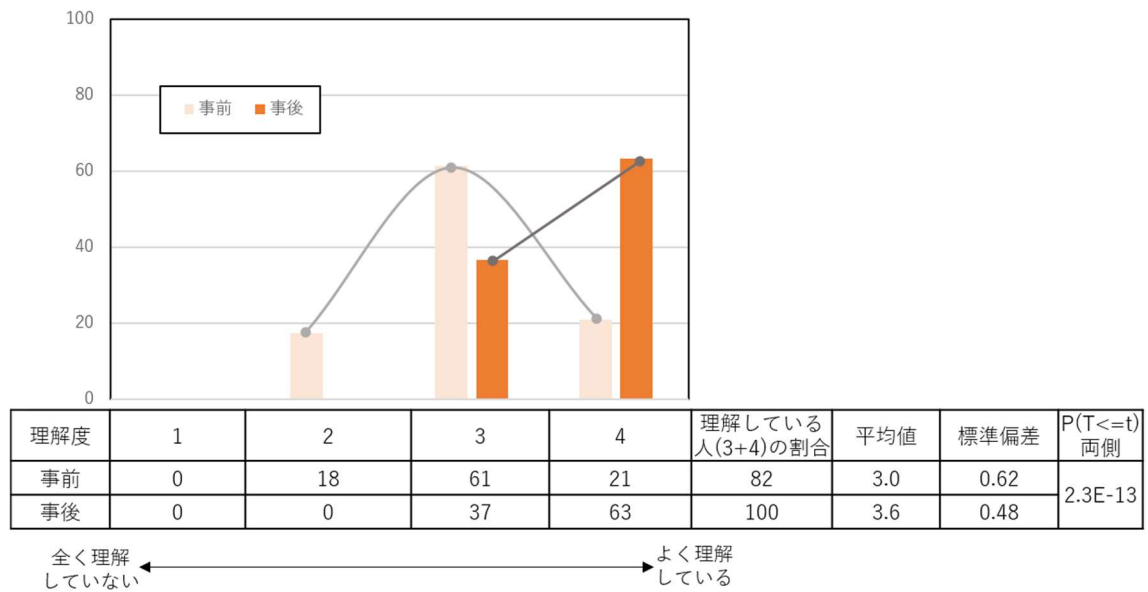
・保育相談支援の実践の理解



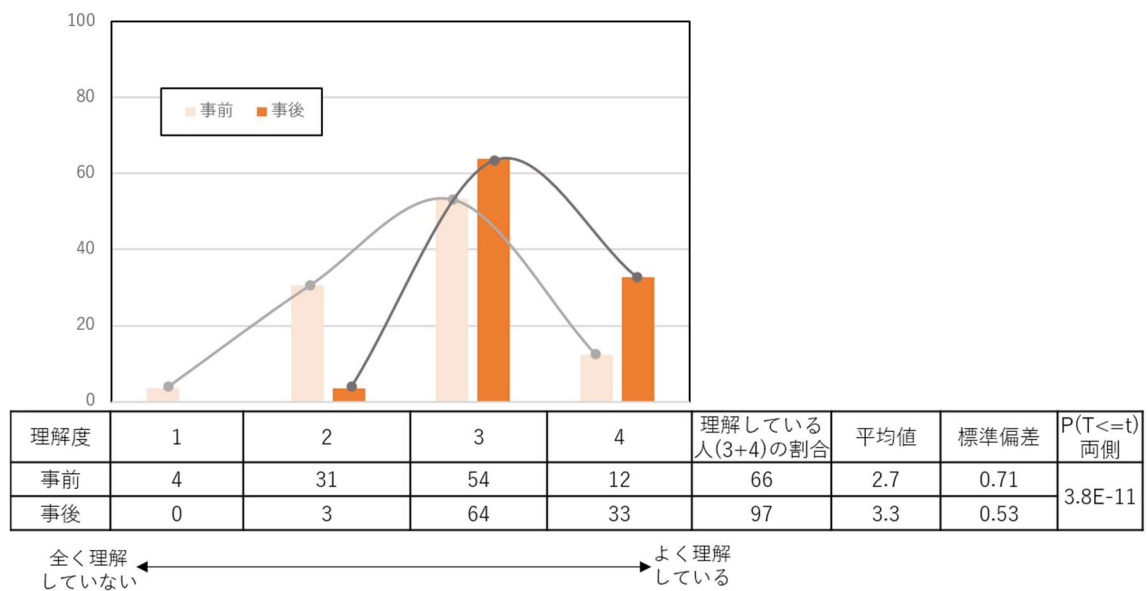
・保育現場におけるリーダーシップの理解



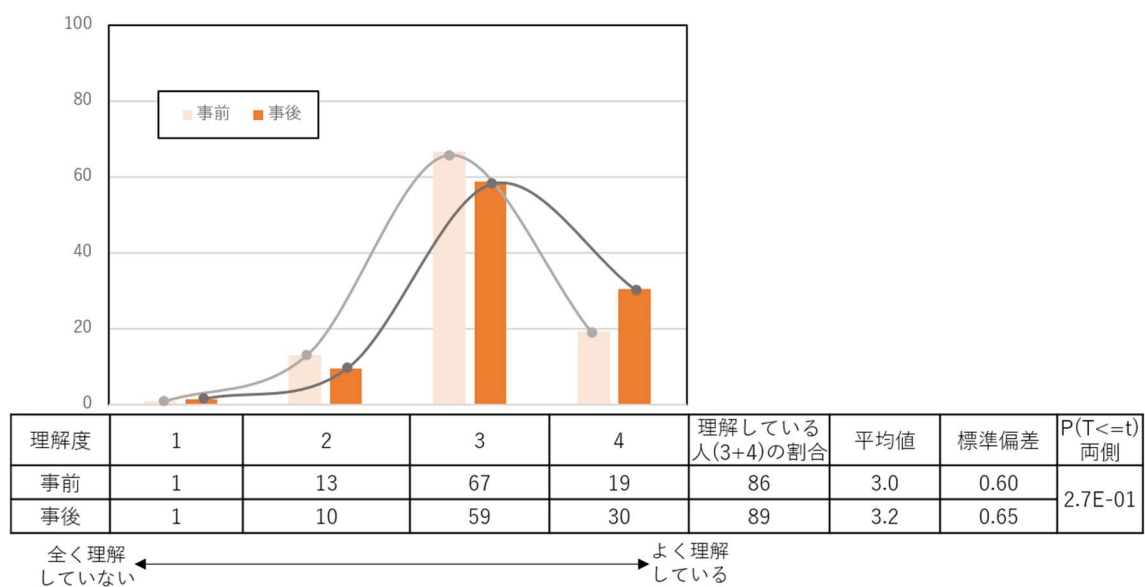
・職員の資質向上の理解



・職場における研修の企画立案・実施の理解



・児童虐待の防止対策についての理解



3.3.2 保育所等実習指導研修

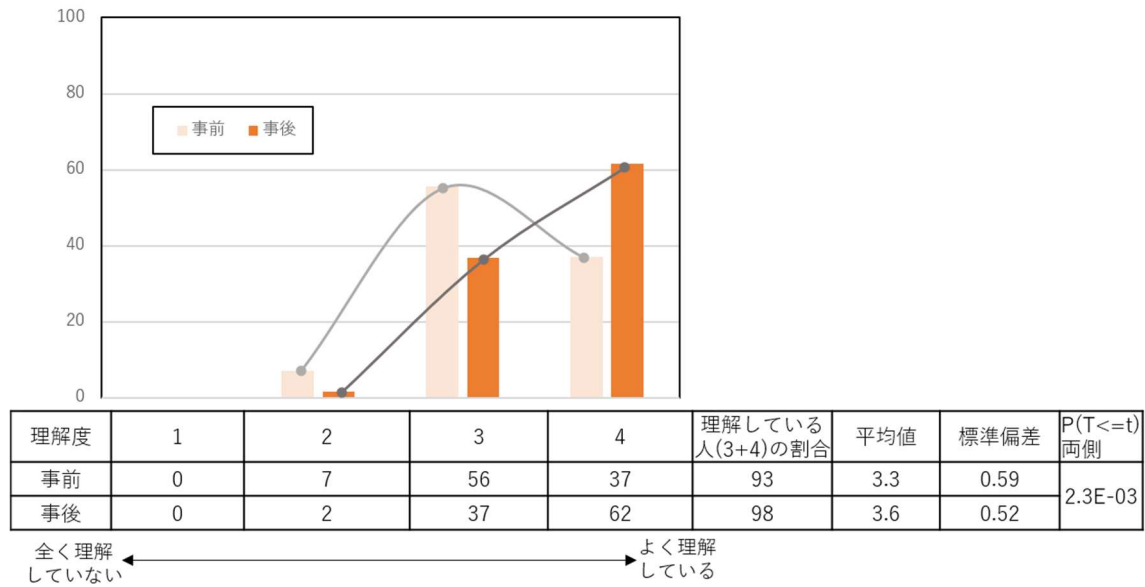
3.3.2.1 保育士等実習指導研修会

本研修会は他の研修会に比べて、研修前の理解度を表す平均値の値が全体的に低かったことが特徴として挙げられる。中でも研修前の理解度が最も低かったのは「効果的な保育所実習指導の実例についての理解」で 2.1 の値であった。しかし、研修後は 1.6 ポイントもの上昇で 3.7 となり、研修効果が非常に高かったことがいえた。

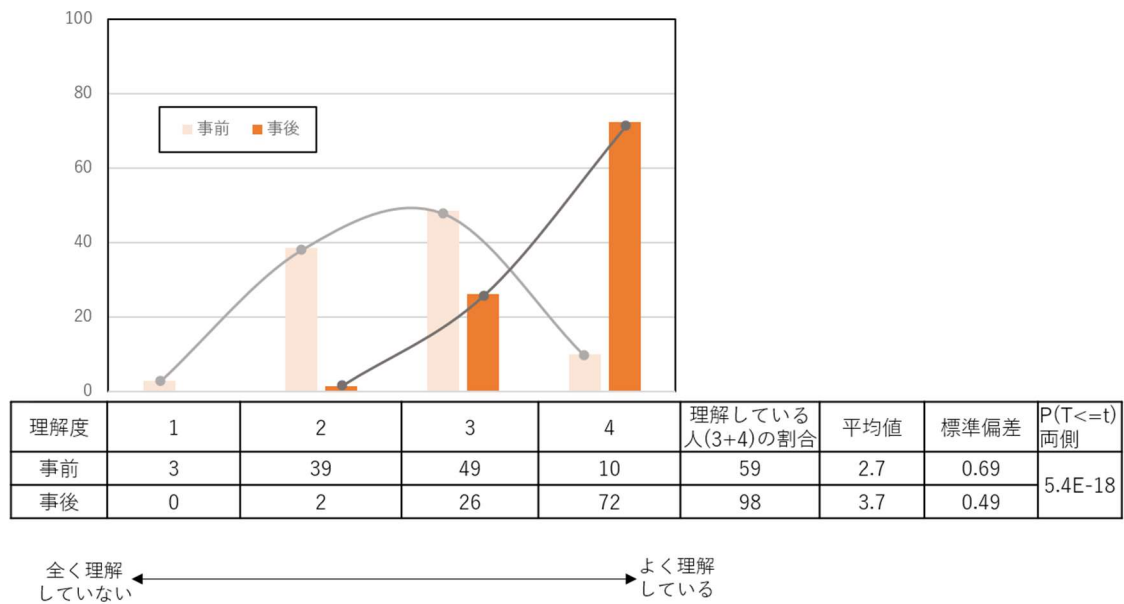
「保育所等における保育時実習指導の現状についての理解」は、研修後は 3.8 まで上昇し標準偏差も非常に小さくなったことから、ほとんどの受講者がよく理解できたといえる。

また、理解度を測定する 12 種類の設問全てについて、理解度の平均値が事前から事後へ有意に上昇し(t 検定より)、標準偏差が小さくなったところから理解度のばらつきが小さくなったことが示された。結果、受講者全体は 12 種の課題について研修後に理解度が有意に上昇したといえた。

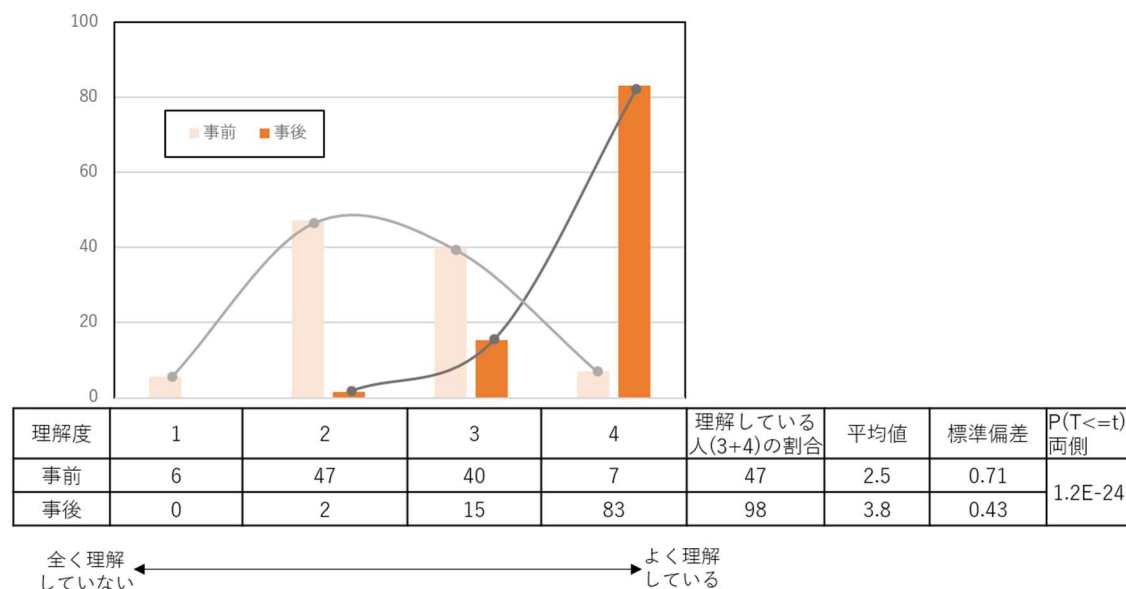
・保育所等が担う社会的役割についての理解



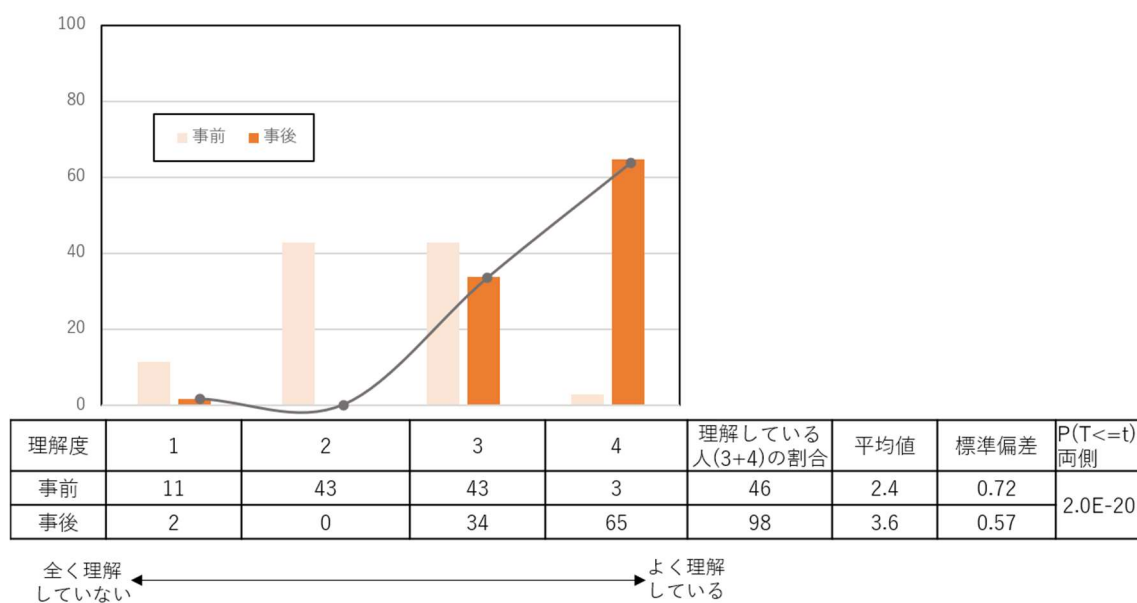
・保育者養成の動向についての理解



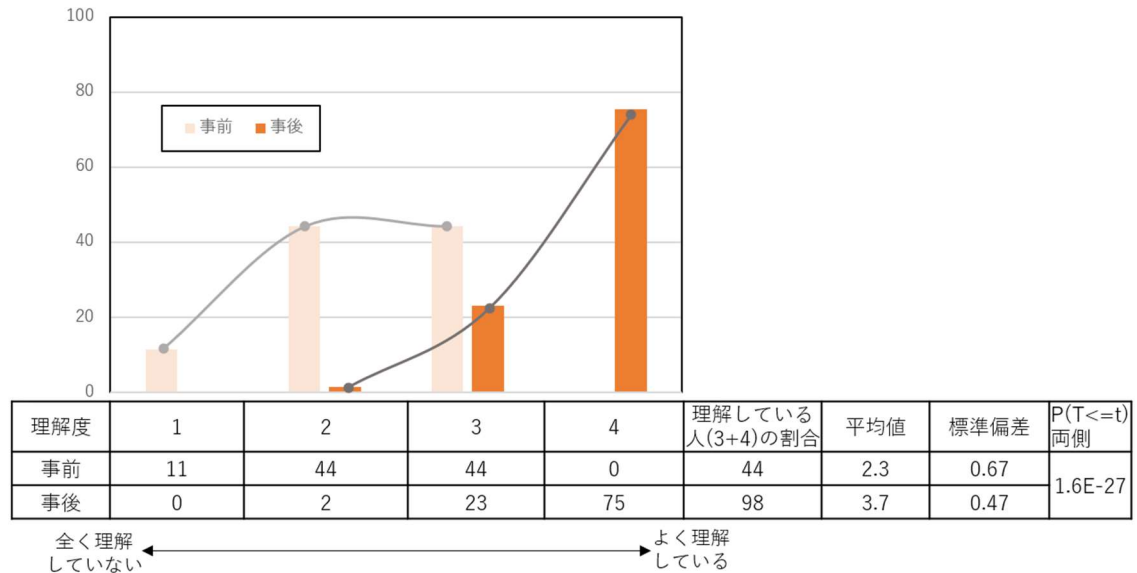
・保育所等における保育所実習指導の現状についての理解



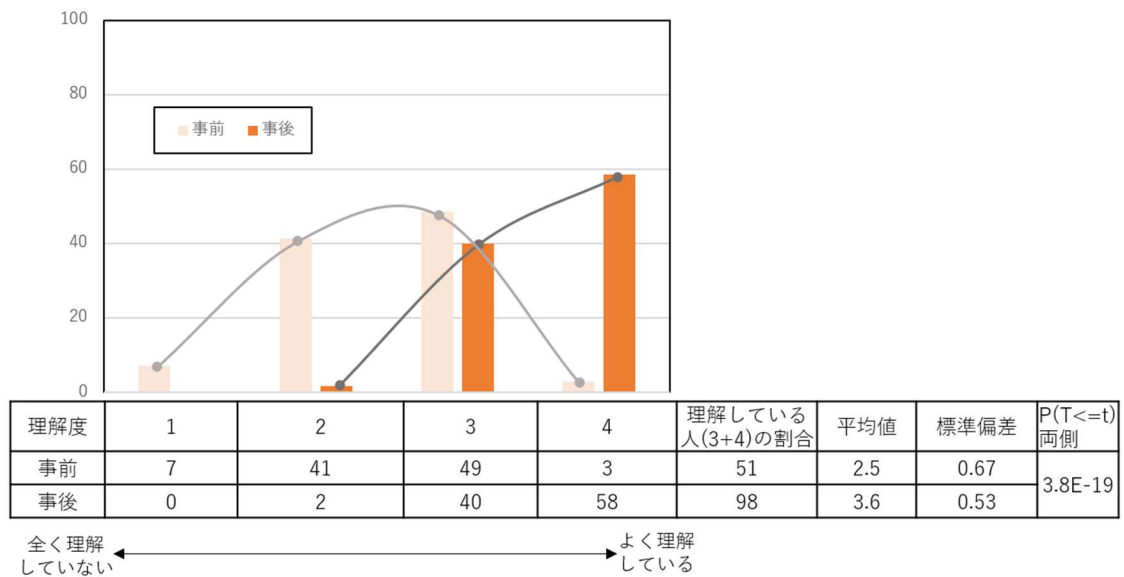
・保育実習の課題の整理の理解



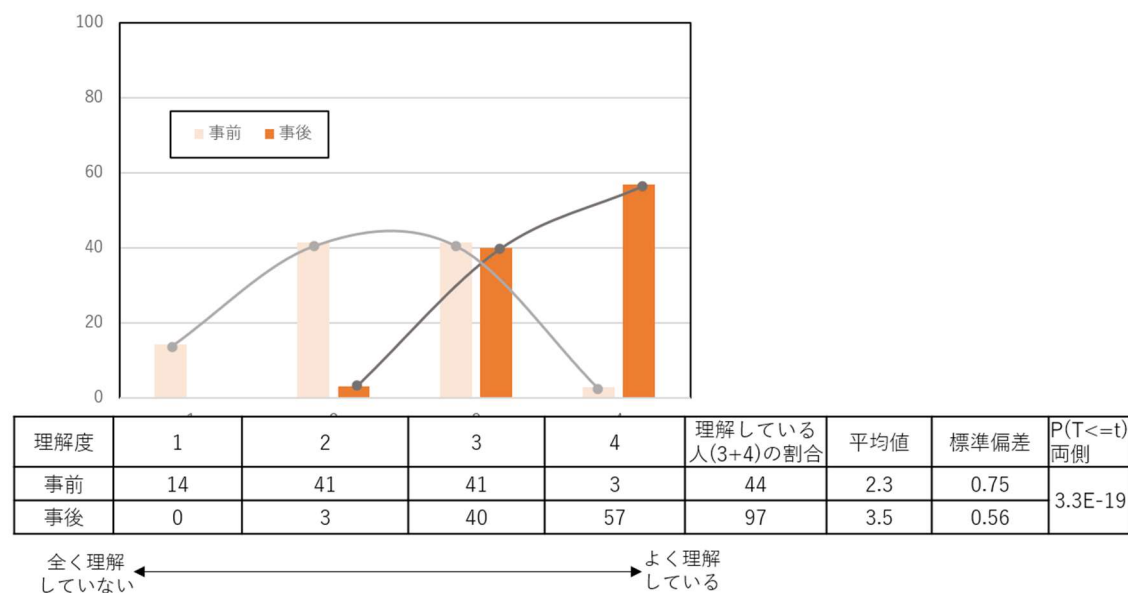
・実習生の実態を踏まえた実習についての理解



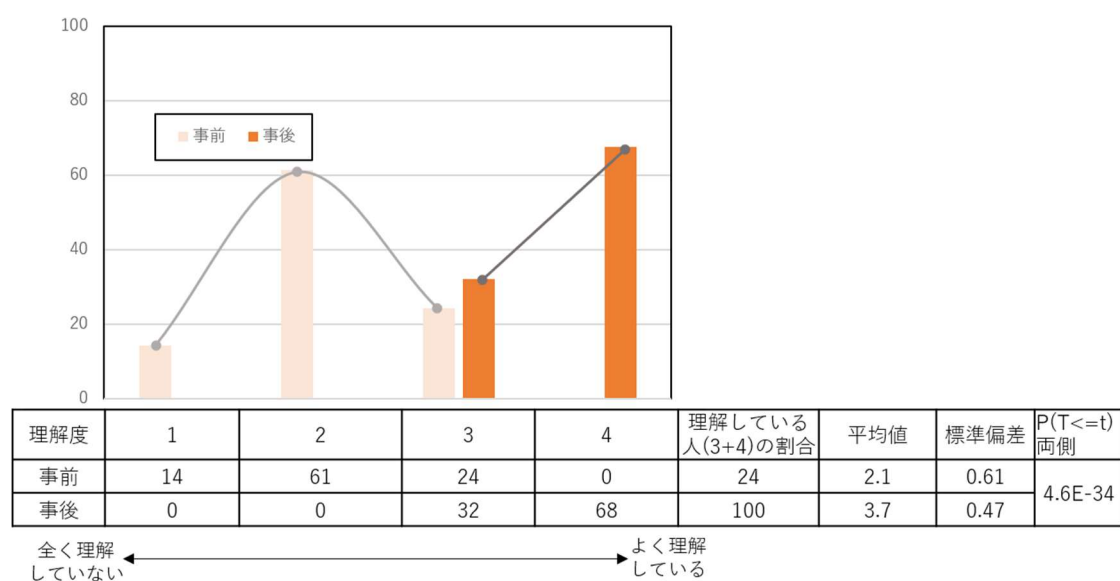
・保育実習の目的と保育実習実施基準の理解



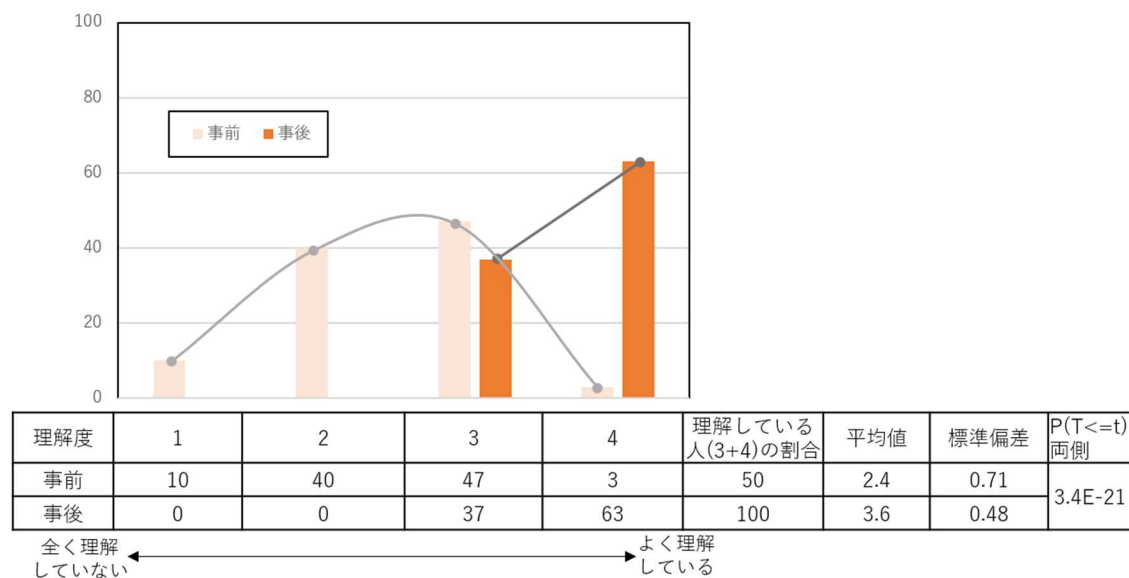
・養成校との連携についての理解



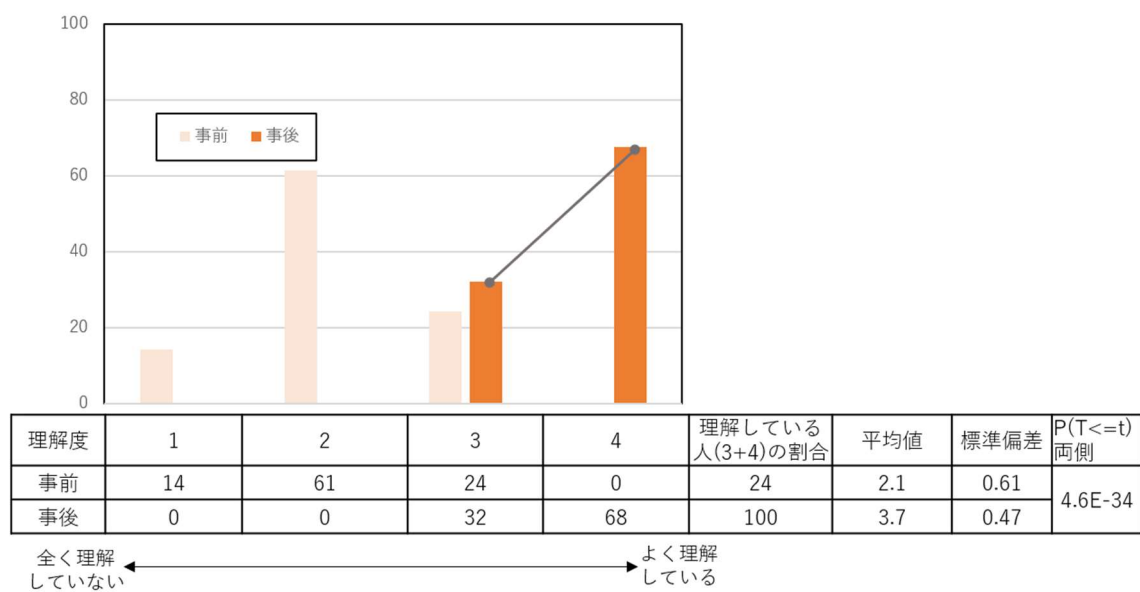
・実習生の受け入れ体制についての理解



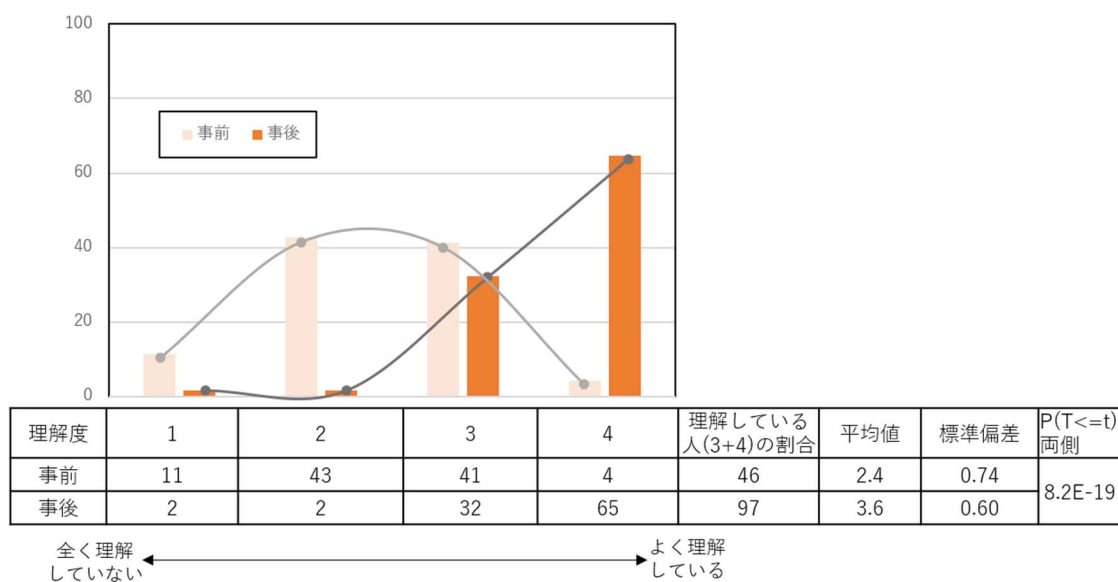
・保育所実習指導の内容と指導法(記録・評価・指導等)の理解



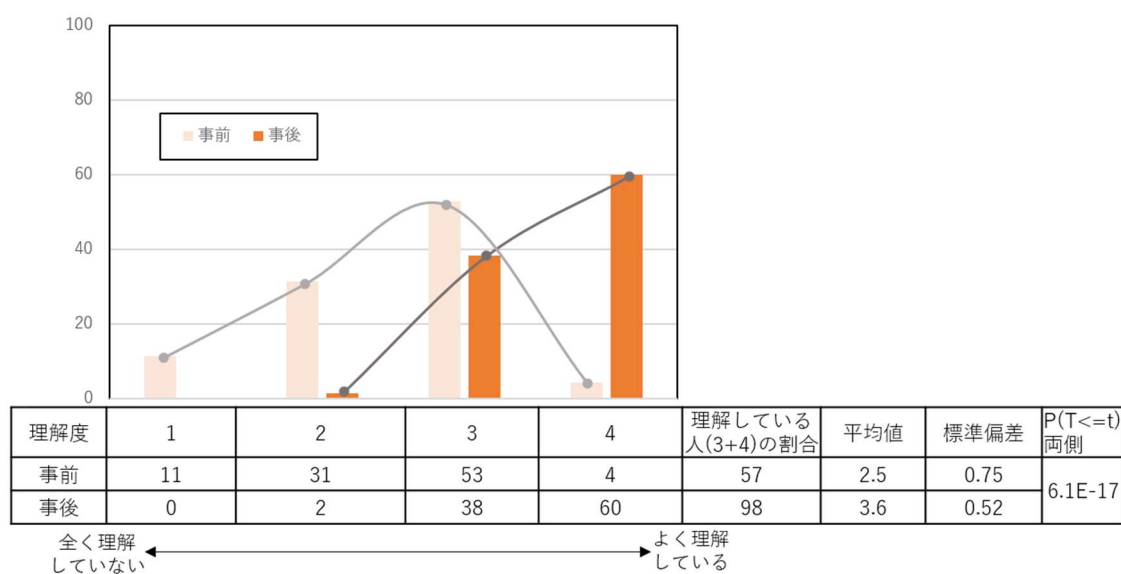
・効果的な保育所実習指導の実例についての理解



・養成校と保育所等の協働による職員の資質向上についての理解



・保育実習及び実習指導の実践の理解



4 振り返りと課題感、対応策について

① 全体スケジュール

8月に委託し、会場手配、講師人選、依頼、告知から受講者管理、運営に関して、適宜主催者に相談しながら実施した。引き続き、全てのスケジュールは下記の通りである。

■全研修実施状況(太字:主任研修)

【初任主任保育士研修 東京会場】	2019年11月20日～22日：133名
【初任保育所長等(就任予定者)大阪会場】	2019年11月25日～27日：57名
【中堅主任保育士研修 大阪会場】	2019年12月3日～5日：32名
【初任保育所長等(就任予定者)東京会場】	2019年12月16日～18日：129名
【初任保育所長等研修 東京①会場】	2020年1月20日～22日：261名
【中堅主任保育士研修 東京会場】	2020年1月27日～29日：113名
【初任保育所長等研修 大阪会場】	2019年1月27日～29日：172名
【初任保育所長等研修 東京②会場】	2020年2月5日～7日：308名
【中堅保育所長等研修 東京会場】	2020年2月17日～19日：58名
【保育所等実習指導研修 東京会場】	2020年2月12日～13日：87名
【初任主任保育士研修 大阪会場】	2020年2月19日～21日：101名



ペルサル新宿スカイルームでの様子(11/20, 左は講義中、右はグループワーク)



喜山倶楽部（日本教育会館9F）での様子(1/28, 左は講義中、右はグループワーク発表)



TOG大阪梅田での様子(11/26, 左は講義中、右はグループワーク)



TKPガーデンシティ大阪梅田での様子(2/19, 左は講義中、右はグループワーク発表)

② 周知広報

42 都道府県と 1741 の自治体に開催要項をお届けし、受講者の申込みに繋がられた。来年度は、更なる受講者獲得のため、弊社保育園約 300 ケ所(保育士数約 5000 人)への告知も積極的に行い、無料の集客ツール等(エクスプレスにて優先的に UP する有料コースなども検討)を活用し、インターネット環境による情報格差を減らしていきたい。

③ 会場

本年の特殊要因として、インフルエンザの蔓延時期の前倒し、また 2 月に入ってから、新型コロナウイルスの急速な感染拡大に関して、多くのお問い合わせを頂き、2 月中旬以降の研修では、実際にコロナウイルス感染への懸念のため、多い場合に 4~5 名の欠席が見られた。厚労省としての対応や姿勢を聞かれる場合もあり、主催者にもご相談し、事務局の対応として、下記の通りとした。

1. 事前のご案内メール:発熱や咳などの体調不良が確認された場合、無理をされないようお伝えする。
2. 当日の体調不良は、速やかに事務局へお伝えいただく
3. 会場にウイルス除去スプレーやクレベリンを複数設置
4. お忘れの場合、マスクをご利用いただけるよう設置
5. 頻繁な会場の換気

以上を実施し、安心して受講していただける環境配備に努めた。

また、本研修は男性が多く受講される特徴があり、去年の経験から、3 日間に亘る学習環境に適した十分なスペース、適切な音響、周囲の食事環境の配慮、トイレの設置状況等、詳細に配慮した会場で開催を行った。更に継続していきたい。

④ 講義テキスト

本年度は、厚労省各検討会に参画されている講師陣の多くにご依頼申し上げた。研修の趣旨に沿ったテキストをご提出していただけた中で、受講者の利便性を重視し、出典の明記や最新版か否かの確認は細かく行った。締め切りを過ぎてのご提出も多くあったため、先生ごとの情報をノレッジとしてマネジメントし、早め早めのリマインドに留意したい。

⑤ 遅刻者、早退者の対応

遅刻や早退が散見された。事由は 2 種類あり、数分でも遅延証明を提出するケース、やむ負えない飛行機の欠航や遅延などのケースと、全日程 1 時間単位で遅れる方もいた。理由を厳正に判断し、主催者にご相談しながら適切に運営

できた。

⑥ 証明書、事前・事後課題の提出

各研修ともに、10名前後の事前課題、事後課題の未提出が確認できた。個別のケースをたどると、意図せず忘れたしまった参加者、または今から提出をする、そのため修了書を発行してほしい等、様々なケースが見てとれた。

1人でも多くの方に修了書を発行すべく、事前・事後共にホームページを再オープンする等、救済措置を行ったと

同時に、令和2年度における研修では、会場でのリマインド(伝わるアナウンスの実施)の強化、またはメールでも後押しを図る等、継続した。

現在までに、全研修分の修了書作業は終了しており、2月後半の研修については3月下旬に送付される。

※主催者、講師陣には多大なるご協力をいただき、本研修を実施することが可能となりました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

以上